

Oracle9iAS Wireless

管理者ガイド

リリース 2 (9.0.4)

2003 年 10 月

部品番号 : J07732-01

Oracle9iAS Wireless 管理者ガイド, リリース 2 (9.0.4)

部品番号: J07732-01

原本名: Oracle9iAS Wireless Administrator's Guide, Release 2 (9.0.4)

原本部品番号: B10685-01

Copyright © 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	xv
関連ドキュメント	xvi

第 I 部 Oracle Collaboration Suite

1 概要

Oracle Collaboration Suite へのワイヤレスおよび音声アクセス	1-2
ワイヤレスおよび音声の機能	1-2
カレンダーおよびアドレス帳へのワイヤレスおよび音声アクセス	1-3
ファイルへのワイヤレスおよび音声アクセス	1-3
所在管理	1-3
Instant Messaging	1-3
ワイヤレスおよび音声アクセスによる社員の利点	1-4
マルチチャネル・アクセス	1-4
個人的な生産性の向上	1-4
ボイス対応サービス	1-4
所在認識型の通信	1-4
レスポンス時間の短縮	1-5
セキュリティとパフォーマンス	1-5

2 アクセス・ポイントの構成

Pocket PC および WAP デバイスの使用可能化	2-2
Pocket PC デバイス	2-2
ネットワークへの接続	2-2
Internet Explorer を使用した Wireless サーバーへのアクセス	2-3
Internet Explorer ホームページの設定	2-3
WAP デバイス	2-3
WAP 電話の構成	2-3
ボイスの使用可能化	2-4
前提条件	2-4
プラットフォームの要件	2-4
ハードウェア	2-4
オペレーティング・システム	2-5
サードパーティのソフトウェア	2-5
Nuance ソフトウェア	2-5
marconi_voice.ear	2-5
音声ログイン	2-6
音声ログインのサンプル・ユースケース	2-6
メイン・メニュー・サービス	2-7
メイン・メニューのサンプル・ユースケース	2-7
ASK の使用可能化	2-7
概要	2-7
電子メール・ベースの（双方向ポケットベル）アクセスの使用可能化	2-8
SMS 電話アクセスの使用可能化	2-8
サービス短縮名の変更	2-8
メッセージングの使用可能化	2-9
Oracle ホストのメッセージング配信	2-9
Oracle ホスト以外のメッセージング配信	2-9
電子メール・ベースのメッセージ配信	2-10
SMS 電話メッセージ配信	2-10
FAX 配信	2-11
ボイス配信	2-11

3 連絡ルールの管理

概要	3-2
システム・アーキテクチャ	3-3
PIM 通知ディスパッチャの管理	3-4
Oracle Enterprise Manager からの PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの管理	3-4
Oracle9iAS Wireless PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの作成	3-4
PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの削除	3-5
PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止	3-5
PIM 通知ディスパッチャのための Oracle9iAS Wireless の構成	3-7
Wireless & Voice 設定の管理	3-8
連絡ルールとは	3-8
連絡ルールの作成	3-9
音声アクセスおよびアラートの設定	3-9
Wireless & Voice の詳細設定	3-10
連絡ルールの追加	3-11
連絡ルールの編集	3-12
連絡ルールの削除	3-12
通信デバイスの追加	3-13
電子メール・アドレスの追加	3-13
FAX 番号の追加	3-13
携帯電話の追加	3-13
ポケットベルの追加	3-14
PDA の追加	3-14
電話番号の追加	3-14
通信デバイスの編集	3-14
電子メール・アドレスの編集	3-14
FAX 番号の編集	3-15
携帯電話の編集	3-15
ポケットベルの編集	3-15
PDA の編集	3-15
電話番号の編集	3-16
通信デバイスの削除	3-16
個人連絡ルールの管理	3-16
Web ベースのユーザー・インタフェースからの連絡ルールの選択	3-16
デバイスからの連絡ルールの選択	3-17
デバイスからの連絡ルールの選択	3-17

SMS または電子メール・ベースのデバイスからの連絡ルールを選択	3-19
ボイス・アプリケーションを使用した連絡ルールを選択	3-21

4 ボイスおよびワイヤレス用のモバイル・サービスの構成

構成が必要な内容	4-2
コンテンツ・マネージャを使用したモバイル・サービスの構成	4-3
非同期対応モバイル・サービスの構成	4-3
アドレス帳	4-4
カレンダー	4-8
ディレクトリ	4-10
FAX	4-17
Oracle Files	4-21
Instant Messaging	4-23
電子メール	4-25
ショート・メッセージ	4-30
ビジネス・ディレクトリ	4-31
運転方向	4-32
ロケーション・ピッカー	4-33
マップ	4-35
Applications Setup	4-35
登録済の URL	4-35
Microsoft Exchange Server および Lotus Domino Server に接続するための Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションの構成	4-38
Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Microsoft Exchange Server の構成	4-39
Oracle9iAS Wireless PIM ASP の構成	4-39
Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Lotus Domino の構成	4-40

5 グローバリゼーション

概要	5-2
ユーザーのロケールの決定	5-2
ログイン後	5-2
ログイン前	5-2
Wireless Web サーバー	5-3
Webtool	5-3
非同期サーバー	5-3
ユーザー・プロファイルのロケールの設定	5-4

サイト・ロケールの設定	5-4
オンライン・ヘルプに使用可能な言語	5-4
ロジカル・デバイスのエンコーディングの決定	5-4
HttpAdapter ベースのサービス	5-5
HttpAdapter ベース・サービスのリクエストのエンコーディング	5-5
HttpAdapter ベース・サービスのレスポンスのエンコーディング	5-5
ドライバ・エンコーディング	5-5
ボイス・アプリケーションのローカライズ	5-5
Oracle ロゴ・アイコンの変更	5-7
ロゴ・ファイル名の変更	5-8

第 II 部 Oracle9iAS Wireless ツール・ガイド

6 Oracle9iAS Wireless ツール

概要	6-2
サービス・デザイナ	6-5
コンテンツ・マネージャ・ツール	6-7
ユーザー・マネージャ	6-7

7 ロジカル・デバイスの管理

サービス・デザイナの概要	7-2
サービス・デザイナへのログイン	7-4
ロジカル・デバイスとは	7-6
ロジカル・デバイスの検索	7-7
ロジカル・デバイスの作成	7-7
手順 1: ロジカル・デバイスの基本情報の入力	7-8
手順 2: 適切なトランスフォーマの選択	7-9
手順 3: ユーザー・エージェントの追加	7-9
手順 4: ロジカル・デバイスのデバイス属性の設定	7-10
手順 5: ログイン・ページの作成	7-11
手順 6: エラー・ページの作成	7-12
ロジカル・デバイスの変更	7-12
ロジカル・デバイスの削除	7-12

8 ワイヤレスおよびボイス・アプリケーションの管理

コンテンツ・マネージャの概要	8-2
コンテンツ・マネージャへのログイン	8-3
モバイル・サービス・パラメータの構成	8-3
リポジトリ・オブジェクトの検索	8-4
モバイル・サービスの編集	8-6
モバイル・サービスの OMP URL の編集	8-9
入力パラメータの編集	8-9
非同期エージェント機能の編集	8-11
モバイル・サービスの構成	8-12
モバイル・サービスの削除	8-12
モバイル・サービスのテスト	8-13
サービスのデバッグ	8-13
モバイル・サービスの移動	8-14

9 ユーザーの管理

ユーザー・マネージャの概要	9-2
ユーザー・ロールの割当て	9-2
ユーザーが Wireless Webtool にアクセスできるようにする	9-4
ユーザー・マネージャへのログイン	9-5
ユーザー・マネージャの使用	9-5
ユーザーの検索	9-6
検索の絞込み	9-6
ユーザー情報の表示	9-7
アクティビティ・ログの表示	9-7
時間フレームの選択	9-9
アクティビティ・ログの印刷	9-9
ユーザーの作成	9-10
ユーザー・プロフィールの編集	9-11
Netscape 4.7 以下を使用したローカライズ済言語での UTF-8 ページの表示	9-11
グループの管理	9-12
グループの作成	9-12
グループ名の編集	9-12
グループの削除	9-12

第 III 部 システム管理ガイド

10 システム管理の概要

ボイスおよびワイヤレス管理の概要	10-2
OEM を使用した Wireless システム管理へのアクセス	10-2
Oracle Enterprise Manager の使用	10-3
コンポーネントの実行	10-3
Oracle Enterprise Manager からのコンポーネントの起動と停止	10-3
Oracle Enterprise Manager からの Wireless の起動と停止	10-4
Wireless サーバーの管理	10-5
Wireless プロセスへのアクセス	10-6
Wireless 管理からの移動	10-8
Wireless サイトの管理	10-9

11 サーバー管理

Wireless サーバーの管理	11-2
サーバー・プロセスの表示	11-2
メッセージング・サーバー・プロセスの開始と停止	11-3
パフォーマンス・モニター・プロセスの開始と停止	11-4
PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止	11-4
ログ・ファイルの表示	11-5

12 サーバー構成

現在のホストのサーバー構成	12-2
サーバー上の非同期サーバー・プロセスの管理	12-2
サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの管理	12-3
Wireless サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの作成	12-3
Wireless サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの削除	12-3
メッセージング・サーバー・プロセスの構成	12-3
プロセス認証の構成	12-3
JDBC 接続プールの構成	12-4
システム・ロギングの構成	12-4
ドライバ・インスタンスの構成	12-5
メッセージング・サーバー・プロセスへのドライバ・インスタンスの追加	12-5
ドライバ・インスタンスの編集	12-6

ドライバ・インスタンスの削除	12-6
サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの管理	12-6
Wireless サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの作成	12-6
Wireless サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの削除	12-7
パフォーマンス・モニター・プロセスの構成	12-7
プロセス認証の構成	12-7
JDBC 接続プールの構成	12-8
スレッド・プールの構成	12-8
サーバーからの PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの管理	12-8
Wireless サーバー上の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの作成	12-8
PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの削除	12-9
Wireless サーバー上の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの構成	12-9
サイト全体のサーバーの構成	12-9
Wireless Web サーバーのサイト・プロセスの構成	12-10
プロセス属性の構成	12-10
フォルダの構成	12-10
Applications イメージ・ディレクトリの構成	12-12
イベントおよびリスナーの構成	12-12
フックの構成	12-15
非同期サーバーのサイト全体にわたるプロセスの構成	12-17
非同期サーバー・プロセス属性の構成	12-17
非同期サーバーの構成	12-17
非同期サーバーのワーキング・スレッドの構成	12-18
非同期サーバーのメッセージング・サーバー・クライアントの構成	12-18
メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成	12-21
メッセージング・サーバーのデフォルト構成の設定	12-21
サイトのメッセージング・サーバー・ドライバの構成	12-21
パフォーマンス・モニターのサイト全体にわたるプロセスの構成	12-23
その他の構成	12-25
ロギング・ディレクトリの構成	12-25
プロセス・デバッグ・フラグの設定	12-26
サイトの管理	12-26
プロキシ・サーバーの構成	12-27
Wireless サイト・ロケールの構成	12-28
システム・ロギングの構成	12-28
ランタイムの構成	12-29
デバイスの構成	12-29

ヘッダー名の削除	12-30
WebCache サーバーのサイト・プロセスの構成	12-30
WAP プロビジョニングの構成	12-32
WAP プロファイルの追加	12-34
WAP プロファイルの編集	12-35
WAP プロファイルの削除	12-36
Wireless Web サーバーの URL の構成	12-36
メッセージング・サーバー・クライアントの構成	12-37
フック・クラスの追加	12-39
フックの削除	12-39
WirelessJDBC 接続プールの構成	12-39
ユーザー・プロビジョニングの構成	12-40
Secure Sockets Layer (SSL) の構成	12-41
Base64 証明書ファイルの追加	12-41
PKCS#7 形式の証明書ファイルの追加	12-41
証明書ファイルの編集	12-41
証明書ファイルの削除	12-41
オブジェクト・キャッシュ同期の構成	12-42
Oracle Applications の構成	12-42
WebCache のリフレッシュ	12-43
マスター・サービスの WebCache のリフレッシュ	12-43
ロジカル・デバイスの WebCache のリフレッシュ	12-44

13 サーバー・パフォーマンス監視

現在のホストのサーバー・パフォーマンス監視	13-2
Wireless Web サーバー・プロセスのパフォーマンス・データ・メトリックの表示	13-3
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-5
非同期サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの表示	13-6
メッセージング・サーバー・パフォーマンス・メトリックの表示	13-7
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-7
メッセージング・サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの表示	13-8
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-9
サイトのサーバー側パフォーマンス監視	13-9
Wireless Web サーバーのサイト全体にわたるプロセスのパフォーマンス・メトリックの表示	13-11
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-12

非同期サーバーのサイト・パフォーマンス・メトリックの表示	13-12
メッセージング・サーバー・プロセスのサイト全体にわたるパフォーマンス・メトリックの表示	13-14
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-15
サイト・パフォーマンスの表示	13-16
パフォーマンス・データのサンプル期間の選択	13-16

14 アクティビティおよびシステム・ロギング

アクティビティおよびシステム・ロギングの概要	14-2
アクティビティ・ロガー内部の概要	14-2
アクティビティ・ログ表の説明	14-4

A よくある質問

Oracle9iAS Wireless サーバー - 一般	A-2
ツール	A-4
メッセージング・サーバー	A-6
非同期サーバー	A-8
他の Oracle9iAS コンポーネントとの相互作用	A-14

用語集

索引

図リスト

3-1	Oracle Collaboration Suite	3-3
3-2	PIM 通知ディスパッチャのアーキテクチャ	3-4
3-3	「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面	3-5
3-4	「PIM 通知ディスパッチャ」画面	3-6
3-5	「プロセス認証およびポート」画面	3-8
3-6	「Wireless & Voice」ボタン	3-9
3-7	Oracle Collaboration Suite からの連絡ルールを選択	3-16
3-8	デバイスからの連絡ルールを選択	3-18
3-9	(デバイスからの) 確認ページ	3-19
4-1	モバイル・サービスの構成パラメータの編集	4-3
4-2	「詳細」ページ	4-13
4-3	「Summary Results」ページ	4-14
7-1	サービス・デザイン上の「マスター・サービス」タブの「フォルダの参照」画面	7-5
7-2	「ロジカル・デバイスの参照」画面	7-6
7-3	(ロジカル・デバイスの)「検索結果」画面	7-7
8-1	「サービスのブラウズ」画面	8-4
8-2	コンテンツ・マネージャ・ツールの「検索結果」画面	8-6
8-3	モバイル・サービスの基本情報の編集	8-7
8-4	モバイル・サービスの URL の編集	8-9
8-5	入力パラメータの編集	8-10
8-6	非同期サービス情報の編集	8-12
9-1	「ユーザーの検索結果」画面	9-5
9-2	アクティビティ・ログのボタン	9-7
10-1	「Instance Home」ページ	10-4
10-2	「Wireless サーバー」タブ	10-5
10-3	「プロセス」画面	10-7
10-4	プロセスの「詳細」画面	10-8
10-5	ナビゲーション・パス	10-8
10-6	「サイト」タブ	10-10
11-1	「Wireless サーバー」タブ	11-2
11-2	「プロセス」画面からの Wireless サーバー・プロセスの表示	11-3
11-3	「システム・ログ・ファイル」画面	11-5
11-4	システム・ログ・ファイルの表示	11-6
12-1	サーバー上の Wireless プロセスの「詳細」画面	12-2
12-2	アプリケーション構成	12-42
13-1	「Wireless サーバー」タブの「レスポンスおよびロード」セクション	13-2
13-2	Wireless サーバー・プロセスの「詳細」画面	13-3
13-3	「サイト」タブの「レスポンスおよびロード」セクション	13-10
13-4	サイト全体にわたるプロセスの「詳細」画面	13-10
14-1	パフォーマンス・ログの相互作用	14-3

表リスト

4-1	FAX アプリケーションに必要なソフトウェア	4-17
4-2	Instant Messaging アプリケーションに必要なサードパーティのソフトウェア	4-23
4-3	ビジネス・ディレクトリ・アプリケーションの要件	4-31
4-4	ロケーション・ピッカー・アプリケーションの要件	4-32
4-5	ロケーション・ピッカー・アプリケーションの要件	4-34
4-6	必須のソフトウェア	4-39
4-7	PIM アプリケーションに対して Lotus Domino を構成するために必要なソフトウェア	4-40
5-1	ロケールの決定	5-3
5-2	エンコーディングの決定	5-4
5-3	ボイス対応アプリケーションの英語オーディオ・ファイルの場所	5-5
5-4	アプリケーションのロケール固有サブディレクトリ	5-6
6-1	Wireless ユーザーのロール	6-2
6-2	Wireless リポジトリ内のオブジェクト	6-5
7-1	ロジカル・デバイスの作成ウィザードの「基本情報」画面のパラメータ	7-8
7-2	「デバイス属性」画面のパラメータ	7-9
8-1	「検索結果」画面の「検索結果」セクションの要素	8-4
8-2	「一般」画面のパラメータ	8-7
8-3	HttpAdapter をベースにしたマスター・サービスの入力パラメータ	8-9
9-1	Wireless ユーザー・ロール	9-2
9-2	「ユーザーの検索結果」画面の要素	9-6
9-3	ユーザー情報	9-7
9-4	非同期ログ	9-8
9-5	アラート・ログの統計情報	9-8
9-6	サービス・ログの統計情報	9-9
9-7	「ユーザーの作成」画面のパラメータ	9-10
12-1	リクエスト、セッションおよびレスポンス・イベントのオプション	12-12
12-2	「フック」画面に一覧表示されるフック	12-15
12-3	メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ	12-18
12-4	「パフォーマンス・モニター構成」画面のパラメータ	12-23
12-5	「WebCache」画面のパラメータ	12-31
12-6	WAP プロファイルのパラメータ	12-32
12-7	メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ	12-37
13-1	「カレント・セッション」画面の要素	13-5
13-2	ランタイム・スレッド	13-5
14-1	サービス・アクティビティ・ログ	14-4
14-2	DATAFEEDER_METRICS	14-5
14-3	アラート・サーバー・アクティビティ・ログ	14-5
14-4	非同期サービス・アクティビティ・ログ	14-6
14-5	メッセージ・ゲートウェイ・アクティビティ・ログ	14-7

はじめに

Oracle9iAS Wireless を使用すると、Oracle Collaboration Suite アプリケーションへのワイヤレス・アクセスが可能になります。この管理者ガイドでは、Oracle Collaboration Suite とともに Oracle9iAS Wireless を使用する方法について説明します。このマニュアルは、次のように構成されています。

- **第1章「概要」**： Oracle Collaboration Suite について紹介し、Oracle9iAS Wireless が Oracle Collaboration Suite をどのようにサポートするかを説明します。
- **第2章「アクセス・ポイントの構成」**： Oracle Collaboration Suite アプリケーションのワイヤレス・アクセスを可能にするために必要な手順を詳しく説明します。
- **第3章「連絡ルールの管理」**： ユーザーが特定の状況における通知の受取り方法を調整できる連絡ルール管理について説明します。
- **第4章「ボイスおよびワイヤレス用のモバイル・サービスの構成」**： Oracle9iAS Wireless のモバイル・サービスについて説明し、Oracle Collaboration Suite アプリケーションとともに使用する際に必要な構成手順を詳しく説明します。
- **第5章「グローバリゼーション」**： Oracle9iAS Wireless で、ロケールおよびデバイスのエンコーディングが決定される方法について説明します。
- **第6章「Oracle9iAS Wireless ツール」**： Oracle9iAS Wireless Webtool について紹介します。
- **第7章「ロジカル・デバイスの管理」**： コンテンツ開発者がサービス・デザイナを使用してリポジトリ内でロジカル・デバイスを作成および管理する方法について説明します。
- **第8章「ワイヤレスおよびボイス・アプリケーションの管理」**： サービス、トピックおよびアラートを作成し、コンテンツ・マネージャ・ツールを使用してそれらをユーザー・グループにパブリッシュする方法について説明します。
- **第9章「ユーザーの管理」**： ユーザー管理ツールを使用してユーザーおよびグループを作成し、それらをサービスにサブスクライブする方法について説明します。

- **第 10 章「システム管理の概要」**： システム管理機能の概要を示します。
- **第 11 章「サーバー管理」**： Wireless プロセスの開始と停止、およびログ・ファイルの表示に関する情報を記載します。
- **第 12 章「サーバー構成」**： サーバー・プロセスおよびサイト全体にわたるプロセスの構成に関する情報を記載します。
- **第 13 章「サーバー・パフォーマンス監視」**： Wireless のパフォーマンス・メトリックについて説明します。
- **第 14 章「アクティビティおよびシステム・ロギング」**： システム・ロギングについて説明します。
- **付録 A「よくある質問」**： よくある質問（FAQ）を一覧します。

関連ドキュメント

Oracle9iAS Wireless の詳細は、次の Oracle ドキュメントを参照してください。

リリース・ノート、インストール関連ドキュメント、ホワイト・ペーパーまたはその他の関連ドキュメントは、OTN-J（Oracle Technology Network Japan）から、無償でダウンロードできます。OTN-Jを使用するには、オンラインでの登録が必要です。登録は、次の Web サイトから無償で行えます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

すでに OTN-J のユーザー名およびパスワードを取得している場合は、次の URL で OTN-J Web サイトのドキュメントのセクションに直接接続できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

- **javadoc**: `.../wireless/doc/javadoc/`
- **Studio**: OracleMobile Online Studio は、ワイヤレス・アプリケーションを迅速に構築、テストおよび配布するための 100% のオンライン環境です。Online Studio を使用すると、開発者、システム統合者または独立系ソフトウェア・ベンダーは、あらゆるデバイスから即時にアクセス可能なモバイル・アプリケーションを短時間で開発できます。Online Studio サイトでは、テクニカル・ペーパーと FAQ を参照できます。
http://technet.oracle.com/hosted_dev/oracle_mobile/content.html にアクセスしてください。

サポートについては、<http://www.oracle.co.jp/support/> にアクセスしてください。

第 I 部

Oracle Collaboration Suite

効果的なモバイル・コンピューティングでは、時間や場所を問わず、ユーザーが必要とする情報がユーザーの指定したデバイスに配信されます。運用コストの削減と新たな収益の創出を目指す企業にとって、モバイル・テクノロジーは未知の可能性を秘めています。この章では、**Oracle Collaboration Suite** へのワイヤレスおよび音声アクセスの概要を説明します。次の項目について説明します。

- **Oracle Collaboration Suite** へのワイヤレスおよび音声アクセス
- ワイヤレスおよび音声アクセスによる社員の利点

Oracle Collaboration Suite へのワイヤレスおよび音声アクセス

Oracle Collaboration Suite には、モバイル社員がどこにいても、どのデバイスからでもあらゆる企業情報に完全アクセスできるようにする包括的な機能セットが備わっています。

Oracle Collaboration Suite では、いつ、どこでも、ワイヤレスまたは音声アクセスによって、任意のデバイスから電子メール、ボイスメール、カレンダー、アドレス帳、タスク、ファイル、企業ディレクトリおよび Instant Messaging にアクセスできます。社員は、あらゆる場所から、携帯電話やその他の携帯情報端末を使用して、電子メールの受信や返信、顧客へのホワイト・ペーパーの送信、または企業ディレクトリ内の他の社員の電話番号の検索を行うことができます。

重要なイベントがカレンダーに追加されたとき、特定の電子メールまたはボイスメールを受信したとき、フォルダ内のドキュメントが更新されたとき、あるいは単にアラーム・サービスとして、社員は携帯情報端末を介して企業と常に連絡をとることができます。

Oracle Collaboration Suite を使用すると、ユーザーはある時点における所在場所、必要とする情報、および通知の受取り方法を定義できます。

ワイヤレスおよび音声の機能

ワイヤレスおよび音声アクセスにより、社員は次のような利点を得ることができます。

- 電子メール、ボイスメール、FAX およびディレクトリへのワイヤレスおよび音声アクセスが可能です。
- どこにいても、どのような携帯情報端末からでも、メールをアクセスし、管理できます。
- 音声アクセスでは、電子メールを耳で聞いて新しいメッセージ要約を取得できます。
- あらゆる携帯情報端末から企業ディレクトリにアクセスできます。このため、電子メールとの統合によって、ユーザーは、企業ディレクトリを参照して特定の連絡先に電子メールを送信したり、企業ディレクトリから受信者リストを編成することができます。
- ユーザー設定項目に基づいて仮想受信ボックスを作成し、携帯情報端末または音声からアクセスする受信ボックスの表示を指定できます。たとえば、ユーザーは仮想受信ボックスを作成（および、デフォルトとして任意の仮想受信ボックスを設定）できます。次に例を示します。
 - **mysenders:** 送信者リストにある送信者からのすべての電子メールを受信します。
 - **urgent:** 「優先度」が HIGH に設定されているか、または件名フィールドに **urgent** というキーワードが含まれたすべての電子メールを受信します。
 - **today:** 過去 24 時間のすべての電子メールを受信します。
 - **voicemail:** すべてのボイスメッセージを受信します。
 - **fax:** すべての FAX を受信します。

カレンダーおよびアドレス帳へのワイヤレスおよび音声アクセス

- あらゆる携帯情報端末から予定およびタスクを管理できます。
- 音声アクセスを使用して新規または更新済の予定のサマリーを再生できます。
- ユーザーは、自分のアドレス帳および連絡先を管理できます。
- 携帯電話からの呼出し機能を使用可能にし、ユーザーがアドレス帳からメッセージの受信者リストを編成したり、電子メール・メッセージに基づいてアドレス帳に連絡先を追加することを可能にします。

ファイルへのワイヤレスおよび音声アクセス

- どこにいても、音声を含むあらゆるデバイスから Oracle Files にアクセスできます。
- Oracle Email と統合し、Oracle Files 添付ファイルにアクセスできます。
- RightFax などのサード・パーティの FAX サーバーを使用した、FAX によるドキュメント印刷を可能にします。
- 添付ファイルをリモートで選択し、電子メール経由でそれを別のモバイル・ユーザーに送信できます。

所在管理

所在管理は、ユーザーの所在によって、特定の時点と場所におけるユーザーへの最適な連絡方法を定義する方法です。これは、ユーザーの都合、デバイスの機能および個人的な設定内容に基づいて定義されます。

Oracle Collaboration Suite を使用すると、ユーザーは、日中の自分の居場所と、その場所にいるときに通知を受け取る方法（デスクトップ、携帯電話またはポケットベル）を定義するプロフィールを作成できます。

Instant Messaging

社員間の連絡は、外出先からでも、携帯情報端末によって、より高速かつ正確に行うことができます。Oracle Collaboration Suite には、社員間のインスタント・メッセージ送信を可能にする機能が備わっているため、ネットワークやハードウェアの依存性について考慮する必要はありません。

ワイヤレスおよび音声アクセスによる社員の利点

マルチチャネル・アクセス

Oracle Collaboration Suite のワイヤレスおよび音声機能の中核となるのは Oracle9iAS Wireless です。これにより、非常に柔軟で高スケーラブルな、信頼性の高いモバイル・インフラストラクチャが市場にもたらされます。Oracle9iAS Wireless は、(音声を含む) あらゆるデバイスからあらゆるアプリケーションへのアクセスを実現するもので、唯一の真のマルチチャネル・プラットフォームです。

Oracle9iAS Wireless では、アプリケーションをあらゆるデバイスからアクセスできるようにするオープン標準の XML アプリケーション・モデルを使用しています。最大限のユーザー数の獲得を目指し、より大きな価値を提供しようとする企業にとって、この点が他と大きく違う特長です。実際には、パートナーが実装コストを削減するためのソリューションを統合しやすいということもあり、オープン標準の利点は 2 倍になります。Oracle9iAS Wireless を使用すると、企業はネットワークやハードウェアの依存性について考慮する必要がないため、市場参入にかかる時間が短縮します。また、Oracle ではすべてのモバイル・アクセス・チャネルがサポートされているため、どのチャネルを選択するかも簡単に決定できます。

個人的な生産性の向上

電子メール、ボイスメール、カレンダー、ファイル、アドレス帳、企業ディレクトリ、Instant Messaging および通知は、どの企業にとっても重要な生産性ツールです。Oracle Collaboration Suite を使用すると、デスクから離れているときの生産性を低下させないために、企業は会社の電子メール、ボイスメール、カレンダー、ディレクトリ、アドレス帳、ドキュメント管理および Instant Messaging アプリケーションをモバイル・ソリューションに統合できます。これらの協同サービスすべてを緊密に統合することによって、アプリケーション間がインテリジェントにリンクされるため、可用性が高まります。

ボイス対応サービス

Oracle Collaboration Suite のボイス対応サービスは、VoiceXML に完全に準拠しているため、特定の音声認識ベンダーに依存しません。これらのサービスは、市販の VoiceXML ゲートウェイ上で実行されるため、使用されなくなったテクノロジーや質のよくないテクノロジーを使用する危険がなくなります。

所在認識型の通信

Oracle Collaboration Suite では、所在によって、社員が連絡を受ける方法、時期および場所を管理できます。

Oracle Collaboration Suite アプリケーションは、プレゼンス・サーバーと統合されて、特定の時点と場所における最適な連絡方法を、ユーザーの都合、デバイスの機能および個人的な設定内容に基づいて認識します。

レスポンス時間の短縮

モバイル通知により、アプリケーション、情報およびサービスへのアクセスが拡大されます。モバイル通知は、情報が携帯情報端末に配信またはプッシュされると行われます。消費者市場においては、SMS は双方向メッセージングの 1 領域であり、日々送信される何百万件ものメッセージの処理に成功しています。現在、数多くの企業が、新規顧客の会議、重要な電子メール、または即時の対応を必要とする新規プロジェクト計画のアップロードなど、重要なイベントを即時に通知することの重要性を認識しています。社員はタイムクリティカルなアラートに対応できます。また、企業は新たな収益を獲得し、カスタマ・サービスを向上させることができます。Oracle Collaboration Suite のワイヤレスおよび音声アクセスでは、重要な情報があらゆる配信チャネルを介してあらゆる携帯情報端末またはボイス・インタフェースにプッシュされます。

セキュリティとパフォーマンス

機密性の高い企業情報へのセキュアなアクセスは、モバイル・ソリューションを配布する際の最も重要な考慮事項です。モバイル・インフラストラクチャ（デバイス、プロトコル、ネットワークおよびハードウェア）が複雑になると、セキュリティの問題は 1 つの方法では解決できません。機密性、整合性、認証および否認防止を組み合わせると、ミッションクリティカルなコンテンツが携帯情報端末にセキュアに配信されます。株取引、医師と患者のコミュニケーション、法的文書や契約書などのモバイル取引の機密性を保証するには、セキュリティがあらゆる箇所に設定され、かつ透過的であることが必要不可欠です。

アプリケーションに応じて、Oracle Collaboration Suite に対するワイヤレスおよび音声アクセス用の Oracle9iAS Wireless インフラストラクチャは、エンドツーエンドなセキュリティ要件を満たすための数多くの方法をサポートしています。機密性の高いユーザー・データおよびプロファイルはすべて暗号化され、セキュアな Oracle Database 内に格納されます。

アクセス・ポイントの構成

Oracle Collaboration Suite が携帯情報端末とともに機能するためには、これらのデバイスへの通信が使用可能になっている必要があります。この章では、これらのデバイスを使用可能にする手順を説明します。次の項目について説明します。

- [Pocket PC および WAP デバイスの使用可能化](#)
- [ボイスの使用可能化](#)
- [ASK の使用可能化](#)
- [メッセージングの使用可能化](#)

Pocket PC および WAP デバイスの使用可能化

Oracle9iAS Wireless には、Pocket PC および WAP を含む様々なデバイスからのリクエストに対してサービスを提供する機能があります。Wireless サーバーにアクセスするためには、これらのデバイスを構成する必要があります。これらのデバイスから Wireless サーバーへのリクエストは、HTTP または HTTPS プロトコルを介して送られます。デバイス固有のネットワーク・プロトコルを HTTP または HTTPS に変換する際に、プロトコル変換ゲートウェイが使用される場合があります。

注意： すべてのデバイスに対して構成する必要があるパラメータの 1 つに、Wireless サーバーの URL があります。Wireless サーバーがホスト `host.domain` にインストールされている場合、HTTP および HTTPS プロトコルのデフォルト URL は次のようになります。

- `http://host.domain:7777/ptg/rm`
- `https://host.domain:4443/ptg/rm`

Wireless サーバーの正確な URL については、Wireless サーバーの管理者に問い合せてください。

HTTP または HTTPS の URL の設定は、デバイスの機種によって異なります。次の各項では、各種のデバイスについて説明します。次の項目について説明します。

- 「[Pocket PC デバイス](#)」
- 「[WAP デバイス](#)」

Pocket PC デバイス

ネットワークへの接続

Pocket PC デバイスから Wireless サーバーにアクセスするには、デバイスをネットワークに接続します。Wireless サーバーが企業イントラネット上にある場合は、デバイスを企業 LAN に接続する必要があります。Wireless サーバーがインターネット上にある場合は、Internet Service Provider (ISP) に接続する必要があります。Pocket PC デバイスを企業 LAN または ISP に接続するには様々な方法があります。詳細は、<http://www.microsoft.com/japan/> を参照してください。

Internet Explorer を使用した Wireless サーバーへのアクセス

1. 「スタート」を押してから Internet Explorer を選択し、Internet Explorer を開きます。
(すでに Internet Explorer が起動されている場合は、手順 2 に進みます。)
2. 「表示」→「アドレス バー」を選択して Internet Explorer のアドレス・バーを表示します。
(Internet Explorer のアドレス・バーがすでに表示されている場合は、手順 3 に進みます。)
3. アドレス・バーに Wireless サーバーの URL を入力し、「移動」ボタン (緑色の矢印) を押します。

Internet Explorer ホームページの設定

Wireless サーバーのメイン・ページに接続した後は、そのページを Internet Explorer のホームページとして設定できます。これにより、毎回 URL を入力する手間が省けます。

1. Wireless サーバーのメイン・ページが表示された状態で、「ツール」→「インターネット オプション」を選択します。
2. 「ホーム ページ」セクションで「現在のページを使用」ボタンを押します。
3. 「OK」を押します。

WAP デバイス

WAP デバイスでは、通信用に WAP プロトコルが使用されます。Wireless サーバーは、WAP プロトコルを直接サポートしていません。このため、WAP プロトコルを HTTP または HTTPS に変換するための WAP ゲートウェイが必要です。ワイヤレス・サービス・プロバイダを介してインターネットに接続する場合、事業社が WAP ゲートウェイの構成を完了しているはずですが、ダイヤルアップ (PPP 接続) を介してインターネット / イントラネットに接続する場合は、自分で WAP ゲートウェイをインストールして構成する必要があります。

WAP 電話の構成

WAP 電話の構成は、機種およびワイヤレス・サービス・プロバイダによってそれぞれ異なります。一般に、電話の構成は、ダイヤルアップ・ネットワーク接続 (GPRS 電話の場合は適用外)、WAP ゲートウェイ、および WAP ブラウザのホーム URL に対して行う必要があります。ほとんどの場合、ワイヤレス・サービス・プロバイダが、そのプロバイダの WAP ゲートウェイに接続されるように電話の再構成を行います。ワイヤレス・サービス・プロバイダによっては、電話ユーザーにより変更されないように電話の設定を非表示にしているところもあります。ほとんどの場合、電話ネットワークの設定を自分で変更する必要はありません。WAP 電話から Wireless サーバーにアクセスするために必要なのは、そのサーバーの URL の入力だけです。WAP ブラウザを開き (方法については、電話のユーザーズ・マニュアルを参照)、その URL を入力します。

ボイスの使用可能化

Oracle Collaboration Suite コンポーネントへの音声アクセスを使用可能にするには、次の構成を実行する必要があります。この項では、Nuance Voice Web Server を使用した構成タスクを例にあげて説明します。

前提条件

ワイヤレスの音声アクセスを使用可能にするには、ボイス・ゲートウェイを構築する必要があります。ゲートウェイを構築する場合、開発 VoIP Voice Gateway を構築するための評価ソフトウェアをダウンロードするには、無料のアカウントを 2 つ設定する必要があります。必要なアカウントを設定するには、次の手順を実行します。

1. <http://extranet.nuance.com/> にアクセスして、Nuance Extranet Developer アカウントを無料で取得します。そのサイトの指示に従ってください。
2. <https://secure.pingtel.com/www/registration/registerUser.jsp> にアクセスして、PingTel Developer アカウントを無料で取得します。そのサイトの指示に従ってください。

プラットフォームの要件

『Nuance Voice Web Server (VWS) Installation Guide』に、Voice Web Server でサポートされる構成が規定されており、必須のハードウェアおよびソフトウェアが一覧されています。このリリースの Voice Web Server は、この項で一覧されている Nuance ソフトウェア・バージョンでサポートされています。それ以降のバージョンの Nuance ソフトウェアは、Nuance Developer Network のダウンロード・エリアから入手可能ですが、このリリースの VWS はサポートされていない可能性があります。

注意： このリリースの VWS は、Nuance 8.0 の特別リリースでのみサポートされています。これは、Nuance エクストラネットの VWS ダウンロード・セクションから入手可能です。

Nuance 8.0 の特別リリースは、このリリースの VWS と併せた使用のみを意図されています。その他の用途はサポートされていません。

ハードウェア

- Pentium II 以上の CPU
- 固有のオーディオまたは SIP デスクトップ・テレフォニを使用している場合は、SoundBlaster オーディオ・ハードウェア
- Dialogic または NMS のテレフォニ・ボード（適用可能な場合）

オペレーティング・システム

- Windows 2000 (Service Pack 2)

サードパーティのソフトウェア

- Java 2 Standard Edition (J2SE) SDK 1.3.1
- Jakarta Tomcat 4.0.3 (推奨)
- Dialogic System Release 5.1 (Dialogic テレフォニ・ボードを使用している場合)
- NMS Natural Access 2002-1 (NMS テレフォニ・ボードを使用している場合)

Nuance ソフトウェア

- Nuance System 8.0 Release for VWS。この特別リリースは、Nuance エクストラネットの VWS ダウンロード・セクションで入手可能です。
- Connectivity Pack 2.0。
 - Dialogic Connectivity Pack 2.0.4
 - SIP Connectivity Pack 2.1.1
 - NMS connectivity Pack 2.1.0
- Foundation Speech Objects 1.1.1。
- Nuance Vocalizer 2.0 Service Pack 1 (推奨)。

注意： 最新の情報については、Nuance Voice Web Server リリース・ノート
を参照してください。

前述のソフトウェアをすべてダウンロードし、Voice Web Server の構成方法に関する Nuance の指示にすべて従った後、ダウンロードした PingTel Softphone を使用して Voice Gateway に接続できるようになります。

marconi_voice.ear

marconi_voice.ear には、次の 2 つのアプリケーションが含まれます。

- 音声ログイン
- メイン・メニュー・サービス

音声ログイン

メインの **.jsp** は、次の場所にあります。

/marconi_voice/voicelogin/login.jsp

オーディオ・ファイルは、次の場所にあります。

/marconi_voice/voicelogin/audio/default/en

注意： これは、電話番号に対するプロビジョニングが必要な音声ログイン **.jsp** です。これは、音声ログインの手順を経て、ログイン接続情報とメイン・メニュー・サービスの **OID** を使用して **ptg/rm** に転送される音声 XML スクリプトです。次の方法でプロビジョニングが必要です。

http://<server-name>:<port>/marconi_voice/voicelogin/
login.jsp?PAoid=<oid of the Voice Main Menu service>&language=
<language code>&countrycode=<country code>

- ここで、<port> は WebCache リスニング・ポート番号です。7777 がデフォルトのポート番号で、ポート番号の範囲は 7777 ～ 7877 です。
 - 音声メイン・メニュー・サービスの **OID** を取得するには、Webtool にログインして「コンテンツ・マネージャ」をクリックし、音声メイン・メニュー・サービスのオブジェクト ID を取得します。
 - 言語コードは、標準の 2 文字の Java ロケール形式です（たとえば、"en" = 英語、"fr" = フランス語）。国コードも 2 文字の Java 形式です（たとえば、"US"、"UK"、"BR"）。使用する言語が英語の場合、言語コードおよび国コードの属性は必要ありません。
-
-

音声ログインのサンプル・ユースケース

システム： Welcome to the Oracle Collaboration Suite. Enter your account number or say help.

ユーザー： 1234

システム： Enter your PIN.

ユーザー： 1234

システム： Hold on for a second while I access your account.

注意： ユーザーは、ポータルにアクセスするためにアカウント番号および PIN を入力する必要があります。ユーザー・アカウントの作成方法の詳細は、[「ユーザーの作成」](#) を参照してください。

メイン・メニュー・サービス

メインの **jsp** は、`/marconi_voice/mainmenu/myhome.jsp` です。

オーディオ・ファイルは、`/marconi_voice/mainmenu/audio/default/en` 内にあります。

この **.jsp** にアクセスするための、Voice Main Menu という名前のトップレベル・サービスが Webtool 上で作成されます。

このサービスの設定には、`/marconi_voice/mainmenu/myhome.jsp` (URL として) と、メールおよびカレンダー・モジュールからのサービス・パラメータすべてが含まれている必要があります。

音声ログインは、ptg/rm のインスタンス化時にこのサービスに自動的に転送されます。

メイン・メニューには、新規の電子メール・メッセージの数をカウントする **MailMessageInclude.jsp** と、カレンダーの予定の数をカウントする **CalendarAppointmentInclude.jsp** が含まれます。

メイン・メニューのサンプル・ユースケース

システム： Main Menu. You have two new email messages, one new voicemail message and no pending appointments. Your options are: mail, calendar, tasks, files, address book, directory, or my location.

ユーザー： Mail.

システム： Oracle Email. Please wait while your email is fetched.

ASK の使用可能化

概要

Asynchronous Server Kernel (ASK) を使用すると、(双方向テキスト・メッセージ機能のある) SMS 電話、双方向ポケットベルおよび電子メールなどのメッセージング・デバイスを使用した Wireless サービスへのアクセスが可能になります。次に、ASK 関連の用語をいくつか示します。

- サイト・アドレス： Web サイトの URL のような、ASK サーバーへのエントリ・ポイント。ユーザーは、このアドレスにメッセージを送信して目的のサービスを起動します。現在、ASK は電子メール・アドレスと SMS 電話番号をサポートしています。
- サービス短縮名： Wireless サービスを識別するサイト全体での一意名。デバイス・ユーザーは、メッセージ本体にサービス短縮名を組み込んでサイト・アドレスにメッセージを送信し、対応するサービスを起動します。たとえば、メッセージが、stk という短縮名とともにアドレス `ask@oraclemobile.com` に送信されるとします。この場合、Wireless の上に構築された株式サービスが起動されます (Wireless サービスに短縮名 `stk` が指定

されており、メッセージング・デバイスが **Wireless** サービスにアクセスするためのサイト・アドレスとして `ask@oraclemobile.com` が指定されている場合)。

- **メッセージング・サーバー**： **Wireless** メッセージング・システムの上に構築され、ASK は複数のトランスポート・プロトコルをサポートできます。ASK を使用可能にするには、特定のネットワークのメッセージング機能を構成し、基礎となるメッセージング・サーバー用に、(双方向機能を持つ) このようなプロトコルをサポートするメッセージング・ドライバを構成する必要があります。

ASK の機能の詳細は、『Oracle9iAS Wireless 開発者ガイド』を参照してください。

電子メール・ベースの（双方向ポケットベル）アクセスの使用可能化

1. サイトへの ASK 電子メール・エントリ・ポイントとして1つ以上のサイト・アドレスを選択します。
2. サイト・アドレスを **Wireless** システムに追加します。詳細は、「[非同期サーバーのサイト全体にわたるプロセスの構成](#)」を参照してください。指定したサイト・アドレスを、基礎となるメッセージング・サーバー上に構成する必要があります。たとえば、`foo@bar.com` のようなサイト・アドレスのメッセージを受信するには、アカウントのホストとなるメール・サーバー、使用されるプロトコル (IMAP または POP3)、およびユーザー名とパスワードを知っている必要があります。次に、`foo@bar.com` に送信されたメッセージを取得できるように、電子メール・ドライバ・インスタンスを作成して構成する必要があります。設定および構成タスクは、「[メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成](#)」の「メッセージングの使用可能化」に一覧されています。

SMS 電話アクセスの使用可能化

1. SMS の事業社または管理ソリューションから 1 つ以上の SMS 電話番号を取得します。これらの番号は、サイトへの SMS エントリ・ポイントとして使用されます。
2. 「[非同期サーバーのサイト全体にわたるプロセスの構成](#)」に説明されているように、サイト・アドレスを **Wireless** システムに追加します。SMS 電話番号を宛先とするメッセージを（電子メールの場合と同様に）確実に取得できるように、指定したサイト・アドレスを、基礎となるメッセージング・サーバー上に構成する必要があります。各種のドライバは、SMS 接続の実際のプロトコルに応じて構成する必要があります。設定および構成タスクは、「[メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成](#)」の「メッセージングの使用可能化」に一覧されています。

サービス短縮名の変更

事前に構成された各 ASK 対応サービスには、デバイス・ユーザーがそのサービスをアドレス指定できるように、短縮名が割り当てられています。つまり、短縮名は、デバイス・ユーザーが起動するサービスを特定するために使用するキーワードです。短縮名は、必要であれば GUI ツールを使用して簡単に構成し、変更できます。

メッセージングの使用可能化

Oracle9iAS Wireless には、デバイスへのメッセージの送受信を処理するメッセージング・コンポーネントが備わっています。通常、(SMS や電子メールなどの) メッセージを配信する外部サーバーに接続するためには、Wireless を構成する必要があります。

Wireless は、Oracle ホストのオンライン・プッシュ・サービスに接続してこのサービスを利用することにより、構成なしでも SMS、ボイス、電子メールおよび FAX メッセージが送信されるように事前構成されています。

Oracle ホストのオンライン・プッシュ・サービスを使用しないように選択した場合は、必要な通信チャネルを設定する必要があります。Wireless には、(SMS、ボイスまたは電子メールなどの) ネットワーク機能の構成に使用できるドライバのセットが含まれます。また、ネットワーク・タイプによってはネットワーク・プロバイダ（事業社）に問い合わせ、メッセージ配信用にドライバを接続できる接続の種類を設定する場合もあります。

Oracle ホストのメッセージング配信

Wireless メッセージング・システムは、メッセージを SMS 電話、ポケットベル、ボイスおよび FAX に送信する機能のある Oracle ホストのオンライン・プッシュ・サービスに接続されるように事前構成されています。構成は必要ありません。埋込みメッセージング・サーバーを起動すると、メッセージを送信できるようになります。この場合のドライバは、PushClient ドライバです。このドライバは、<http://messenger.oracle.com/push/webservices> で実行されている Oracle ホストのオンライン・プッシュ・サービスと通信できるように構成されています。詳細、または大容量メッセージ配信用に自身のアカウントを設定する場合は、messenger_us@oracle.com にお問い合わせください。

注意： Wireless PushClient ドライバでは、Oracle ホストのオンライン・プッシュ Web サービスとの通信に HTTP プロトコルを使用します。ファイアウォールを介してアプリケーションを実行する場合は、HTTP プロキシ設定が必要です。プロキシの変更手順は、このマニュアルを参照してください。

Oracle ホスト以外のメッセージング配信

Wireless には、業界標準として受け入れられた主要なプロトコルをサポートする事前定義ネットワーク・ドライバが付属しています。事前定義ドライバは、SMS（電話の短縮名）、電子メール（ポケットベルまたはデスクトップ）、ボイスおよび FAX などの通信プロトコルを処理します。

これらのネットワーク・チャネルを使用可能にするには、事前定義ドライバを、対応するネットワーク・サーバーとともに動作するように構成する必要があります。

1. Wireless の接続先の外部サーバーを識別します。このとき、このような接続を取得し、特定のプロトコルに応じた Wireless ドライバの構成に必要な値を準備します。

2. サポートされているドライバを追加し、そのメッセージング・プロパティを構成します。
3. メッセージング・サーバーを作成するか、またはすでに作成されているメッセージング・サーバーを選択します。
4. ドライバ・インスタンスを作成し、それが実行されるメッセージング・サーバーと関連付けます。ドライバ・インスタンスのプロパティは、それに対応する外部ネットワーク接続とともに機能するように構成する必要があります。
5. メッセージング・サーバーを起動します。ドライバ構成の詳細は、「[サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの管理](#)」を参照してください。メッセージング・サーバー管理については、「[メッセージング・サーバー・プロセスの開始と停止](#)」を参照してください。

また、事前に構成されている PushClient ドライバおよびそれに対応するインスタンスは、使用しない場合は削除する必要があります。

次の各項に、各種のネットワーク・チャンネルに特有のタスクを示します。

電子メール・ベースのメッセージ配信

電子メールおよびポケットベル・サービスを使用可能にするには、次の手順を実行します。

1. 送信メッセージ用の SMTP メール・サーバーを設定します。
2. メッセージ受信が必要な場合は、オプションで IMAP または POP3 メール・サーバーを設定します。
3. 共通タスクの項に説明されているように、電子メール・ドライバおよびドライバ・インスタンスを構成します。

SMS 電話メッセージ配信

SMS メッセージを電話に配信するためには、SMS 事業社への通信チャンネルを設定する必要があります。これを行うには、UCP または SMPP プロトコルを介して SMS メッセージの送受信を可能にするために使用するネットワークを有している事業社に問い合わせてください。

あるいは、SMS 事業社と企業を仲介する Mobileway などのネットワーク管理ソリューションの利用を選択することもできます。この場合、複数の事業社を必要とするメッセージングのサポートに伴う手間がなくなります。Wireless とともに機能する認証済プロトコルを有するベンダーについては、次の URL を参照してください。

<http://otn.oracle.com/products/iaswe/integration/content.html>

「[メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成](#)」の共通タスクに指定されているように、対応する SMS ドライバ（たとえば、UCP や SMPP など）およびドライバ・インスタンスを構成します。

FAX 配信

このリリースでは、RightFax（Captaris Inc. 社の製品）がサポート対象の製品です。RightFax 製品を購入し、FAX サーバーを設定するための指示に従ってください。

RightFax からのクライアント API **.jar** ファイルの場所を、`ORACLE_HOME/wireless/sample/runpanamaserver.sh` 内のクラスパスに追加する必要があります。共通タスクに指定されているように、FAX ドライバおよびドライバ・インスタンスを構成します。

ボイス配信

ボイス・ドライバは、VoiceGenie Technologies Inc. 社がサポートする Out Bound Call プロトコルを実装しています。このプロトコルは、VoiceGenie ゲートウェイとともに機能することが実証されています。Wireless のボイス・ドライバにより使用されるゲートウェイを識別する必要があります。

共通タスクに説明されているように、ボイス・ドライバおよびドライバ・インスタンスを構成します。

連絡ルール管理

この章では、ユーザーが特定の状況における通知の受取り方法を調整できる、連絡ルールの管理について説明します。次の項目について説明します。

- [概要](#)
- [PIM 通知ディスパッチャの管理](#)
- [Wireless & Voice 設定の管理](#)
- [個人連絡ルールの管理](#)

概要

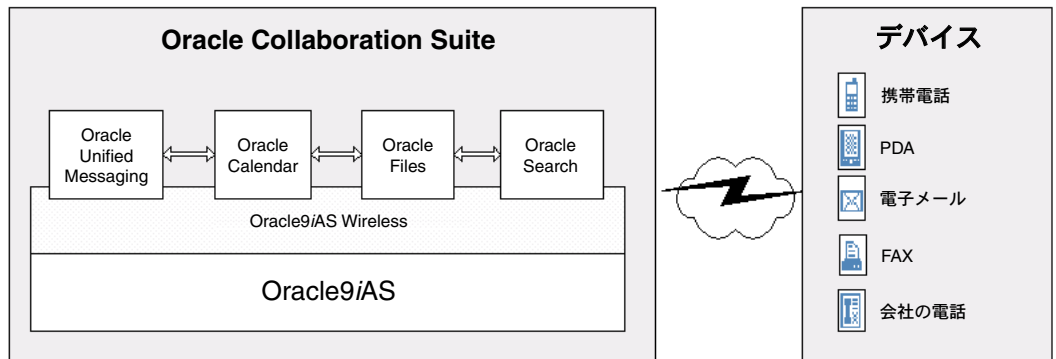
デバイスの多様化が進むと、モバイル社員にとって同僚や仲間と連絡する際の選択肢は広がりますが、同時に他者との最適な連絡方法を決めるのは難しくなります。移動中の社員は、多数のデバイスおよびテクノロジーを駆使します。ラップトップや電話線を使用して電子メールをチェックしたり、必要なドキュメントをローカル・ファイル・システムに入れて持ち運んだり、ボイスメールにアクセスする必要がある生じれば勤務先の電話にダイヤルインします。

多くの場合、同僚に直接連絡を取る最善かつ最適な方法について、モバイル社員は推測することしかできません。同様に、モバイル社員に連絡を取ろうとする人も同じ問題に直面します。2つの連絡方法のどちらが適しているかは、モバイル社員の現在の状況によって異なるからです。たとえば、会議中であれば、電話が鳴って妨害されるよりも、携帯電話で FAX 受信の通知を受ける方がモバイル社員にとって好都合です。Oracle Collaboration Suite を使用すると、ユーザーは、あらゆる時点について連絡の受取り方法を選択できます。ユーザーは、あらゆる状況（会議中や外出中など）に適した連絡手段（たとえば、携帯電話、PDA または通常の電話）について項目を設定できます。

Oracle Collaboration Suite では、重要な FAX、電子メール、ボイスメールの受信がユーザーに通知されるだけでなく、電子メール、FAX、メッセージまたはボイスメールの送信が簡易化されます。ユーザーは、別々のデバイス・アドレスを使い分ける必要がなくなりました。必要なのは、受信者の名前を入力することだけです。プレゼンス・サーバーは、Oracle9iAS Wireless に統合されるコンポーネントであり、Oracle Collaboration Suite ユーザーの ID と、デバイス・アドレスと現在の連絡ルールが含まれた連絡プロファイル情報の両方を格納します。連絡ルールは、ユーザーが指定した呼出し方法およびメッセージの受信方法が記述された定義済の設定です。

Oracle Collaboration Suite では Oracle9iAS Wireless が使用されており、モバイル社員は、ワイヤレスまたは音声アクセスを搭載したあらゆるデバイスを使用して企業情報にアクセスできます。また、Oracle Collaboration Suite では、ユーザーが電子メール、ボイスメール、カレンダー、アドレス帳、ファイル、企業ディレクトリおよび Instant Messaging に常にアクセスできるため、社員は会議の通知や重要な電子メールの受信など、最新の情報を逃すことはありません。

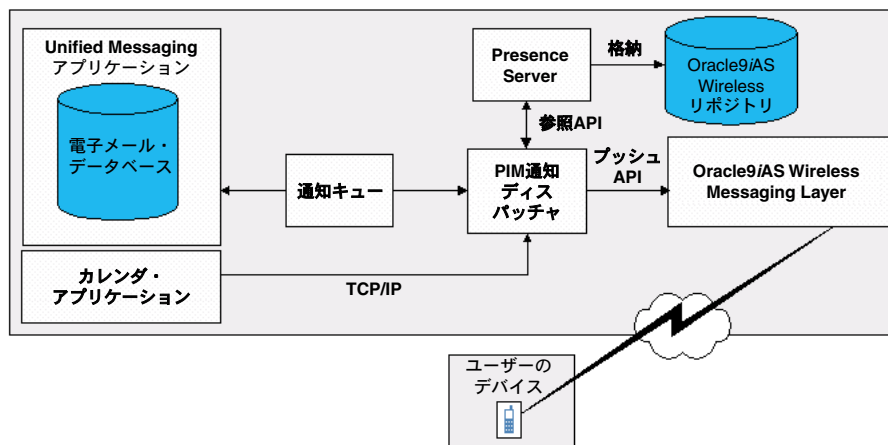
図 3-1 Oracle Collaboration Suite



システム・アーキテクチャ

Unified Messaging およびカレンダー・アプリケーションでは通知が生成され、PIM 通知ディスパッチャによってユーザーに配信されます。Unified Messaging アプリケーションでは、通知がデータベース内の通知キューに入れられます。これは、アドバンスド・キューイング (AQ) によって管理されます。PIM 通知ディスパッチャは、通知キューから通知を読み取って処理します。さらに、PIM 通知ディスパッチャは、TCP/IP ポート上で、カレンダー・アプリケーションによって送信された通知をリスニングします。各通知には、宛先として Oracle グローバル・ユーザー ID が含まれている必要があります。次に PIM 通知ディスパッチャは、ユーザーの現在のデバイス・アドレスを調べるために、ユーザーのグローバル・ユーザー ID と連絡ルールが格納されているプレゼンス・サーバーに連絡を取ります。プレゼンス・サーバーは、Oracle9iAS Wireless の統合コンポーネントです。続いて、PIM 通知ディスパッチャは、通知を Oracle9iAS Wireless Messaging Layer にプッシュします。これにより、通知がユーザーのデバイスに配信されます。

図 3-2 PIM 通知ディスパッチャのアーキテクチャ



PIM 通知ディスパッチャの管理

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始、停止、作成および構成などの管理機能には、Wireless システム管理を使用します。

Oracle Enterprise Manager からの PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの管理

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを開始、停止または追加するには、Wireless システム管理を使用できます。管理機能にアクセスするには、Wireless 管理の「サーバー」タブの「PIM 通知ディスパッチャ」ハイパーリンクからドリルダウンします。

Oracle9iAS Wireless PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの作成

「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面では、PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを作成または削除できます。

Wireless サーバー上に PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面で、「プロセス名」フィールドに PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの名前を入力します。
2. 「追加」をクリックします。新規のプロセスが、ハイパーリンクとして表内に表示されます。

注意： PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを作成した後、カレンダー・リスナーの TCP/IP ポート番号を構成する必要があります。詳細は、「[PIM 通知ディスパッチャのための Oracle9iAS Wireless の構成](#)」を参照してください。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの削除

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを削除するには、次の手順を実行します。

1. PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

図 3-3 「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面

Oracle Enterprise Manager
Wirelessサーバー サイト

Application Server: ocsv2mid.jpsun2ee3.jp.oracle.com > Wireless > Wirelessサーバー > PIM通知ディスパッチャ・プロセス

PIM通知ディスパッチャ・プロセス

プロセスの詳細を構成および表示するには、プロセス名のリンクをクリックします。開始、停止または削除するプロセスを選択するか、あるいは新しいプロセスを作成する場合は「追加」ボタンをクリックしてください。

プロセスの選択...

選択	プロセス名	ステータス	使用可能	キャッシュ同期への参加
<input checked="" type="checkbox"/>	notification_srv_1002	開始	true	true

削除 詳細表示 開始 停止

PIM通知ディスパッチャ・プロセスの追加

プロセス名

ヒント プロセスの追加後に、それを設定するためにテーブル内の新しいプロセス名をクリックしてください。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止

Wireless 管理では、各プロセスのステータスは、「開始」（実行中）、「停止」（停止中）または「未初期化」（プロセスは未実行）として指定されています。PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを開始または停止するには、PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの「プロセス」画面または「詳細」画面の「開始」あるいは「停止」ボタンを使用します。また、Wireless 管理の「サーバー」タブにある「すべて開始」および「すべて終了」ボタンを使用すると、すべての PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを一度に開始できます。

注意： 電子メール・アプリケーションの場合、プロセスを追加すると、通知のスループットが大きくなり、バックログの減少に役立つことがあります。ただし、カレンダー・アプリケーションでは、ポートとサーバーは1つずつしか使用されないため、使用される PIM 通知ディスパッチャ・プロセスは1つだけです。複数の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを使用する利点はなく、プロセスを追加しても速度は変化しません。

「プロセス」画面で、プロセスを選択してから「開始」または「停止」をクリックすると、そのプロセスを開始または停止できます。

プロセスの「詳細」画面でも、「停止」または「開始」をクリックしてプロセスを開始または停止できます。プロセスの停止中は「開始」ボタンが表示されます。同様に、プロセスの実行中は「停止」ボタンが表示されます。

図 3-4 「PIM 通知ディスパッチャ」画面



PIM 通知ディスパッチャのための Oracle9iAS Wireless の構成

PIM 通知ディスパッチャは、TCP/IP ソケット上で、カレンダー・アプリケーションによって送信された通知をリスニングします。次に、カレンダーは通知を送信し、切断します。カレンダーが PIM 通知ディスパッチャに接続できるようにするには（接続されると、PIM 通知ディスパッチャは Oracle9iAS Wireless トランスポート層にメッセージをプッシュ）、カレンダー・リスナーの TCP/IP ポート番号を構成する必要があります。

インストール時に、PIM 通知プロセスが事前定義済のポート番号で作成されます。

注意： カレンダー・アプリケーションも同じポートを使用するように構成する必要があります。詳細は、カレンダーのドキュメントで Oracle Collaboration Suite の説明を参照してください。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスのカレンダー・リスナー・ポート番号、識別情報およびキャッシング参加を構成するには、サーバー・レベルの Wireless 管理を使用します。Wireless 管理機能へのアクセス方法の詳細は、[第 10 章「システム管理の概要」](#)を参照してください。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを構成するには、次の手順を実行します。

1. Wireless 管理の「サーバー」タブの「プロセス」表から、「PIM 通知ディスパッチャ」をクリックします。「プロセス」画面が表示されます。
2. 「詳細」画面にドリルダウンします。
3. 「プロセス認証およびポート」をクリックします。「構成」画面が表示されます。
4. 「プロセス認証およびポート」画面で、プロセス名を受け入れるか、または編集します。（デフォルトでは、通常、選択したプロセスの名前がこのフィールドに表示されます。）このフィールドは必須です。
5. 「プロセスを使用可能にする」チェックボックスを選択するか、または選択解除して、プロセスを使用可能（または使用不可）にします。
6. 「キャッシュ同期への参加」チェックボックスを選択して、このプロセスのキャッシュを他のキャッシュと同期させます。
7. カレンダー・リスナーのポート番号を入力します。これは、9000 ～ 9100 の使用されていないポートにしてください。
8. 「適用」をクリックします。プロセスを使用可能にした場合、「process detail」画面の「使用可能」ラベルの隣（および「プロセス」画面のプロセス名の隣）に **true** が表示されます。プロセスを使用不可にした場合は、**false** が表示されます。

注意： 実行中の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスのポート番号を変更した場合、ポート番号の変更を有効にするには、プロセスをいったん停止してから再び開始する必要があります。PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始および停止方法の詳細は、「[PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止](#)」を参照してください。

図 3-5 「プロセス認証およびポート」画面



Wireless & Voice 設定の管理

Wireless & Voice 設定では、連絡ルールを作成、管理および選択できます。

連絡ルールとは

連絡ルールとは、呼出し方法およびメッセージの受取り方法を記述したものです。たとえば、会議中にはすべての通知を携帯電話で受け取るといった連絡ルールを設定できます。ブレイゼンス・サーバーによって、会議中や外出中といったその時々状況、特定の時点で使用可能なデバイス、および通知の受取り方法が記録されます。

連絡ルールを作成するには、(Oracle Collaboration Suite からアクセスされる) Wireless & Voice 設定の画面を使用して、連絡ルールの名前を（たとえば、「出張所」のように）指定し、次にその連絡ルールに適した通信デバイスを追加します。通信デバイスを作成するときは、デバイスの番号またはアドレスと、「携帯電話」などのデバイスのニックネームを入力します。次の通信方法からデバイスを選択できます。

- ボイス
- FAX
- 電子メール
- メッセージング

たとえば、「出張所」という連絡ルールを作成する場合、電話の呼出しは **Field Office Phone** というデバイスで、電子メールは **Corporate Office Email** というデバイスで、そして FAX は **Field Office Fax** というデバイスで受け取ることができます。連絡ルールを作成するときは、通知を受け取る優先方法を指定します。たとえば、「出張所」という連絡ルールの場合、通知を電子メール・メッセージとして受け取り、それが **Corporate Office Email** に送信されるように選択できます。

Oracle Collaboration Suite には、「At My Desk」、「At Meeting」および「At Home」という事前定義された 3 つの連絡ルールが用意されています。これらのルールを編集し、名前を変更できます。ただし、各連絡ルールの名前は一意にする必要があります。2 つの連絡ルールを同じ名前にすることはできません。また、1 つの連絡ルールを別のユーザーと共有することもできません。

連絡ルールを作成および管理する機能にアクセスするには、Oracle Collaboration Suite の「ホーム」ページの「Wireless & Voice」ボタンをクリックします。新規のユーザーは、「音声アクセスおよびアラートの設定」ページでアカウントを作成する必要があります。詳細は、「[連絡ルールの作成](#)」を参照してください。

図 3-6 「Wireless & Voice」ボタン



連絡ルールの作成

音声アクセスおよびアラートの設定

説明に従って、次のフィールドに必要事項を入力します。

- **携帯電話の番号:** 携帯電話の電話番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。
- **勤務先電話番号:** 勤務先電話の電話番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。
- **Wireless & Voice の PIN を変更:** 音声アクセスの PIN を設定し、確認します。PIN は、6 ～ 10 桁にしてください。数字のみで指定します。
- **次を受信時に通知:** 「ボイスメール」、「FAX メッセージ」、「緊急メッセージ」、「次の電子メール・ユーザー ID からのメッセージ」の中の 1 つ以上をチェックし、アラートを受け取る通信のタイプを選択します。「次の電子メール・ユーザー ID からのメッセージ」をチェックした場合は、次のフィールドに名前を入力する必要があります。各送信者の氏名をリストし、（たとえば、Jerry West, Johnny Weissmuller のように）それぞれをカンマで区切ります。

- **Wireless & Voice の受信ボックスの表示:** いずれかのラジオ・ボタンをクリックして、メッセージを表示する方法を選択します。

すべての入力情報を破棄する場合は、「**取消**」をクリックします。

変更を保存して「ポータル」ページに戻る場合は、「**終了**」をクリックします。

変更を保存して「Wireless & Voice の詳細設定」ページを表示する場合は、「**詳細**」をクリックします。

通信デバイスの作成方法の詳細は、「[通信デバイスの追加](#)」を参照してください。

注意: デバイス・ポータルを使用して連絡ルールにアクセスするには、「携帯電話」および「Wireless & Voice の PIN の選択」に入力した番号を使用します。デバイス・ポータルのログイン・ページには、次の URL を使用してアクセスします。

`http://hostname:7777/ptg/rm`

7777 は、Oracle9iAS Wireless のデフォルトのポート番号です。ポート番号の範囲は、7777 ~ 7877 です。正しいポート番号を使用していることを確認するため、\$ORACLE_HOME/install/portlist.ini に格納されている Oracle9iAS Wireless のポート番号をチェックしてください。

Wireless & Voice の詳細設定

このページでは、連絡ルールおよび連絡ポイントを管理できます。このページの 2 つの表（「連絡ルール」および「連絡ポイント」）に、これらの項目が編成されます。

■ 連絡方法

- **現行に設定:** 選択した連絡ルールを現在の連絡ルールに設定する場合は、「現行に設定」ボタンをクリックします。
- **編集:** 変更する連絡ルールのラジオ・ボタンを選択して連絡ルールを編集し、「編集」ボタンをクリックします。
- **削除:** 削除する連絡ルールのラジオ・ボタンを選択して連絡ルールを削除し、「削除」ボタンをクリックします。
- **追加:** 「追加」ボタンをクリックして、新規の連絡ルールを追加します。

■ 通信デバイス

- **編集:** 変更する通信デバイスのラジオ・ボタンを選択して通信デバイスを編集し、「編集」ボタンをクリックします。
- **削除:** 削除する通信デバイスのラジオ・ボタンを選択して通信デバイスを削除し、「削除」ボタンをクリックします。

- **追加:** ドロップダウン・リストからデバイスのタイプを選択して新しい通信デバイスを追加し、「追加」ボタンをクリックします。

「戻る」をクリックすると、「Wireless & Voice 設定」ページに戻ります。

「終了」をクリックすると、「ポータル」ホーム・ページに戻ります。

連絡ルールの追加

連絡ルールを追加するには、「連絡方法」表内の「追加」ボタンをクリックします。説明に従って、フィールドに必要事項を入力します。

- **連絡ルール:** 連絡ルールの名前（たとえば、「デスクに在席」など）を入力します。
- **電話先:** 電話を受ける通信デバイス（たとえば、「携帯電話」など）を入力します。電話による通知を受けない場合は、「電話しないでください。」を選択できます。ボイス機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **電子メール先:** 電子メールを受信する通信デバイス（たとえば、「電子メール」など）を入力します。電子メールによる通知を受けない場合は、「電子メールを送信しないでください。」を選択できます。電子メール機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **FAX 先:** FAXを受信する通信デバイス（たとえば、「FAX」など）を入力します。FAXによる通知を受けない場合は、「FAXを送信しないでください。」を選択できます。FAX機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **SMS 送信先:** ショート・メッセージを受信する通信デバイス（たとえば、「SMS」など）を入力します。SMSによる通知を受けない場合は、「電話しないでください。」を選択できます。SMS機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **最も確実な連絡方法:** 通知を受け取る優先方法を入力します。

通知の受取り方法に適した通信デバイスが選択されていることを確認します。そうでない場合、通知を受け取ることができなくなります。たとえば、電話で通知を受ける場合は、「電話先」で通信デバイスが選択されていることを確認してください。

注意: 連絡ルールは、すでに作成されているもののみが選択できます。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

連絡ルールの編集

連絡ルールを編集するには、変更する連絡ルールのラジオ・ボタンをクリックします。説明に従って、フィールドに必要事項を入力します。

- **連絡ルール:** 連絡ルールの名前（たとえば、「デスクに在席」など）を入力または変更します。
- **電話先:** 電話を受ける通信デバイス（たとえば、「携帯電話」など）を入力または変更します。電話による通知を受けない場合は、「電話しないでください。」を選択できます。ボイス機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **電子メール先:** 電子メールを受信する通信デバイス（たとえば、「電子メール」など）を入力または変更します。電子メールによる通知を受けない場合は、「電子メールを送信しないでください。」を選択できます。電子メール機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **FAX 先:** FAXを受信する通信デバイス（たとえば、「FAX」など）を入力または変更します。FAXによる通知を受けない場合は、「FAXを送信しないでください。」を選択できます。FAX機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **SMS 送信先:** ショート・メッセージを受信する通信デバイス（たとえば、「SMS」など）を入力または変更します。SMSによる通知を受けない場合は、「電話しないでください。」を選択できます。SMS機能が搭載された通信デバイスのみが、選択項目として一覧表示されます。
- **最も確実な連絡方法:** 通知を受け取る優先方法を入力または変更します。

通知の受取り方法に適した通信デバイスが選択されていることを確認します。そうでない場合、通知を受け取ることができなくなります。たとえば、電話で通知を受ける場合は、「電話先」で通信デバイスが選択されていることを確認してください。

注意: 連絡ポイントは、すでに作成されているもののみが選択できます。

連絡ルールの削除

連絡ルールを削除するには、「連絡ルール」表内の「連絡ルール」ラジオ・ボタンを選択し、「削除」をクリックします。

通信デバイスの追加

通信デバイスは、通知を受け取るように指定されたデバイスです。通信デバイスを作成するには、「通信デバイス」表内の「追加」ボタンをクリックします。電子メール・アドレス、FAX、携帯電話、ポケットベル、PDA および電話を追加できます。

通信デバイスを追加するには、追加する連絡ポイントのタイプを選択し、「追加」ボタンをクリックします。該当する「追加」ページが表示されます。

電子メール・アドレスの追加

電子メール・アドレスを追加するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** 電子メールの名前（たとえば、「勤務先電子メール」など）を入力します。
- **電子メール・アドレス:** 電子メールのアドレスを入力します。（たとえば、「Bo.Diddley@harvard.org」など。）

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

FAX 番号の追加

FAX 番号を追加するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** FAX の名前（たとえば、「勤務先 FAX」など）を入力します。
- **FAX 番号:** FAX 番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

携帯電話の追加

携帯電話を追加するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** 携帯電話の名前（たとえば、「携帯電話」など）を入力します。
- **携帯電話番号:** 携帯電話の電話番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。
- **電子メール・アドレス:** この携帯電話に送信されるメッセージ用の電子メール・アドレスを追加します。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

ポケットベルの追加

ポケットベルを追加するには、説明に従ってフィールドに必要な事項を入力します。

- **名前:** ポケットベルの名前（たとえば、「ポケットベル」など）を入力します。
- **ポケットベルの電子メール・アドレス:** ポケットベルの電子メール・アドレスを入力または変更します。（たとえば、「Bo.Diddley@harvard.org」など。）

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

PDA の追加

PDA を追加するには、説明に従ってフィールドに必要な事項を入力します。

- **名前:** PDA の名前（たとえば、「PDA」など）を入力します。
- **PDA の電子メール・アドレス:** この PDA に送信されるメッセージ用の電子メール・アドレスを追加します。
- **電子メール・アドレス:** この PDA に送信されるメッセージ用の電子メール・アドレスを追加します。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

電話番号の追加

電話番号を追加するには、説明に従ってフィールドに必要な事項を入力します。

- **名前:** 電話の名前（たとえば、「特別な電話」など）を入力します。
- **電話番号:** 電話の電話番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

通信デバイスの編集

通信デバイスを編集するには、編集する通信ポイントのラジオ・ボタンをクリックします。次に、「編集」ボタンをクリックします。「編集<携帯電話>」（名前は、選択した連絡ポイントのタイプによって異なる）ページが表示されます。

電子メール・アドレスの編集

電子メール・アドレスを編集するには、説明に従ってフィールドに必要な事項を入力します。

- **名前:** 電子メールの名前（たとえば、「勤務先電子メール」など）を入力または変更します。
- **電子メール・アドレス:** 電子メールのアドレスを入力または変更します。（たとえば、「Bo.Diddley@harvard.org」など。）

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

FAX 番号の編集

FAX 番号を編集するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** FAX の名前（たとえば、「勤務先 FAX」など）を入力または変更します。
- **FAX 番号:** FAX 番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

携帯電話の編集

携帯電話を編集するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** 携帯電話の名前（たとえば、「携帯電話」など）を入力します。
- **携帯電話番号:** 携帯電話の電話番号を入力します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。
- **携帯電話の電子メール・アドレス:** 携帯電話の電子メール・アドレス（たとえば、「Bo.Diddley@harvard.org」など）を入力または変更します。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

ポケットベルの編集

ポケットベルを編集するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** ポケットベルの名前（たとえば、「ポケットベル」など）を入力または変更します。
- **ポケットベルの電子メール・アドレス:** ポケットベルの電子メール・アドレスを入力または変更します。（たとえば、「Bo.Diddley@harvard.org」など。）

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

PDA の編集

PDA を編集するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** PDA の名前（たとえば、「PDA」など）を入力または変更します。
- **PDA の電子メール・アドレス:** この PDA に送信されるメッセージ用の電子メール・アドレスを追加または変更します。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

電話番号の編集

電話番号を編集するには、説明に従ってフィールドに必要事項を入力します。

- **名前:** 電話の名前（たとえば、「特別な電話」など）を入力または変更します。
- **電話番号:** 電話の電話番号を入力または変更します。すべての有効な電話番号を使用できます（たとえば、「+1 650 506-8241」と「16505068241」は同じです）。

情報を入力した後、「終了」をクリックします。

通信デバイスの削除

通信デバイスを削除するには、削除する通信デバイスの隣にあるラジオ・ボタンをクリックし、「削除」ボタンをクリックします。

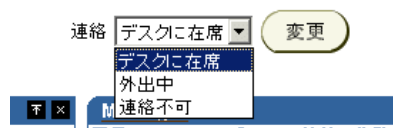
個人連絡ルールの管理

連絡ルールは、Oracle Collaboration Suite のホーム・ページなどの Web ベースのインタフェースや、登録済の通信デバイスから選択できます。

Web ベースのユーザー・インタフェースからの連絡ルールの選択

連絡ルールを Oracle Collaboration Suite の「ホーム」ページから変更するには、「連絡」ドロップダウン・リストから連絡ルールを選択して「変更」をクリックします。また、「詳細」ページから変更するには、連絡ルールを選択してから「現行に設定」をクリックします。詳細は、「[Wireless & Voice の詳細設定](#)」を参照してください。

図 3-7 Oracle Collaboration Suite からの連絡ルールの選択



デバイスからの連絡ルールの選択

Wireless XML では、あらゆる Oracle9iAS Wireless アプリケーションからの XML を複数のデバイス固有マークアップ言語に変更できるため、様々なデバイスから連絡ルールを選択することも可能です。したがって、WAP 対応デバイスや通常の電話から連絡ルールを選択できます。また、非同期対応アプリケーションを使用すると、SMS や電子メールなどの非同期メッセージング・アプリケーションを有するが、インターネット・アクセスに対応していないデバイスから、連絡ルールを選択できます。これらのデバイスから連絡ルールを変更するには、システム管理者が設定した ASK SMS または電子メール・アドレスにメッセージを送信します。

WAP 対応携帯電話などのデバイスで、表示されたリストから連絡ルールを選択します。連絡ルールを変更すると、Wireless によって（連絡方法を制御する）ルール設定が別の連絡ルール設定に切り替わります。

次の各項で説明する項目は次のとおりです。

- [デバイスからの連絡ルールの選択](#)
- [SMS または電子メール・ベースのデバイスからの連絡ルールの選択](#)
- [ボイス・アプリケーションを使用した連絡ルールの選択](#)

デバイスからの連絡ルールの選択

携帯電話などの携帯情報端末では、連絡ルールがリストとして表示され、現在の連絡ルールにはアスタリスク (*) が付けられます。新規の連絡ルールを選択するには、デバイスのナビゲーション・キーを使用して、「OK」を選択します。

図 3-8 デバイスからの連絡ルールを選択



確認画面が表示され、新しい連絡ルールが示されます。「OK」をクリックすると、メイン・メニューに戻ります。

図 3-9 (デバイスからの) 確認ページ



SMS または電子メール・ベースのデバイスからの連絡ルールの選択

非同期アプリケーションを使用するデバイスからは、コマンドを ASK SMS または電子メール・アドレスへのメッセージとして送信することにより、連絡ルールを設定できます。次のように、メッセージを使用して連絡ルールを設定できます。

方法 1

この方法では、3 つの個別メッセージを次のように送信することにより、連絡ルールを変更します。

メッセージ 1: メッセージ件名の行またはメッセージ本体に「cr」と入力します。すると、携帯電話番号および PIN 番号の入力を求めるメッセージが表示されます。詳細は、「[音声アクセスおよびアラートの設定](#)」を参照してください。

メッセージ 2: メッセージの件名の行または本体に携帯電話番号および PIN 番号を入力します。電子メールの本体にこの情報を入れて送信する場合は、同じ行に入力する必要があります。すると、連絡ルールの番号付きリストが添付されたメッセージが表示されます。

メッセージ 3: メッセージの件名の行または本体に新規の連絡ルールの番号を入力します。たとえば、番号付きリストから「2. デスクに在席」を選択する場合は、「2」を入力します。すると、連絡ルールの変更を確認するメッセージが表示されます。その後、メイン・メニューに戻ることができます。

方法 2

この方法では、次のようにして **cr** コマンドを連絡ルールの正確な名前と組み合わせ、2 つの個別メッセージを送信することにより、連絡ルールを変更できます。

メッセージ 1: メッセージの件名の行または本体に「**cr**」と入力し、続いて連絡ルールの名前を入力します。たとえば、「**cr "At My Desk"**」のように入力します。連絡ルールの名前に空白が含まれる場合、名前全体を二重引用符 (") で囲んでください。また、連絡ルールの名前では大 / 小文字が区別されます。このメッセージを送信すると、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。

メッセージ 2: メッセージの件名の行または本体に携帯電話番号および PIN 番号を入力します。電子メールの本体にこの情報を入れて送信する場合は、同じ行に入力する必要があります。このメッセージを送信すると、連絡ルールの変更を確認する応答が表示されます。その後、メイン・メニューに戻ることができます。

方法 3

また、メッセージの件名の行または本体に **cr** コマンド、連絡ルール名、およびユーザー名とパスワードをまとめて入力した 1 つのメッセージを送信して、連絡ルールを変更することもできます。たとえば、次のようにメッセージの件名の行または本体にすべての情報を入力することにより、新規の連絡ルールを選択できます。

cr "At My Desk"; 16505555000 12345

注意： **cr** および連絡ルール名と、ユーザー名およびパスワードは、セミコロン (;) を使用して区切ります。

このメッセージを送信すると、連絡ルールの変更を確認する応答が表示されます。その後、メイン・メニューに戻ることができます。

注意： 連絡ルールの名前に空白が含まれる場合、連絡ルールの名前全体を二重引用符 (") で囲んでください。また、連絡ルールの名前では大 / 小文字が区別されます。

ボイス・アプリケーションを使用した連絡ルールの選択

ダイヤルインした後、次の手順を実行します。

1. 携帯電話番号を入力します。詳細は、「[音声アクセスおよびアラートの設定](#)」を参照してください。
2. PIN を入力します。プロンプトが表示されたら、確認用に PIN 番号を再入力します。
3. 「連絡ルール」と言って、連絡ルール・アプリケーションを起動します。まず現在の連絡ルールが読み上げられ、次に使用可能な連絡ルールのリストが読み上げられます。
4. 新規の連絡ルールの名前を言います。たとえば、「デスクに在席」と言います。すると、システムによって変更が確認され、メイン・メニューに戻ります。

ボイスおよびワイヤレス用のモバイル・サービスの構成

この章では、Oracle9iAS Wireless モバイル・サービスについて説明します。Wireless モバイル・サービスでは、ワイヤレス対応の通信アプリケーションをサポートしています。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [構成が必要な内容](#)
- [アドレス帳](#)
- [カレンダー](#)
- [ディレクトリ](#)
- [FAX](#)
- [Oracle Files](#)
- [Instant Messaging](#)
- [電子メール](#)
- [ショート・メッセージ](#)
- [ビジネス・ディレクトリ](#)
- [運転方向](#)
- [ロケーション・ピッカー](#)
- [マップ](#)
- [Applications Setup](#)
- [Microsoft Exchange Server および Lotus Domino Server に接続するための Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションの構成](#)

構成が必要な内容

通信アプリケーションのワイヤレス・アクセスが可能になるように、Wireless モバイル・サービスを構成する必要があります。構成が必要なモバイル・サービスは、配置する Oracle Collaboration Suite アプリケーションの種類によって異なります。必要なライブラリはすべて、Oracle Collaboration Suite に付属しています。

- Oracle Unified Messaging
 - FAX
 - アドレス帳
 - ディレクトリ
 - Instant Messaging
 - メール
 - ショート・メッセージ
- Oracle Search
 - ビジネス・ディレクトリ
 - アドレス帳
 - ディレクトリ
- Oracle Files
 - ドキュメント管理
- Oracle Calendar
 - カレンダー

Oracle Collaboration Suite の Wireless & Voice コンポーネントは、モバイル・サービスの構成が完了した後に完全に機能するようになります。

コンテンツ・マネージャを使用したモバイル・サービスの構成

モバイル・サービスのパラメータを構成するには、コンテンツ・マネージャの編集機能を使用します。モバイル・サービスの構成パラメータの中には、読取り専用で編集できないものもあります。コンテンツ・マネージャへのアクセスの詳細は、「[コンテンツ・マネージャへのログイン](#)」を参照してください。サービスの編集方法の詳細は、「[入力パラメータの編集](#)」を参照してください。

図 4-1 モバイル・サービスの構成パラメータの編集

サービス アラート ユーザー・ホーム・ルート グループ

コンテンツ・マネージャ > ルート・フォルダおよびサービス > Short Messaging ようこそ test_ja

サービス の編集: 入力パラメータ

* Application URL Address	/modules/pim/shortmessaging/jsp/sm.jsp The HTTP URL to the Application. It can be absolute or relative to the current instance. Example: http://host.mydomain.com:8888/apps/app1.jsp or /apps/app1.jsp
Replace Relative URLs	<input checked="" type="checkbox"/> true Whether the adapter should replace the relative URLs inside the result with absolute URLs.
HTTP Method	<input checked="" type="button" value="POST"/> POST The HTTP method used by the adapter to get the content from the Application URL Address. Supported methods are GET and POST.
Input Encoding	UTF-8 Encoding scheme of the remote web server where the application is running. Use IANA character set names. The list of names is published at: "http://www.iana.org/assignments/character-sets" For example: ISO-8859-1, UTF-8, etc.
* Message Sender	oraclemobile@oracle.com Specifies the identity used for anonymous users when they send short messages. This field will be ignored for non-anonymous users. Examples: 'Anonymous User', '1(100)111-1111', 'user@oracle.com'
Display All Delivery Types	<input type="checkbox"/> false Specifies whether all the delivery types (Email, Fax, SMS and Voice) will be displayed regardless of whether or not they are configured. If set to 'false', only configured delivery types will be shown to the user.

非同期対応モバイル・サービスの構成

アドレス帳モバイル・サービスには、すべての非同期対応モバイル・サービスに関連する次の4つの構成パラメータが含まれます。

- Asynchronous Contact Separator
- Asynchronous Query OID
- Asynchronous Max Contacts Results
- Asynchronous Translate Commands

これらのパラメータの値セットは、すべての非同期対応サービスに影響を与えます。

アドレス帳

アドレス帳を使用して、ユーザーは自分のアドレス帳および連絡先を管理できます。また、携帯電話からの呼出し機能を使用することもできます。モバイル・アドレス帳を電子メール・アプリケーションと統合すると、ユーザーはアドレス帳からメッセージの受信者リストを編成できます。

構成パラメータ

- User Editable

ユーザーが現在のアプリケーション設定を編集できるかどうかを決定します。

- 有効な値: ブール (true、false)
- デフォルト値: false

- Address Book Java Driver class

Oracle のアドレス帳バックエンドを実装する Java ドライバ。

- 有効な値:

`oracle.panama.module.pim.addressbook.oracle.UMAddressBook` (Oracle Collaboration Suite の場合)

`oracle.panama.module.pim.addressbook.oracle.OracleAddressBook` (Oracle Calendar Server の場合)

`oracle.panama.module.pim.addressbook.exchange.ExchangeAddressBook` (Microsoft Exchange Server の場合)

`oracle.panama.module.pim.addressbook.omaddressbook.OMAddressBook` (事前設定されたアドレス帳の場合。データは、Oracle9iAS Wireless スキーマ内のデータベース表に格納されます。)

- デフォルト値: `oracle.panama.module.pim.addressbook.oracle.UMAddressBook`

- Address Book Server name

アドレス帳サーバーのサーバー名または IP アドレス。

Oracle Collaboration Suite に接続する場合、Oracle Internet Directory (OID) の名前または IP を入力します。

Oracle Calendar Server に接続する場合、次の書式で Oracle Calendar Server データベースへの接続文字列を入力します。

<ユーザー名>:<パスワード>:<ホスト名または IP>:

<データベースがリスニングしているポート>:<データベース SID>

Microsoft Exchange Server に接続する場合、Exchange Server の名前または IP を入力します。

- デフォルト値: localhost

- 例: oidserver.mycomp.com

- Address Book Server Port

アドレス帳サーバーのポート番号。Oracle Collaboration Suite の場合、OID サーバーのポート番号を入力します。

- 有効な値: 任意の整数値

- デフォルト値: 空

- 例: 4032、389

- OID Administrator username

OID サーバーの管理者アカウントのユーザー名。Oracle Unified Messaging アドレス帳スタンドアロン構成の場合、これは必須です。

- 有効な値: OID 管理者アカウントのユーザー名

- デフォルト値: orcladmin

- 例: orcladmin

- OID Administrator Password

OID 管理者ユーザーのパスワード (Oracle Unified Messaging アドレス帳スタンドアロン構成の場合は必須)。

- 有効な値: OID 管理者ユーザーのパスワード

- デフォルト値: 空

- 例: welcome1

- Account Name

ログイン認証情報をカレンダー・アプリケーションと共有する場合は、カレンダー・アプリケーションの「アカウント名」パラメータに使用されている文字列と同じ文字列を指定してください。

- 有効な値: 任意の文字列

- デフォルト値: OraAddressBookCalDomain

- 例: mydomain、sharedAccount

- Exchange Data URL

これは、Exchange Server からデータをフェッチする ASP ページ (AddressBook.asp) を示している必要があります (Microsoft Exchange の構成には必須)。

- 有効な値: Microsoft IIS サーバー上の AddressBook.asp を示す URL
- デフォルト値: 空
- 例: `http://myiis.mycomp.com/oracle/AddressBook.asp`、
`http://iis-server.abc.com/oracle/AddressBook.asp`
- Path to ORACLE_HOME
Oracle9iAS Wireless 中間層がインストールされている ORACLE_HOME の絶対システム・パス (Oracle Unified Messaging 統合構成の場合は必須)。
 - 有効な値: ORACLE_HOME の完全修飾パス
 - デフォルト値: 空
 - 例: `/private/home/9ias-mid`、`C:\9iasmid`
- Application Setup OMP URL
URL グループにより使用される OMP 参照。
 - 有効な値: Application Setup の OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/applications/appsetup`
 - 例: `omp://oracle/applications/appsetup`、
`omp://oracle/applications/otherappsetup`

非同期固有の構成パラメータ

- Asynchronous Contact Separator
非同期モードでの有効な連絡先セパレータ。非同期モードのとき、エンド・ユーザーは一度に複数の連絡先を問合せできます。連絡先名を区切るには、ユーザーはカンマ (,)、コロン (:)、セミコロン (;) などのセパレータ・タイプを使用できます。たとえば、(3 つの連絡先を区切る場合) `john,doe;Jeremy` のように指定できます。
 - 有効な値: 文字のリスト
 - デフォルト値: `*,,`
 - 例: `*,,:`
- Asynchronous Query OID
非同期モードでエンド・ユーザーが連絡先を検索すると、エンド・ユーザーのアドレス帳内で問合せが実行されます。このパラメータを `true` に設定すると、エンド・ユーザーのアドレス帳に加え、Oracle Internet Directory (OID) 内の検索も実行できます。
 - 有効な値: ブール値 (`true`、`false`)
 - デフォルト値: `true`
 - 例: `true`、`false`

- Asynchronous Max Contacts Results

このパラメータは、連絡先の検索で複数の値が返された場合にエンド・ユーザーに明示的に返される最大連絡先数を指定します。問合せで、このパラメータに定義された値よりも多い値が返された場合（たとえば、5つの連絡先しか指定されていないのに、問合せで10の連絡先が返された場合）、エンド・ユーザーに検索の絞込みを求めるメッセージが返されます。

- 有効な値： 整数値
- デフォルト値： 5
- 例： 5、10、19

- Asynchronous Translate Commands

非同期コマンドの翻訳を使用可能（または使用不可）にします。**true**の場合、非同期コマンドは、エンド・ユーザーの現在の言語から翻訳されます。このパラメータを **true** に設定すると、エンド・ユーザーは、現在の言語で非同期コマンドを送信できます。たとえば、ユーザーは、カレンダーの **show** コマンド **cal show** をポルトガル語（**cal mostrar**）またはフランス語（**cal montrer**）で入力できます。

- 有効な値： ブール値（**true**、**false**）
- デフォルト値： **true**
- 例： **true**、**false**

注意： パラメータ「Asynchronous Contact Separator」、「Asynchronous Query OID」、「Asynchronous Max Contacts Results」および「Asynchronous Translate Commands」に設定した値は、すべての非同期対応モバイル・サービスに影響を与えます。これらの値はアドレス帳モバイル・サービスだけでなく、あらゆる非同期対応モバイル・サービスに影響します。

Microsoft Exchange Server に接続するアドレス帳アプリケーションについては、[「Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Microsoft Exchange Server の構成」](#)を参照してください。

カレンダー

カレンダーを使用すると、ユーザーは、Calendar Server へのモバイル・アクセスを使用してスケジュールおよびタスクを管理できます。

構成パラメータ

- User Editable

ユーザーが現在のアプリケーション設定を編集できるかどうかを決定します。

- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: false

- Calendar Java Driver class

Oracle Calendar バックエンドを実装する Java ドライバ・クラス。

- 有効な値:

oracle.panama.module.pim.calendar.star.StarCalendarService (Oracle Collaboration Server の場合)

oracle.panama.module.pim.calendar.oracle.OracleCalendarService (Oracle Calendar Server の場合)

oracle.panama.module.pim.calendar.exchange.ExchangeCalendarService (Microsoft Exchange Server の場合)

oracle.panama.module.pim.calendar.domino.DominoCalendarService (Lotus Domino Server の場合)

- デフォルト値: oracle.panama.module.pim.calendar.star.StarCalendarService

- Calendar Server

Calendar Server の名前およびポート。

- 有効な値:

Oracle Collaboration Suite モードでは、Oracle Collaboration Suite Calendar Server の名前およびポートを入力します。この両方のエントリをコロン (:) で区切ります。ポートは、Wireless Calendar 中間層上で unieng という TCP/IP サービスが実行されている場所です。これは、/etc/services ファイル内で調べられます。

Oracle Calendar モードでは、この値は次の書式で Oracle Calendar Server データベースへの接続文字列を指定します。

<ユーザー名>:<パスワード>:<ホスト名または IP>:

<データベースがリスニングしているポート>:<データベース SID>

Exchange モードでは、Exchange Server の名前または IP アドレスを入力します。

Lotus Domino モードでは、Lotus Domino Server の名前およびポートを入力します。これらの名前をコロン (:) で区切ります。ポートは、Domino Server 上で DIIOP および HTTP サービスが実行されている場所です。

- デフォルト値: localhost:5730
- 例: cal-server.com:5730、oo_calsched:cal:myhost.mycompany.com:1521:mySID、exchg.mycomp.com、domino.abc.com
- Exchange Data URL
これは、Exchange Server からデータをフェッチする ASP ページ (Calendar.asp) を示している必要があります (Microsoft Exchange の構成には必須)。
 - 有効な値: Microsoft IIS サーバー上の Calendar.asp を示す URL
 - デフォルト値: /pim/Calendar.asp
 - 例: http://mycomp.com/oracle/Calendar.asp、
http://www.abc.com/oracle/Calendar.asp
- Application Setup OMPURL
URL グループにより使用される OMP 参照。
 - 有効な値: Application Setup の OMP URL
 - デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup
 - 例: omp://oracle/applications/appsetup、
omp://oracle/applications/otherappsetup
- Account Name
ログイン認証情報をアドレス帳アプリケーションと共有する場合は、アドレス帳アプリケーションの「アカウント名」パラメータに使用されている文字列と同じ文字列を指定してください。
 - 有効な値: 任意の文字列
 - デフォルト値: OraAddressBookCalDomain
 - 例: mydomain、sharedAccount

注意: Microsoft Exchange Server または Lotus Domino Server に接続するカレンダー・アプリケーションについては、「[Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Microsoft Exchange Server の構成](#)」を参照してください。

ディレクトリ

ディレクトリ・アプリケーションを使用すると、ユーザーは任意の携帯情報端末から Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできます。ディレクトリ・アプリケーションをモバイル電子メール・アプリケーションと統合すると、ユーザーは企業ディレクトリを参照して、特定の連絡先に電子メールを送信したり、企業ディレクトリから受信者リストを編成することができます。

構成パラメータ

- Oracle Internet Directory (OID) Server

OID サーバーの名前または IP アドレス。たとえば、サーバー名は `ldap.mydomain.com` などになります。

- 有効な値: サーバーの名前または IP アドレス
- デフォルト値: `localhost`
- 例: `myLDAPserver.com`、`123.123.1.1`

- OID Server Port

OID サーバーのポート番号。たとえば、「389」と入力します。

- 有効な値: 整数値
- デフォルト値: `389`
- 例: `387`、`390`

- Administrator Login Access to OID

`false` に設定した場合、ゲスト・アカウントを介して OID へのアクセスが行われます。`true` の場合は、OID 管理者のユーザー名とパスワードの両方を指定する必要があります。

- 有効な値: ブール値 (`true`、`false`)
- デフォルト値: `false`
- 例: `true`、`false`

- OID Administrator Username

OID Server における管理者アカウントのユーザー名 (たとえば、`orcladmin` など)。

- 有効な値: 文字列 (ユーザー名)
- デフォルト値: 空
- 例: `guest`、`ldapadmin`

- **OID Administrator Password**
OID 管理者ユーザーのパスワード。たとえば、welcome1 などです。
 - 有効な値: 文字列 (パスワード)
 - デフォルト値: 空
 - 例: welcome1、admin123
- **Maximum Results Returned**
問合せ結果セットのサイズにかかわらずユーザーに返される最大結果。
 - 有効な値: 整数値
 - デフォルト値: 200
 - 例: 100、200
- **Query Names**
システムにより内部問合せに対して割り当てられる名前。
 - 有効な値: カンマで区切られた一連の問合せ名
 - デフォルト値: Q1
 - 例: Q1, myQuery
- **Query Title**
問合せを実行したときに表示されるキャプション。
 - 有効な値: カンマで区切られた一連の問合せタイトル
 - デフォルト値: Search
 - 例: Search by Name, Search by Email
- **OID Search Entry Point**
問合せが開始される OID 内のエントリ・ポイント。
 - 有効な値: 検索のエントリ・ポイントを指定する文字列。詳細は、RFC 2251 を参照してください。
 - デフォルト値: 空
 - 例: dc=oracle、dc=com

- Search Scope

問合せ検索の有効範囲を定義します。許容される有効範囲は、ベース・オブジェクト検索の場合は BASE、1 レベル検索の場合は ONE、サブツリー検索の場合は SUBTREE です。これらの検索タイプに関連して使用されるベース・オブジェクトは、「OID Search Entry Point」で指定されています。詳細は、RFC 2251 を参照してください。

- 有効な値: BASE、ONE、SUBTREE
- デフォルト値: SUBTREE
- 例: BASE、ONE

- Query Visibility

内部使用のみです。この値は、デフォルトで true に設定されます。

- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: true
- 例: false

- Query Filter Attributes

フィルタ式で使用される問合せ属性を定義します。

- 有効な値: カンマで区切られた属性名の文字列
- デフォルト値: givenname,sn,cn,orclmailemail,telephonenumber
- 例: givenname, sn, email

- Query Filter Expression

問合せフィルタ式を定義します。フィルタ式は、RFC 2254 内の規定に基づいて作成してください。

- 有効な値: 文字列のフィルタ式
- デフォルト値: (&(|(|(|(givenname=*)(sn=*)(cn=*))(|(orclmailemail=*)(telephonenumber=*)(objectclass=orcluser2)))
- 例: (cn=*)

- Query Filter Attribute Display Names

将来的にのみ使用されます。

- 有効な値: カンマで区切られた各フィルタの文字列プロンプト
- デフォルト値: Enter a name for search, Enter a email for search, Enter telephone number
- 例: Enter an ID to search, Search

- Query Result List Attributes

結果リストの間合せ属性を定義します。図 4-2 を参照してください。

- 有効な値： カンマで区切られた属性の文字列

- デフォルト値：

givenname,sn,telephonenumber,mail,homephone,facsimiletelephonenumber,
mobile,street,l,st,postalcode,description,orclguid

- 例： givenname,sn,mail,telephonenumber

- Query Result List Attribute Display Names

結果リストの間合せ属性表示名を定義します。図 4-2 内のラベルを参照してください。

- 有効な値： カンマで区切られた属性ラベルの文字列

- デフォルト値： First Name,Last Name,Work Phone,Email,Home Phone,Fax,
Mobile,Address,City,State,Zip,Notes,Oracle GUID

- 例： First Name,Last Name,Email,Work Phone

図 4-2 「詳細」 ページ

ラベルは「Query List Attribute Display Names」を参照し、値は「Query Result List Attributes」から使用されます。



- Summary Results Attributes

返された結果サマリーに表示される属性。「Query Result List Attribute Display Names」の属性の true または false を同じ順序で入力してください。図 4-3 を参照してください。

- 有効な値: カンマで区切られたブール値のリスト
- デフォルト値: true,true,true,true,false,false,false,false,false,false,false,false
- 例: true, true, false, true

図 4-3 「Summary Results」 ページ

表示される値は、「Summary Results Attributes」によって定義されます。



- Query Attributes Types

一覧された属性のリンク先のアプリケーションを指定します。

注意: display を指定すると、属性が表示されるだけで、属性にはリンクされません。email を指定すると、電子メール・アプリケーションにリンクされます。phone、fax および sms を指定すると、それぞれの配信タイプでショート・メッセージにリンクされます。hidden を指定すると、属性は表示されません。

- 有効な値: カンマで区切られた値 (display、email、phone、fax、sms および hidden) の文字列
- デフォルト値: display,display,email,phone,fax,phone,display,display,display,display,display,hidden
- 例: display,display,email,phone
- Link Attributes on Result List
さらに問合せを実行するときに結果の問合せ内にリンクされる属性を指定します。
 - 有効な値: カンマで区切られた値 (yes および no) のリスト
 - デフォルト値: no,no,no,no,no,no,no,no,no,no,no,no,no
 - 例: no, no, no, yes, yes
- Query Link Names
結果リストのリンクのキャプション。有効な値は、LINK1 または nope です。
 - 有効な値: カンマで区切られたリンク名または nope の文字列
 - デフォルト値: nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope,nope
 - 例: nope, nope, nope, LINK1, LINK1
- Link Names
システムにより内部リンクに対して割り当てられる名前。デフォルトでは LINK1 に設定されます。
 - 有効な値: 文字列名。たとえば、LINK1 などです。
 - デフォルト値: LINK1
 - 例: MANAGER、LINK2
- Query Link Name
現在のリンクに関連付けられた問合せ。デフォルトでは Q1 に設定されます。
 - 有効な値: 問合せの文字列名。たとえば、Q1 などです。
 - デフォルト値: Q1
 - 例: Q2、BYNAME
- Link Refer Attributes
リンクされた問合せ内で使用される結果のサブ属性を、カンマで区切られたリストで指定します。たとえば、返された結果が manager=cn=john/sn=doe で、「Link Refer Attribute」が cn の場合、次にリンクされる問合せでは値 john が使用されます。

- 有効な値: カンマで区切られた属性の文字列
- デフォルト値: cn
- 例: cn,sn
- Link Bind Attributes

「Link Refer Attributes」がバインドされるフィルタ属性を、カンマで区切られたリストで指定します。たとえば、「Link Refer Attribute」が cn で、バインド属性が givenname の場合、cn の値が givenname に使用されます。
- 有効な値: カンマで区切られた属性の文字列
- デフォルト値: cn
- 例: givenname,sn
- Link Attributes Display Name

リンク内に表示される「Query Result List Attributes」の、カンマで区切られたリスト。
- 有効な値: カンマで区切られた属性名の文字列
- デフォルト値: givenname,sn
- 例: givenname, mail
- Max Records Per Page

1 ページ当たりに表示される結果の最大数。
- 有効な値: 整数値
- デフォルト値: 10
- 例: 9、15
- Merge Results

true の場合、問合せ結果の中に他のすべてのパブリック属性が含まれます。false の場合は、「Query Result List Attributes」が表示されます。
- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: false
- 例: true
- Application Setup OMP URL

URL グループにより使用される OMP 参照。
- 有効な値: OMP URL
- デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup

- 例： omp://mysetup/services/appsetup
- Use Voice LSS
ボイスに大規模な検索を使用するかどうか。
 - 有効な値： ブール値（true、false）
 - デフォルト値： false
 - 例： true

FAX

FAX モバイル・サービスを使用すると、ユーザーはFAXの送信やステータスのチェックを行うことができます。また、あらゆる携帯情報端末からFAXを転送または削除できます。また、電子メール・サービスやOracle Files サービスと組み合わせて、携帯情報端末からドキュメントをFAX送信することもできます。

要件

このサービスには、サードパーティのソフトウェア・コンポーネントが必要です。RightFax Serverに接続する場合は、RightFax Java API が使用されます。

表 4-1 FAX アプリケーションに必要なソフトウェア

名前	手順	最低バージョン
RightFax サーバー (RightFax から入手可能)	RightFax サーバーをインストールします。	7.2
RightFax Integration モバイル・サービス (RightFax から入手可能)	FAX サーバーに Integration モバイル・サービスをインストール します。	7.2
RightFax PFD モバイル・ サービス (RightFax から入手可能)	FAX サーバーに PFD モバイル・サービスをインストールします。	7.2
RightFax Java API (RightFax から入手可能)	RFJavaInt.zip（FAX サーバーの RightFax/Production/xml/java ディレクトリ）を、Solaris の場合は \$ORACLE_HOME/ wireless/lib に、NT の場合は %ORACLE_HOME%\wireless\lib に コピーします。<library path="../../wireless/lib/ RFJava_api.zip"/> という行を %ORACLE_HOME%\2ee\¥ OC4J_Wireless¥config¥application.xml に追加することにより、 OC4J クラスパスにこの zip ファイルをインクルードします。	7.2

サンプルの表紙

FAX モバイル・サービスではカスタマイズ済のカバー・シート・ファイルが使用されるため、Oracle9iAS Wireless に付属のサンプルの表紙を使用する必要があります。この表紙を使用するには、サーバー側のアプリケーション変換用に RightFax サーバーに Microsoft Word 2000 がインストールされている必要があります。

Solaris がインストールされている場合、この表紙は次のファイル内にあります。

```
$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/images/  
pim/fax/FCS.doc
```

Windows NT がインストールされている場合、この表紙は次のファイル内にあります。

```
%ORACLE_HOME%\j2ee\OC4J_Wireless\applications\modules\modules-web\images\  
pim\fax\FCS.doc
```

提供された FAX の表紙を使用するには、次の手順を実行します。

1. RightFax サーバーをインストールしたマシン上のディレクトリ RightFax\FCS に、FCS.doc をコピーします。
2. カバー・シートを指定します。
3. Enterprise Fax Manager を再起動します。
4. 適切なサーバーの下の「ユーザー」を選択し、ユーザー ID の「Administrator」をダブルクリックします。「Default Cover Sheets」タブをクリックします。「Cover Sheet Defaults」グループ・ボックスで、「Send Cover Sheets」をチェックし、「Cover Sheet Model」フィールド内でカバー・シート・ファイル（FCS.doc）を選択します。
5. 適切なサーバーの下の「グループ」を選択し、グループ ID の「Everyone」をダブルクリックします。「基本情報」タブをクリックします。「Cover Sheet Model」フィールド内でカバー・シート・ファイル（FCS.doc）を選択します。
6. Enterprise Fax Manager を再起動します。

注意： FAX のカバー・シートに関する詳細は、『RightFax Administrator's Guide』を参照してください。このドキュメントは、次のサイトからダウンロードできます。

<http://www.rightfax.com>

構成パラメータ

- Fax server URL

FAX サーバーの HTTP URL。このパラメータの値は、IP アドレスまたはドメイン名アドレスになります。

- 有効な値: 文字列
- デフォルト値: `http://localhost`
- 例: `http://111.11.111.11` または `http://host.mydomain.com`

- Fax sender account

FAX を送信するための FAX サーバー上のアカウント名。

- 有効な値: 文字列
- デフォルト値: `Administrator`
- 例: `Administrator`

- Faxes kept per user

最近送信された FAX のうち、ユーザーの FAX の履歴に保持される数。

- 有効な値: 負でない整数
- デフォルト値: `20`
- 例: `20`

- Fax Items per page

送信された FAX のうち、FAX の履歴の 1 画面に表示される数。

- 有効な値: 負でない整数
- デフォルト値: `9`
- 例: `9`

- Debug

`true` の場合、ログ・メッセージが Oracle9iAS Wireless ログ・ファイルに書き込まれます。

- 有効な値: ブール値 (`true`、`false`)
- デフォルト値: `false`
- 例: `true`

- Query OID

true の場合、Oracle Internet Directory (OID) からの受信者アドレスの取得が可能になります。

- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: false
- 例: true

- Download directory

FAX ドキュメントが Oracle9iAS Wireless サーバー内で一時的に格納されるディレクトリ。ドキュメントを添付して FAX を送信する場合は、このディレクトリを指定してください。

- 有効な値: パスの値
- デフォルト値: /temp/fax
- 例: C:\temp または /tmp/var

- Cover Page

FAX の送信時に使用される表紙。デフォルト値は、FCS.doc です。表紙ドキュメントのパスは、FAX サーバー上の FCS ディレクトリを基準にしたパスです。

- 有効な値: ファイル名
- デフォルト値: FCS.doc
- 例: FCS2.doc、Cover.doc

- Application Setup OMP URL

URL グループにより使用される OMP 参照。

- 有効な値: OMP URL
- デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup
- 例: omp://oracle/applications/appsetup

Oracle Files

Oracle Files アプリケーションを使用すると、ユーザーは固有の形式でファイルを添付および保存できます。また、Oracle Files アプリケーションを RightFax と統合すると、FAX を介したドキュメント印刷が可能になります。ユーザーは、リモートで添付ファイルを選択し、別のモバイル・ユーザーにそのファイルを電子メール経由で送信できます。受信したユーザーは、ドキュメント（Microsoft Office ファイル）を表示し、近くの FAX に出力できます。このアプリケーションは、Oracle Files とともに動作します。

構成パラメータ

■ Allow Navigation

ユーザーがオープン・サービス URL へナビゲートできるかどうか。true の場合、適切な認証接続情報が提供されれば、ユーザーは目的のサービス URL にアクセスできます。false の場合、ユーザーは、パラメータ「Service URLs」に固有のサービス URL にしかアクセスできません。

- 有効な値： ブール値（true、false）

- デフォルト値： false

- 例： false

■ Service URLs

ユーザーがファイルをアップロードおよびダウンロードできる WebDav ファイル・システムの HTTP URL。このパラメータが適用されるのは、「Allow Navigation」を false に設定した場合のみです。

- 有効な値： WebDav サービス URL

- デフォルト値： http://webdav.mycompany.com/files

- 例： http://www.mywebdavdomain.com/fileuser

■ Download Directory

ダウンロードまたは添付するファイルの保持に使用されるディレクトリを指定します。パスは、Oracle Files アプリケーションが置かれているサーバーに対してローカルです。

- 有効な値： パスの値

- デフォルト値： /tmp

- 例： C:\temp または /tmp/var

- Proxy Host

HTTP プロキシ・ホストを入力します。たとえば、「proxy.mydomain.com」のように入力します。

- 有効な値: URL
- デフォルト値: no
- 例: proxy.mydomain.com

- Proxy Port

HTTP プロキシ・ポートを入力します。

- 有効な値: ポート番号
- デフォルト値: no
- 例: 80

- Authorization Realms

前述の「Service URLs」それぞれに関連付けられる HTTP 権限レルム。「Authorization Realms」の各値は、カンマで区切ってください。

- 有効な値: 文字列
- デフォルト値: Authorized_Users
- 例: Authorized_Users

- Show Service URL?

このパラメータによって、Oracle Files アプリケーションでサーバー名を表示するか、または非表示にするかを選択できます。

- 有効な値: yes、no
- デフォルト値: no
- 例: no

- Application Setup OMP URL

URL グループへの OMP 参照。

- 有効な値: OMP URL
- デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup
- 例: omp://oracle/applications/appsetup

Instant Messaging

Instant Messaging アプリケーションでは所在管理を行えるため、社員は携帯情報端末からインスタント・メッセージを互いに交換できます。このアプリケーションは、Jabber Instant Messaging サーバーや、MSN および Yahoo ネットワークと統合されます。

必須のソフトウェア

Instant Messaging アプリケーションは、Jabberbeans クラスを使用して Jabber Instant Messaging Server に接続するものであり、次のサードパーティ・ソフトウェアが必要です。

表 4-2 Instant Messaging アプリケーションに必要なサードパーティのソフトウェア

名前	手順	バージョン
Jabber Beans	最新の jabberbeans.jar を、Solaris の場合は \$ORACLE_HOME/wireless/lib に、NT の場合は %ORACLE_HOME%\wireless\lib にコピーします。 ORACLE_HOME の値の例は、次のとおりです。 Solaris の場合： ORACLE_HOME=/u01/iaswv20 Windows NT の場合： ORACLE_HOME=d:\oracle\iaswv20	0.9.0-pre4
Jabber サーバー	Jabber サーバーのインストール・ガイドに従います。	1.4.1
Yahoo Transport Gateway	オプション。Jabber サーバーのインストール・ガイドに従います。	0.8.0
MSN Transport Gateway	オプション。Jabber サーバーのインストール・ガイドに従います。	1.1.0

構成パラメータ

- Jabber Server Name

Jabber サーバーが実行されているサーバー名。

- 有効な値： サーバーの名前または IP アドレス
- デフォルト値： localhost
- 例： myJabber.company.org

- Yahoo! Messaging Transport

Yahoo! Instant Messaging トランスポート（サービスによって使用される Jabber サーバー上に構成されている場合）。

- 有効な値： 文字列の識別情報
- デフォルト値： 空
- 例： yahoo.myJabber.company.org

- Yahoo Group Name

Yahoo! トランスポートが構成されるたびに取得される、Yahoo! 関連要素に割り当てられる初期グループ名。

- 有効な値： 文字列
- デフォルト値： Yahoo
- 例： Yahoo Groups、Y!

- MSN Transport

MSN Instant Messaging トランスポート（サービスによって使用される Jabber サーバー上に構成されている場合）。

- 有効な値： 文字列の識別情報
- デフォルト値： 空
- 例： msn.myJabber.company.org

- MSN Group

MSN トランスポートが構成されるたびに取得される、MSN 関連要素に割り当てられる初期グループ名。

- 有効な値： 文字列
- デフォルト値： MSN
- 例： MSN Friends

- Refresh Time

サービスによってアクセスされたいくつかのページに対するリフレッシュ・ページ・タイムアウト。この値は、ミリ秒で指定します。

- 有効な値： 整数値
- デフォルト値： 20000
- 例： 50000

- Log Length

サービスによって表示されるメッセージの最大数。

- 有効な値： 整数値
- デフォルト値： 10
- 例： 5、15

電子メール

電子メール・アプリケーションを使用すると、ユーザーは任意の携帯情報端末から電子メール・メッセージにアクセスできます。

構成パラメータ

■ User Editable

ユーザーがサーバーやドメインなどの設定を編集できるかどうか。

- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: false
- 例: true、false

注意: 電子メール・アプリケーションに受信ボックス・フィルタを組み込むには、Oracle Internet Directory (OID) サーバーを入力し、IMAP サーバーとポートではなくメール・サーバーとメール・サーバー・ポートとしてのポートを入力します。また、「Mail protocol」として esmail を選択します。受信ボックス・フィルタの詳細は、Oracle Unified Messaging のドキュメントを参照してください。

■ Mail protocol

メール・サーバーによりサポートされるメール・プロトコル。

- 有効な値: imap、pop3、esmail
- デフォルト値: esmail
- 例: imap、pop3、esmail

■ Incoming Mail Server Name

受信電子メール・サーバーの名前。プロトコルが esmail の場合、これは Oracle Internet Directory (OID) サーバーを示している必要があります。

- 有効な値: 文字列
- デフォルト値: localhost
- 例: globalimap.mycomp.com、mailserver.foo.com

■ Incoming Mail Server Port

受信電子メール・サーバーのポート。プロトコルが esmail の場合、これは OID サーバーを示している必要があります。

- 有効な値: 整数値

- デフォルト値: 4032
- 例: 143、110、4032。通常、この値は、imap の場合は 143、pop3 の場合は 110、email の場合は 4032 です。
- **Outgoing Mail Server (SMTP)**
送信メール・サーバー (SMTP) の名前または IP アドレス。
 - 有効な値: 文字列
 - デフォルト値: localhost
 - 例: gsmtp.mycomp.com、127.0.0.1
- **Outgoing Mail Server (SMTP) Port**
送信メール・サーバー (SMTP) のポート番号。
 - 有効な値: 文字列
 - デフォルト値: 25
 - 例: 25
- **OID Administrator username.**
OID サーバーでの管理者アカウント用のユーザー名。このパラメータが必要になるのは、Oracle Internet Directory (OID) に接続して受信ボックス・フィルタを取得するために、電子メール・アプリケーションを構成する場合のみです。
 - 有効な値: OID サーバー上の有効な管理者アカウント
 - デフォルト値: orcladmin
 - 例: orcladmin、administrator
- **OID Administrator Password.**
OID 管理者ユーザーのパスワード。このパラメータが必要になるのは、Oracle Internet Directory (OID) に接続して受信ボックス・フィルタを取得するために、電子メール・アプリケーションを構成する場合のみです。
 - 有効な値: OID 管理者ユーザーのパスワード
 - デフォルト値: 空の値
 - 例: welcome1、password
- **Mail JDBC Driver Type**
OID サーバーに接続する電子メール用 JDBC ドライバ・タイプを指定します。このパラメータが必要になるのは、Oracle Internet Directory (OID) に接続して受信ボックス・フィルタを取得するために、電子メール・アプリケーションを構成する場合のみです。
 - 有効な値: thin、oci

- デフォルト値: thin
- Outgoing Mail Server (SMTP) Login
必要に応じて送信サーバーのユーザー名を指定します。
 - 有効な値: 文字列
 - デフォルト値: 空
 - 例: global.user、robert.smith
- Auto domain for email addresses
受信者の電子メール・アドレスにドメインが存在しない場合、受信者用に使用されるドメインを入力します。ユーザーが送信者の識別情報を指定しない場合、このパラメータによって送信者の識別情報を構成できます。
 - 有効な値: 文字列
 - デフォルト値: localhost
 - 例: mycomp.com、xyz.com
- Inbox name
ユーザーのプライマリ・フォルダ。通常は、INBOX です。
 - 有効な値: メール・サーバー上の有効なフォルダ名
 - デフォルト値: INBOX
 - 例: INBOX
- Sent folder name
送信メッセージが保存されるフォルダの名前。
 - 有効な値: メール・サーバー上の有効なフォルダ名
 - デフォルト値: Sent
 - 例: SentItems、Sent
- Max Messages Fetched
リクエスト 1 件についてサーバーからフェッチされるメッセージの最大数を入力します。
 - 有効な値: 任意の整数値
 - デフォルト値: 200
 - 例: 9、200

- Timeout

メール・サーバーへのタイムアウト接続制限。この値は、ミリ秒で指定します。

- 有効な値: 任意の整数値
- デフォルト値: 2000
- 例: 2000、5000

- Email Configuration Java Driver Class

電子メール構成をロードする際に使用される Java ドライバ・クラス。このパラメータは、下位互換の目的でのみ提供されています。

- 有効な値: 有効なクラス名
- デフォルト値: oracle.panama.module.pim.mail.util.Config
- 例: oracle.panama.module.pim.mail.util.Config

- Temporary directory

添付ファイルがダウンロードされる一時ディレクトリを入力します。

- 有効な値: Oracle9iAS Wireless 中間層サーバー上の有効なフォルダ
- デフォルト値: /tmp
- 例: /tmp、C:¥temp

- Audio Temporary directory

音声アクセスを使用する場合と、音声添付ファイルとしての電子メールに返信する場合は、指定する必要があります。このディレクトリは、Web 経由でアクセス可能なディレクトリにしてください。これは、電子メール・アプリケーションが存在するサーバーにおいて音声ファイルが格納される一時ディレクトリを指定します。便宜上、Oracle9iAS Wireless 中間層サーバー上の audiotemp ディレクトリの完全修飾パスを指定してください。

- 有効な値:
\$ORACLE_HOME/OC4J_Wireless/j2ee/applications/modules/modules-web/pim/mail/audiotemp。\$ORACLE_HOME は実際の値で置き換えてください。あるいは、Web アクセスが可能な任意のフォルダに置き換えてください。
- デフォルト値: /modules/modules-web/pim/mail/audiotemp
- 例: /home/private/9iasmid/OC4J_Wireless/j2ee/applications/modules/modules-web/pim/mail/audiotemp、C:¥9iasmid¥OC4J_Wireless¥j2ee¥applications¥modules¥modules-web¥pim¥mail¥audiotemp

- Audio temporary directory URL

音声アクセスを使用する場合と、音声添付ファイルとしての電子メールに返信する場合は、この値は必須です。この値は、電子メールで送信されたオーディオ・ファイルを取得する HTTP URL を指定し、「電子メール」で定義した「Audio Temporary directory」を示しています。「Audio Temporary directory」のデフォルトを変更していない場合、このパラメータの値を変更する必要はありません。デフォルトを変更した場合は、先に定義したフォルダの URL を指定してください。

- 有効な値：「Audio Temporary directory」を示す URL
- デフォルト値： /modules/pim/mail/audiotemp
- 例： /modules/pim/mail/audiotemp

- Encoding

電子メールの送信中に使用されるエンコーディングを入力します。Internet Assigned Numbers Authority (IANA) キャラクタ・セット名を使用してください。名前のリストは、次の場所に公開されています。

<http://www.iana.org/assignments/character-sets>

このパラメータの値を空白のままにしておくと（つまり、何も値を入力しない場合）、送信メッセージにはシステムのデフォルト・エンコーディングが使用されます。ユーザーは、「セットアップ」から電子メール・アプリケーションのこの設定を変更できます。

- 有効な値： 有効なエンコーディング
- デフォルト値： UTF-8
- 例： UTF-8、ISO-8859-1、ISO-2022-JP

- Deleted messages folder name

削除されたメッセージを保存するフォルダの名前。

- 有効な値： メール・サーバー上の有効なフォルダ
- デフォルト値： 空
- 例： DeletedItems、Wastebasket

- Save the contents of the audio reply?

オーディオ返信の内容を送信済フォルダに保存するかどうか。

- 有効な値： ブール値（true、false）
- デフォルト値： true

- Application Setup OMP url

Application Setup のモジュール化可能なアプリケーションの OMP URL。

- 有効な値: Application Setup の OMP URL
- デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup
- 例: omp://oracle/applications/appsetup、omp://oracle/applications/myappsetup

ショート・メッセージ

ショート・メッセージ・アプリケーションを使用すると、ユーザーは、ボイス、電子メール、FAX または SMS メッセージングなどの媒体を通じてメッセージを送信できます。ショート・メッセージを送信するには、ユーザーは、送信するメッセージのタイプ（電子メール、SMS、ボイスまたは FAX）、メッセージの宛先アドレス、件名テキスト、メッセージの本文テキストという、サービスの 4 つのパラメータを送信します。件名および本文のテキストは、メッセージ・タイプに適した媒体に変換されて、宛先に送信されます。このサービスには、サードパーティのソフトウェア・コンポーネントは必要ありません。これは、構成される Oracle9iAS Wireless トランスポートに依存します。ショート・メッセージ・アプリケーションでは、スクリプトは不要です。

構成パラメータ

- Message Sender

Anonymous ユーザーがショート・メッセージを送信するときに使用される識別情報を指定します。Anonymous ユーザーでないユーザーの場合、このフィールドは無視されます。

- 有効な値: 有効な URL
- デフォルト値: oraclemobile@oracle.com
- 例: Anonymous User、1(100)111-1111、user@myCompany.com

- Display All Delivery Types

すべての配信タイプ（電子メール、FAX、SMS およびボイス）を、構成済みか未構成かにかかわらず表示するかどうかを指定します。false に設定した場合は、構成されている配信タイプのみがユーザーに表示されます。

- 有効な値: ブール値 (true、false)
- デフォルト値: false
- 例: true

- Application Setup OMP URL
URL グループの OMP 参照。
 - 有効な値: OMP URL
 - デフォルト値: omp://oracle/applications/appsetup
 - 例: omp://myCompany/services/appsetup

ビジネス・ディレクトリ

ビジネス・ディレクトリ・アプリケーションでは、ユーザーに完全なビジネス・ディレクトリが提供されます。このアプリケーションは、Wireless Location Application Component API の上に構築されます。

このアプリケーションでは、一定の地域内において登録されている事業者の所在地と電話番号を検索するための、イエロー・ページのようなインタフェースが提供されます。業種名または業種カテゴリを基準に検索する機能があります。カテゴリを参照することもできます。このアプリケーションにロケーションのパラメータが渡されない場合、検索のロケーション・データを取得するためにロケーション・アプリケーションが起動されます。このアプリケーションには、Wireless ビジネス・ディレクトリ・プロバイダが必要です。

表 4-3 ビジネス・ディレクトリ・アプリケーションの要件

名前	外部プロバイダ	最低バージョン
ビジネス・ディレクトリ・プロバイダ	otn.oracle.com	2.0

構成パラメータ

- Web URL
将来の使用向けです。
 - 有効な値: 有効な URL
 - デフォルト値: localhost
 - 例: localhost
- Records per page
WML カード 1 枚に表示される業種カテゴリおよび結果項目の数を指定します。このパラメータは、WML デバイスにのみ適用されます。
 - 有効な値: 負でない整数
 - デフォルト値: 9
 - 例: 9

- Application Setup OMP URL
URL グループへの OMP 参照。
 - 有効な値： OMP URL
 - デフォルト値： omp://oracle/applications/appsetup
 - 例： omp://oracle/applications/appsetup

運転方向

運転方向アプリケーションを使用すると、モバイル・アプリケーションによってユーザーは起点アドレスと宛先アドレスの間の運転方向を知ることができます。これをロケーション・ピッカー・アプリケーションにリンクすると、ユーザーは、運転方向アプリケーションでは使用できない起点アドレスおよび宛先アドレスを選択できます。また、運転方向アプリケーションをマップ・アプリケーションとリンクして、高度な経路指定を行うこともできます。

このアプリケーションは、Wireless Location Application Component API の上に構築されます。

表 4-4 運転方向アプリケーションの要件

名前	外部プロバイダ	最低バージョン
ルーティング・プロバイダ	otn.oracle.com	2.0

構成パラメータ

- Web URL
将来の使用向けです。
 - 有効な値： 有効な URL
 - デフォルト値： localhost
 - 例： localhost
- Records per page
WML カード 1 枚に表示される業種カテゴリおよび結果項目の数を指定します。このパラメータは、WML デバイスにのみ適用されます。
 - 有効な値： 負でない整数
 - デフォルト値： 9
 - 例： 9

- Path for voice files
将来の使用向けです。
 - 有効な値:
 - デフォルト値:
 - 例:
- Application Setup OMP URL
URL グループにより使用される OMP 参照。
 - 有効な値: OMP の URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/applications/appsetup`
 - 例: `omp://oracle/applications/appsetup`

ロケーション・ピッカー

ロケーション・ピッカー・アプリケーションを使用すると、ユーザーは、頻繁にアクセスするロケーションを選択し、管理できます。このアプリケーションを使用すると、運転方向アプリケーションなどの別のアプリケーションで利用できるロケーションを指定できます。このロケーションは、ユーザーのデフォルトのロケーション、現在のロケーション（モバイル・ポジショニングが使用可能になっている場合）、ユーザーが選択したロケーション・マーク、ユーザーが使用した最近のロケーション、またはユーザーが入力する新規のロケーションのいずれかになります。

ロケーション・ピッカー・アプリケーションは、別のアプリケーションがユーザーからのロケーションを取得するために使用するものです。ユーザーがロケーション・ピッカーを直接使用した場合、ユーザーのロケーション・マークの管理が可能になり、ユーザーは自身の優先ロケーションを設定できます。設定できるロケーションは、ユーザーの現在のロケーション（モバイル・ポジショニング機能があり、オンになっている場合）か、またはユーザーのデフォルトのロケーション・マークです。

その他のロケーション・アプリケーションには、運転方向、マップおよびビジネス・ディレクトリなどがあります。これらのアプリケーションでは、ユーザーが優先ロケーションを持たない場合や、ユーザーがこれらのアプリケーションで使用するロケーションの変更を特に望む場合は、ロケーション・ピッカーを使用してユーザーからロケーションを取得します。

このアプリケーションは、使用可能な場合にはポジショニング・サーバーと統合されて、Oracle9iAS Wireless Location Application Component API の上に構築されます。

このサービスに **Wireless** ジオコーディング・プロバイダが必要になるのは、アドレスのジオコーディングが必要な場合のみです。また、**Wireless** モバイル・ポジショニング・プロバイダが必要になるのは、ポジショニング機能が必要な場合のみです。ジオコーディングおよびモバイル・ポジショニングは、オプションの機能です。

表 4-5 ロケーション・ピッカー・アプリケーションの要件

名前	外部プロバイダ	最低バージョン
ジオコーディング・プロバイダ	otn.oracle.com	2.0
モバイル・ポジショニング・プロバイダ	otn.oracle.com	2.0

構成パラメータ

- Web URL
将来の使用向けです。
 - 有効な値: 有効な URL
 - デフォルト値: localhost
 - 例: localhost
- History stack size
ユーザーのロケーション履歴に保持されるロケーションの最大数を指定します。
 - 有効な値: 負でない整数
 - デフォルト値: 72
 - 例: 72
- Records per page
WML カード 1 枚に表示される業種カテゴリおよび結果項目の数を指定します。このパラメータは、WML デバイスにのみ適用されます。
 - 有効な値: 負でない整数
 - デフォルト値: 9
 - 例: 9

マップ

マップ・アプリケーションは、特定のロケーションの広範囲かつ詳細なマップを提供し、様々なデバイスに対するマップのタイル表示やイメージ・マップ変換をサポートします。このアプリケーションは運転方向アプリケーションと統合され、Wireless Location Application Component API の上に構築されます。

構成パラメータ

- Application Setup OMP URL
URL グループへの OMP 参照。
 - 有効な値： OMP URL
 - デフォルト値： omp://oracle/applications/appsetup
 - 例： omp://oracle/applications/appsetup

Applications Setup

Applications Setup は、あるアプリケーションが別のアプリケーションを呼び出す方法を定義します。Wireless & Voice アプリケーションはすべて、OMP URL という名前の属性によって一意に識別できます。各アプリケーションは、OMP URL を使用して様々なアプリケーションを呼び出します。Applications Setup はリポジトリとして機能し、各 OMP URL はその中に登録されています。また、各アプリケーションには、Applications Setup を検索する場所をアプリケーションに指示する構成パラメータがあります。

登録済の URL

Applications Setup には、次の OMP URL が含まれます。

- Address Book OMP URL
アドレス帳の OMP URL を定義します。
 - 有効な値： アドレス帳アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値： omp://oracle/services/pim/addressbook
- Calendar OMP URL
カレンダーの OMP URL を定義します。
 - 有効な値： カレンダー・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値： omp://oracle/services/pim/calendar

- **Contact Rules OMP URL**
連絡ルールの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: 連絡ルール・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/presence/switcher`
- **Directions OMP URL**
方向の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: 運転方向アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/location/directions`
- **Directory OMP URL**
ディレクトリの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: ディレクトリ・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/directory`
- **FormFiller OMP URL**
FormFiller の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: フォーム入力アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/commerce/formfiller`
- **Email OMP URL**
電子メールの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: 電子メール・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/mail`
- **Voice Main Menu OMP URL**
ボイス・メイン・メニューの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: メイン・メニュー・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/voice/mainmenu`
- **Fax OMP URL**
FAX の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: FAX アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/fax`

- Oracle Files OMP URL
Oracle Files の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: Oracle Files アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/ifs`
- Instant Messaging OMP URL
Instant Messaging の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: Instant Messaging アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/im`
- Payment OMP URL
支払いの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: 支払いアプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/commerce/payment`
- Location Picker OMP URL
ロケーション・ピッカーの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: ロケーション・ピッカー・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/location/picker`
- Short Messaging OMP URL
ショート・メッセージの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: ショート・メッセージ・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/sm`
- Tasks OMP URL
タスクの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: タスク・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/pim/tasks`
- Translator OMP URL
変換 OMP URL を定義します。
 - 有効な値: 変換アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: `omp://oracle/services/commerce/translator`

- Viewer OMP URL
ビューアの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: ビューア・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: omp://oracle/services/pim/viewer
- Voice Mail OMP URL
ボイスメールの OMP URL を定義します。
 - 有効な値: ボイスメール・アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: omp://oracle/services/voice/mail
- Wallet OMP URL
Wallet の OMP URL を定義します。
 - 有効な値: Wallet アプリケーションの OMP URL
 - デフォルト値: omp://oracle/services/commerce/wallet

Microsoft Exchange Server および Lotus Domino Server に接続するための Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションの構成

アドレス帳、カレンダーおよびタスクのアプリケーションは、Microsoft Exchange Server や Lotus Domino サーバーなど、Oracle Collaboration 以外のサーバーにも接続可能です。

Wireless & Voice アプリケーションをこれらのサーバーに対して正常に実行するためには、アプリケーション固有のパラメータの構成以外にも、いくつかの追加セットアップが必要になります。

注意: 電子メール・アプリケーションには、追加のソフトウェアは必要ありません。

Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Microsoft Exchange Server の構成

Wireless & Voice PIM アプリケーションに対して Microsoft Exchange Server を構成するには、次のソフトウェアが必要です。

表 4-6 必須のソフトウェア

名前	手順	最低バージョン
Microsoft Exchange	Microsoft Exchange Server をインストールします。	5.5
Microsoft IIS	Microsoft Internet Information Server をインストールします。	4.0
Microsoft Collaborative Data Objects (CDO)	Microsoft Exchange SDK で入手可能です。IIS サーバーに cdo.dll ライブラリをインストールする必要があります。	1.2.1

Oracle9iAS Wireless PIM ASP の構成

Wireless & Voice PIM アプリケーションの ASP を作成するには、次の手順を実行します。

1. IIS サーバー上に **oracle** という名前のディレクトリを作成します。たとえば、**C:\inetpub\oracle** を作成します。
2. 次の各ファイルを Oracle9iAS Wireless 中間層サーバーから **oracle** フォルダにコピーします。
`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/pim/addressbook/asp/*`
`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/pim/calendar /asp/*`
`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/pim/tasks/asp/*`
3. IIS マネージャを起動し、デフォルトの Web サイトをマウスの右ボタンでクリックします。
4. 新規の仮想ディレクトリを追加します。
5. この仮想ディレクトリに **oracle** という名前を付けます。
6. このフォルダの「プロパティ」ダイアログ・ボックスを使用して、スクリプトおよび実行ファイルに対して「Execute Permissions」を許可します。
7. 「Directory Security」を選択し、「Anonymous Access」ペインで「編集」をクリックします。

8. 次の値を設定します。
- Anonymous Access: チェックしない
 - Basic authentication: チェックする
 - Integrated Windows authentication: チェックする

Oracle9iAS Wireless PIM アプリケーションに対する Lotus Domino の構成

Wireless & Voice アプリケーションに対して Lotus Domino を構成するには、次のソフトウェアが必要です。

表 4-7 PIM アプリケーションに対して Lotus Domino を構成するために必要なソフトウェア

名前	手順	最低バージョン
Lotus Domino Server	Lotus Domino Server をインストールします。	5.5
Lotus Java SDK	Lotus Java SDK をインストールします。	5.0.5

Lotus Domino Toolkit をインストールすると、ファイル・システム上に DTJava ディレクトリが作成されます。

Lotus Domino を構成するには、次の手順を実行します。

1. DTJava/lib/NCISO.jar を、Solaris の場合は \$ORACLE_HOME/wireless/lib に、NT の場合は %ORACLE_HOME%\wireless\lib にコピーします。Solaris および NT の ORACLE_HOME の値の例は、次のとおりです。
- Solaris の場合： ORACLE_HOME=/u01/iaswv904
 - Windows NT の場合： ORACLE_HOME=d:\oracle\iaswv904
2. \$ORACLE_HOME\j2ee\OC4J_Wireless/config/application.xml に次の行を追加して、OC4J クラスパスにこの JAR ファイルをインクルードします。
- <library path="../../wireless/lib/NCISO.jar"/>

必ず、Lotus Domino Toolkit for Java/CORBA Release 5.0.8 Update または Lotus Domino Toolkit for Java/CORBA Release 5.0.5 Update をダウンロードしてください。

注意： バージョン 2.x のツールキットは使用しないでください。

Domino サーバー上で、HTTP と DIIOP のサーバー・タスクが実行されている必要があります。Domino サーバーの notes.ini ファイルに、次の行が含まれていることを確認してください。

ServerTasks=<other tasks>,http,diiop 5.0.5

グローバリゼーション

この章では、次の項目について説明します。

- [概要](#)
- [ユーザーのロケールの決定](#)
- [オンライン・ヘルプに使用可能な言語](#)
- [ロジカル・デバイスのエンコーディングの決定](#)
- [HttpAdapter ベースのサービス](#)
- [ドライバ・エンコーディング](#)
- [ボイス・アプリケーションのローカライズ](#)
- [Oracle ログ・アイコンの変更](#)

概要

Oracle9iAS Wireless は、マルチロケールとマルチエンコーディングをサポートしています。Wireless サーバーは、ロケール、ならびにリクエストとレスポンスのエンコーディングを、実行時コンテキストに基づいて動的に決定します。

ユーザーのロケールの決定

Wireless サーバーでは、PAlocale、ユーザーの優先ロケール、Accept-Language ヘッダーおよびサイト・ロケールなどのロケール情報を使用することにより、ユーザーの適切なロケールが動的に決定されます。

PAlocale は、ログイン前に優先値を指定する HTTP パラメータです。PAlocale パラメータの可能な値は、Accept-Language HTTP ヘッダーの書式に従います。たとえば、PAlocale = en-US などになります。この書式は、Java ロケールの書式 (en_US) とは異なります。

ユーザーの優先ロケールは Wireless ユーザーの言語設定です。これは、ユーザー・マネージャを使用して設定されます。詳細は、「[ユーザー・プロファイルのロケールの設定](#)」を参照してください。

Accept-Language ヘッダーは、ユーザー・エージェント (Web ブラウザ) が HTTP リクエストとともに送信する HTTP プロトコル・パラメータです。

注意： Accept-Language HTTP ヘッダーの書式の詳細は、World Wide Web Consortium (W3C) の HTTP 仕様を参照してください。

サイト・ロケールは、Wireless サーバーのインスタンス全体でのデフォルト・ロケールです。詳細は、「[サイト・ロケールの設定](#)」を参照してください。

ログイン後

ログイン後、Wireless サーバーはユーザーの優先ロケールを優先します。

ログイン前

ログイン前は、Wireless Web サーバー (ptg/rm)、非同期サーバーおよび Webtool がそれぞれ、ユーザーのデバイスの適切なロケールを決定します。

表 5-1 に、非同期サーバー、Wireless Web サーバーおよび Webtool によってユーザーのロケールが決定される方法を示します。数字は、検出方法の優先順位（降順）です。

表 5-1 ロケールの決定

方法	非同期サーバー	Wireless Web サーバー (ptg/rm)	Webtool
登録ユーザーのロケール	1	2	N/A
HTTP パラメータ: PAlocale	N/A	1	1
Accept-Language HTTP ヘッダー	N/A	3	N/A
サイトのデフォルト・ロケール	2	4	2

Wireless Web サーバー

Wireless Web サーバー（ptg/rm）は、次の順序でユーザーのロケールを決定します。

1. 接続するユーザーがデバイス ID によって識別可能な場合は、ユーザーの優先ロケールを使用します。
2. PAlocale を使用します（ある場合）。
3. Accept-Language HTTP ヘッダーを使用します（ある場合）。
4. サイトのデフォルト・ロケールを使用します。

Webtool

Webtool は、次の順序でユーザーのロケールを決定します。

1. PAlocale を使用します（ある場合）。
2. サイトのデフォルト・ロケールを使用します。

非同期サーバー

非同期サーバーは、次の順序でユーザーのロケールを決定します。

1. 接続するユーザーがデバイス ID によって識別可能な場合は、ユーザーの優先ロケールを使用します。
2. サイトのデフォルト・ロケールを使用します。

ユーザー・プロファイルのロケールの設定

ユーザーの作成時や、ユーザー・プロファイルの編集時には、そのユーザーの優先ロケールを設定できます。優先ロケールを指定しない場合は、デフォルトのサイト・ロケールが使用されます。詳細は、[第 9 章「ユーザーの管理」](#)の「[ユーザーの作成](#)」を参照してください。

サイト・ロケールの設定

(Oracle Enterprise Manager Console からアクセスされる)「サイト」画面から、デフォルトのサイト・ロケールと、サイトでサポートするロケールのリストを指定できます。デフォルトのサイト・ロケールおよびサポートされるロケールのリストには、Java ロケール(en_US など) を使用してください。詳細は、[第 12 章「サーバー構成」](#)の「[Wireless サイト・ロケールの構成](#)」を参照してください。

オンライン・ヘルプに使用可能な言語

このリリースでは、Wireless Webtool および Wireless システムの管理機能と監視機能の組みラベルおよびオンライン・ヘルプは、9 種類の言語で表示されます。システム・マネージャを使用して構成されたサイト・ロケールによって、表示言語が決まります。

ロジカル・デバイスのエンコーディングの決定

ロジカル・デバイスのコンテンツ・エンコーディングは、デバイス・タイプの結果をトランスポートするときに使用されます。ロジカル・デバイスのエンコーディング形式は、IANA の形式です。

Webtool のサービス・デザイナを使用して、各国に適したロジカル・デバイス・エンコーディングに更新します。

次の表に、エンコーディングの決定方法を示します。

表 5-2 エンコーディングの決定

コンポーネント	要因
Wireless Web サーバー	リクエスト元のロジカル・デバイスのエンコーディング
非同期サーバー	対応するトランスポート・ドライバによって決定
モジュール・サービス	リクエストの読取りおよびレスポンスの書込みに UTF-8 を使用
アラート・メッセージ	対応するトランスポート・ドライバによって決定

HttpAdapter ベースのサービス

HttpAdapter ベースのサービスのリクエストおよびレスポンスをエンコードするには、次の手順を実行します。

HttpAdapter ベース・サービスのリクエストのエンコーディング

HTTP リクエストをリモートのコンテンツ・プロバイダに送信する場合、HttpAdapter サービスのパラメータのみが、サービスの `input_encoding`（指定されている場合）を使用してエンコードされます。`input_encoding` の値を指定するときは、IANA のエンコーディング形式を使用してください。

HttpAdapter ベース・サービスのレスポンスのエンコーディング

Wireless は、次の順序で、HttpAdapter ベース・サービスのレスポンスのエンコーディングを決定します。

1. レスポンスのコンテンツ・タイプ・ヘッダーの一部としてのキャラクタ・セット
2. サービスの入力パラメータの入力エンコーディング（ある場合）
3. ISO-8859-1（デフォルト）

ドライバ・エンコーディング

ドライバごとに、エンコーディングは個別に処理されます。

ボイス・アプリケーションのローカライズ

Oracle Collaboration Suite に付属のボイス対応アプリケーションをローカライズするには、次の手順を実行します。

1. 英語オーディオ・ファイルの場所を特定します。これらのファイルは、表 5-3 に記されているように、`en` アプリケーション・サブディレクトリ内にあります。

表 5-3 ボイス対応アプリケーションの英語オーディオ・ファイルの場所

アプリケーション	場所
共通（デフォルト）	<code>\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/default/en</code>
音声ログイン	<code>\$ORACLE_HOME/wireless/marconi_voice/voicelogin/audio/en</code>
メイン・メニュー	<code>\$ORACLE_HOME/wireless/marconi_voice/mainmenu/audio/en</code>
電子メール	<code>\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/pim/mail/en</code>

表 5-3 ボイス対応アプリケーションの英語オーディオ・ファイルの場所（続き）

アプリケーション	場所
アドレス帳	\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/pim/addressbook/en
カレンダー	\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/pim/calendar/en
LDAP	\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/pim/ldap/en
IFS	\$ORACLE_HOME/wireless/modules/common/voice/pim/ifs/en

- 2. 英語オーディオ・ファイルをモデルとして使用し、ターゲット言語でまったく同じセットのファイルを記録します。ファイル名は、英語バージョンのファイル名と同じにする必要があります。
- 3. 新しく記録した、ローカライズ済のオーディオ・ファイルを、アプリケーション・ディレクトリのそれぞれのロケール固有サブディレクトリに置きます。これを行うには、基本的に、まず **en** サブディレクトリから階層内を 1 レベル上に移動し、次に新しく記録したオーディオ・ファイルを、[表 5-4](#) に記された該当するロケール固有ディレクトリに置きます。

表 5-4 アプリケーションのロケール固有サブディレクトリ

ロケール	ディレクトリ名
アラビア語	ar
チェコ語	cs
デンマーク語	da
ドイツ語	de
ギリシア語	el
英語	en
米語	en_US
スペイン語	es
スペイン語（スペイン）	es_ES
フィンランド語	fi
フランス語	fr
フランス語（カナダ）	fr_CA
ハンガリア語	hu
イタリア語	it

表 5-4 アプリケーションのロケール固有サブディレクトリ（続き）

ロケール	ディレクトリ名
日本語	ja
韓国語	ko
オランダ語	nl
ノルウェー語	no
ポーランド語	pl
ポルトガル語	pt
ポルトガル語（ブラジル）	pt_BR
ルーマニア語	ro
ロシア語	ru
スロバキア語	sk
スウェーデン語	sv
タイ語	th
トルコ語	tr
中国語	zh
中国語（繁体字）	zh_TW

Oracle ロゴ・アイコンの変更

Oracle ロゴのアイコンは Oracle Collaboration Suite Middle-Tier にありますが、その場所はデバイス・タイプによって次のように異なります。

- Pocket PC（カラー、82 × 10 ピクセル）の場合、ロゴ・アイコンは次のファイル内にあります。
`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/images/oracle_logo.gif`
 - PALM デバイス（白黒、60 × 8 ピクセル）の場合、ロゴ・アイコンは次のファイル内にあります。
`$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_Wireless/applications/modules/modules-web/images/oracle_logo.gif`
- WAP デバイスの場合、ロゴ・イメージはありません。

ロゴ・ファイル名の変更

ファイル名を変更するには、portal.properties ファイル内のロゴの参照を編集する必要があります。これも、Oracle Collaboration Suite Middle-Tier にあります。

portal.properties ファイル内の参照を、次の手順で編集します。portal.properties ファイルは次の場所にあります。

```
$ORACLE_HOME/wireless/server/classes/messages/oracle/panama/module/common/  
portal.properties
```

次に示すのは、編集するキーです。

```
modules.common.UI.image.oracle=/modules/images/<logo_name_without_extension>
```

たとえば、次のようにキーを編集します。

```
modules.common.UI.image.oracle=/modules/images/oracle_logo
```

また、サポートされている言語の対応するプロパティ・ファイル内でも、このキーを編集する必要があります。たとえば、ポルトガル語（ブラジル）のキーを編集するには、プロパティ・ファイル portal_pt_BR.properties を編集します。同様に、フランス語のキーを編集するには、portal_fr.properties を編集します。

第II部

Oracle9*i*AS Wireless ツール・ガイド

Oracle9iAS Wireless ツール

この章では、Oracle9iAS Wireless を使用して Oracle Collaboration Suite を最大限に活用するためのツールについて説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [概要](#)
- [サービス・デザイン](#)
- [コンテンツ・マネージャ・ツール](#)
- [ユーザー・マネージャ](#)

概要

Oracle9iAS Wireless には、モバイル・サービスの作成、管理および配信に役立つ Web ベースのツール・セットが用意されています。これらのツールには、リポジトリ・オブジェクトを開発し管理するためのウィザードや、サーバーの管理および Wireless の配置に使用するユーティリティが組み込まれています。Wireless には、次のような開発ツールが用意されています。

- サービス・デザイナー
- コンテンツ・マネージャ
- ユーザー・マネージャ
- デバイス・ポータル

これらのツールはロールに固有であり、ユーザーは、ユーザー管理者が割り当てたロールに関連付けられたツールにしかアクセスできません。たとえば、コンテンツ・マネージャ・ツールのロールを割り当てられたユーザーはコンテンツ・マネージャのツールにしかアクセスできず、Content Developer 権限を持つユーザーはサービス・デザイナーにしかアクセスできません。

Wireless には、次のユーザー・ロールがあります。

表 6-1 Wireless ユーザーのロール

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
Administrator	Wireless の管理者とは、すべての Webtool にアクセスし、Oracle Enterprise Manager Console からシステムを管理できるユーザーです。	サービス・デザイナー コンテンツ・マネージャ ユーザー・マネージャ デバイス・ポータル

表 6-1 Wireless ユーザーのロール（続き）

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
Designer	<p>Designer ロールを割り当てられたユーザーは、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Wireless リポジトリからのアダプタの作成、変更および削除 ■ マスター・サービスとマスター・アラートの作成、変更、削除およびテスト ■ ロジカル・デバイスのトランスフォーマの管理 ■ モバイル XML を使用したアプリケーションの開発 ■ データ・フィードの開発、変更および削除 ■ プリセットの開発、変更および削除 ■ ロケーション・ベースのサービスの開発 ■ ロケーション・ベースのサービスの作成に使用されるリージョンの開発、変更および削除 	サービス・デザイナー
Organizer	<p>Organizer ロールを割り当てられたユーザーは、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サービス・フォルダの管理 ■ マスター・サービスに基づいたサービスの作成 ■ マスター・アラートに基づいたアラートの作成 ■ グループへのアプリケーションのデプロイ ■ ロケーション・ベースのサービスに対するリージョンの割当て 	コンテンツ・マネージャ
System	<p>System ロールを割り当てられたユーザーは、システムを管理します。</p>	Wireless システム管理機能（Oracle Enterprise Manager Console から）

表 6-1 Wireless ユーザーのロール（続き）

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
Helpdesk	Helpdesk ロールを割り当てられたユーザーは、ユーザー・マネージャ 次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none">■ ユーザー・プロフィールおよびサービスのチェック■ 新規のグループおよびユーザーの作成■ ユーザー・アクセス権限の管理■ ユーザーに対する様々なロールの割当て	
Consumer	Consumer ロールを割り当てられたユーザーは、Wireless サービスのエンド・ユーザーです。エンド・ユーザーは、デスクトップまたはデバイスから自身のサービスをカスタマイズできます。エンド・ユーザーのカスタマイズには、次の操作が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">■ ロジカル・デバイスを作成してアラートを受信■ プリセットを設定■ サービスの順序を変更■ ロケーション・マークを設定	デバイス・ポータル
Guest User	未登録のユーザーです。	デバイス・ポータル

Administrators、Designers、Organizers、System および Helpdesk ロールを割り当てられたユーザーも、エンド・ユーザーの権限を持ちます。

注意： Wireless 全体の概要は、『Oracle9iAS Wireless 開発者ガイド』を参照してください。

サービス・デザイン

Wireless リポジトリ内のオブジェクトを作成および変更するには、サービス・デザインを使用します。リポジトリ内には、次のようなオブジェクトがあります。

表 6-2 Wireless リポジトリ内のオブジェクト

オブジェクト・タイプ	説明
フォルダ	フォルダを使用してサービスをグループ分けできます。エンド・ユーザーは、フォルダを介してサービスを使用できます。どのユーザーも、ホーム・フォルダを持ちます。このフォルダには、ユーザーがアクセスできるサービスが含まれ、通常は別名によって参照されます。また、ユーザーは、自分が属するグループが所有するフォルダ内のすべてのサービスにアクセスできます。
マスター・サービス	マスター・サービス・オブジェクトはサービスを実装し、特定のアダプタを起動します。マスター・サービスにはカスタム・トランスフォーマを関連付けることができます。カスタム・トランスフォーマは、サービスおよびデバイスに固有です。カスタム・トランスフォーマを使用できるのは、1つのデバイスおよび1つのマスター・サービスのみです。
プリセット定義	プリセット定義は、特にサービスに関連付けられます。このため、ユーザーは、プリセットを作成して自身の入力パラメータをアプリケーションに入力することにより、サービスをパーソナライズできます。ユーザーがサービスを要求すると、サービスによってユーザー定義の入力パラメータ（すなわち、プリセット）がロードされます。通常、サービスによってこれらのプリセットがユーザーに表示されると、そのユーザーは項目を選択してアプリケーションを実行する必要があります。
マスター・アラート	アラートのコンテンツ・データ・フィーダと、アラートに使用されるトリガー・パラメータのタイプを指定する、アラート・サービスのテンプレート。
データ・フィーダ	データ・フィーダは、内部および外部のコンテンツ・ソースからコンテンツを取得し、そのコンテンツを標準 XML 形式に変換するリポジトリ・オブジェクトです。
アダプタ	アダプタ・オブジェクトは、コンテンツ・ソースへの Wireless インタフェースを表します。アダプタ・オブジェクトには、classes という属性があります。この属性は、アダプタの実際の Java 実装を含むアーカイブ・ファイルを識別します。

表 6-2 Wireless リポジトリ内のオブジェクト（続き）

オブジェクト・タイプ	説明
トランスフォーマ	<p>トランスフォーマは、Wireless アダプタによって返されたコンテンツを変換します。次のようなタイプのトランスフォーマがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Result トランスフォーマ。Adapter Result コンテンツを Simple Result コンテンツに変換します。■ デバイスへの出力結果の表示。Simple Result コンテンツを最終ターゲット形式に変換します。 <p>デバイスへの出力結果の表示は、ロジカル・デバイスのデフォルト・トランスフォーマにできます。あるいは、特定のロジカル・デバイスに対する特定のマスター・サービスのレンダリングに使用するカスタム・トランスフォーマにすることもできます。</p>
ロジカル・デバイス	<p>ロジカル・デバイス・オブジェクトは、電子メールなどの物理デバイスまたは抽象デバイスをトランスフォーマに関連付けます。</p>
リージョン	<p>Wireless では、リージョンを使用して、開発者がロケーションをサービスに割当てできるようにします。これにより、サービスは特定のエリアに固有のロケーション・ベース・サービスになります。</p>

サービス・デザイナーには、マスター・サービス、マスター・アラート、ロジカル・デバイスおよびデータ・フィードを作成するためのウィザードのセットが用意されています。サービス・デザイナーのウィザードでは、これらの各コンポーネントの作成方法が、一連の手順に分割された個別のタスクとして表示されます。サービス・デザイナーでは、プロンプトに従って各手順を実行し、コンポーネントをすばやく簡単に作成できます。

また、サービス・デザイナーには、これらのウィザード以外にも、トランスフォーマをテストおよび作成するための画面があります。XSLT スタイルシートまたは Java クラスの形式のトランスフォーマによって、Wireless アダプタから返されたコンテンツが特定のプラットフォームに最適形式に変換されます。サービス・デザイナーでは、トランスフォーマのテストおよび作成の両方が可能です。このツールにより、アダプタ入力パラメータおよびソース・コンテンツのトランスフォーマを表示および編集できます。Wireless Edition XML の詳細は、『Oracle9iAS Wireless 開発者ガイド』を参照してください。

サービス・デザイナーを使用すると、特定のロケーションにいるユーザーに対して表示されるロケーション・ベースのマスター・サービスを作成できます。開発者は、サービス・デザイナーを使用して、ロケーションを空間データ・リポジトリからのマスター・サービスに割り当てることにより、このようなロケーション・ベースのマスター・サービスを作成できます。このツールにより、空間オブジェクトを、対応するジオメトリを持つマップ・イメージとして表示できます。また、リポジトリ内の空間データベースに格納されたデータのアクセス、表示および変更が可能になります。

コンテンツ・マネージャ・ツール

コンテンツ・マネージャ・ツールを使用すると、コンテンツ開発者が作成したマスター・サービスおよびマスター・アラートに基づいてサービスおよびアラートを作成できます。コンテンツ・マネージャのツールによって、各ユーザー・グループにサービス、アラートおよびトピックを割当てできます。コンテンツ・マネージャ・ツールを使用すると、ユーザー・グループに適したビジネス・コンテキストで、ワイヤレス・ポータルを編成できます。コンテンツ・マネージャ・ツールには、サービスを簡単に作成できるウィザードが用意されています。コンテンツ・マネージャ・ツールの詳細は、[第 8 章](#)を参照してください。

ユーザー・マネージャ

このツールを使用すると、ユーザーとグループの作成および変更、ユーザーとグループへのサービスの割当てなどのヘルプデスクの作業を実行できます。ユーザー・マネージャの詳細は、[第 9 章](#)を参照してください。

ユーザー・マネージャを使用すると、サーバー・レベルでもサイト・レベルでもプロパティ・ファイルを集中管理できます。

ロジカル・デバイスの管理

この章では、コンテンツ開発者がサービス・デザイナを使用してリポジトリ内のロジカル・デバイスを作成および管理する方法について説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [サービス・デザイナの概要](#)
- [サービス・デザイナへのログイン](#)
- [ロジカル・デバイスとは](#)

サービス・デザイナの概要

サービス・デザイナは Web ベースのインタフェースであり、コンテンツ開発者はこれを使用して、ロジカル・デバイスの作成や、Ericsson 社製携帯電話などの物理デバイス、または電子メール・サーバーなどの抽象デバイスを表すリポジトリ・オブジェクトの作成が可能です。ロジカル・デバイスは、トランスフォーマとターゲット・デバイスやアプリケーションとの間のインタフェースを表します。

また、サービス・デザイナを使用すると、開発者は後述のリポジトリ・オブジェクトを作成できます。

マスター・サービス

マスター・サービスは、サービスの実際の実装を提供します。マスター・サービスによって、サービスに使用されるアダプタと、サービス固有のパラメータが指定されます。マスター・サービスは、アダプタをデバイス・トランスフォーマにマッピングすることにより、Wireless コンテンツ・ソースを配信プラットフォームにリンクします。各マスター・サービスは、1つのアダプタに基づいています。マスター・サービスは、自身が使用するアダプタのインスタンスを作成します。このため、複数のサービスが同じタイプのアダプタを使用し、それぞれがそのサービスに固有の引数値を渡すこともあります。

コンテンツ・マネージャによって、マスター・サービスに基づいてサービスが作成され、それらのサービスがユーザー・グループに割り当てられます。

非同期エージェント・サービス

サービス・デザイナを使用すると、マスター・サービスを HTTP 以外のプロトコルでアクセスできるようにすることで、マスター・サービスを強化できます。たとえば、Web ブラウザは搭載されていないが双方向メッセージングまたは電子メールはサポートされているデバイスの場合、そのデバイスのユーザーがアクセスするサービスには、非同期エージェント・サービスを割り当てることができます。

非同期エージェント対応サービスを使用すると、ユーザーは Web コンテンツにアクセスできます。たとえば、非同期エージェント・サービスを使用すると、OracleMobile にサブスクライブするエンド・ユーザーは、Ask@OracleMobile.com にメッセージを送信することにより、株取引、交通情報、星占いなどの Web コンテンツを取得できます。Wireless 上で実行されている Ask リスナーは、電子メールまたはショート・メッセージとして送信されたこのメッセージを捕捉し、リクエストを適切なサービスまたはアプリケーションにルーティングし、要求された情報をユーザーに送信します。

マスター・アラート

マスター・アラートはアラートのテンプレートで、ユーザーがアラート・サービスへのサブスクライブ時に設定したトリガー条件に基づいてユーザーに配信される通知サービスです。マスター・アラートは、アラート・サービスに使用されるデータ・フィーダと、アラート・サービスのトリガー・パラメータ定義、トリガー条件定義および入力パラメータ定義（オプション）を指定します。また、マスター・アラートは SimpleResult XML メッセージ・テンプレートを表示します。

アラート・サービスには、決定された値に関して、またはスケジュールされた時刻にデータ・フィードから導出されたアラート・メッセージを配信する機能があります。

アラート・メッセージのデフォルトの配信メカニズムでは、トランスポート・モジュールが使用されます。アラート・エンジンによって、アラート配信イベントを処理するカスタマイズ済メッセージ配信メカニズムを起動するためのフックが提供されることがあります。

データ・フィード

データ・フィードは、内部および外部のコンテンツ・ソースからコンテンツを取得し、そのコンテンツを標準 XML 形式に変換するリポジトリ・オブジェクトです。次に、データ・フィード・メカニズムによって、そのコンテンツがアラート・エンジンにパブリッシュされます。アラート・エンジンは、データ・フィードによりコンテンツ・ソースから取得されレンダリングされたコンテンツを使用するアラート・メッセージを送信します。

プリセット定義

プリセットを使用すると、ユーザーは、アプリケーション独自の入力パラメータを定義することにより、サービスをパーソナライズできます。ユーザーがサービスを要求すると、アダプタによってユーザー定義の入力パラメータ（すなわちプリセット）がロードされます。サービスによってこれらのプリセットがユーザーのリストとして表示されたら、そのユーザーは項目を選択してアプリケーションを実行する必要があります。Wireless では、各サービスに固有の表にユーザーのプリセットが保存されます。

トランスフォーマ

トランスフォーマは、ドキュメントをターゲットの形式または別の Wireless 形式に変換する Java プログラムまたは XSLT スタイルシートです。トランスフォーマには、ソース・タグをターゲット形式のタグにマッピングするだけでなく、コンテンツを操作する機能もあります。トランスフォーマにはテキストを再配置、フィルタ処理および追加する機能があるため、コンテンツをその形式で表示することも、ターゲット・デバイスに最適なフォーム・ファクタで表示することもできます。

Wireless 初期リポジトリには、CHTML、HDML、HTML、MML、VoiceXML、VoxML および WAP (WML) など、ターゲットの複数の形式用のトランスフォーマが含まれています。提供されているトランスフォーマを変更するか、または新規のトランスフォーマを作成することにより、新規のデバイス・プラットフォームをターゲットにし、特定のデバイスに対してコンテンツ表示を最適化することができます。Wireless では、誰もがあらゆるタイプのデバイスおよびマークアップ言語のサポートを作成できるように、デバイス変換ルール・ファイルがパブリッシュされます。

ロジカル・デバイスに関連付けられるトランスフォーマは、デバイスのデフォルト・トランスフォーマです。通常、デフォルトのトランスフォーマはマークアップ形式用に一般化されていますが、ターゲット・デバイスに固有のものにすることもできます。Wireless では、デフォルト・トランスフォーマがカスタム・デバイス・トランスフォーマにオーバーライドされていないかぎり、デバイスのデフォルト・トランスフォーマを使用して、そのタイプのデバイスをターゲットにしたサービスを変換します。カスタム・デバイス・トランスフォーマ

を使用すると、特定のデバイス上でのサービスの表示方法を制御できます。複数のデバイスで1つのデフォルト・トランスフォーマを使用することはできますが、カスタム・トランスフォーマは1つのマスター・サービスおよび1つのデバイスとしか関連付けできません。カスタム・トランスフォーマは、特定のデバイスについてそのサービスの表示を最適化したもので、そのデバイスに対してしか使用できません。

トランスフォーマを作成する場合は、ソース・コンテンツ内の要素を結果の形式にマッピングします。

アダプタ

アダプタとは、外部ソースからデータを取得し、それを Wireless XML でレンダリングする Java アプリケーションです。Oracle9iAS Wireless アーキテクチャにおいては、アダプタは、Wireless サーバーとコンテンツ・ソース間のインタフェースを構成します。マスター・サービスによってアダプタが起動されると、アダプタはサービス・コンテンツを含む XML オブジェクトを返します。XML オブジェクトは、Wireless のコアによって処理され、ユーザーのサービス・リクエストへのレスポンスとしてユーザーのデバイスに配信されます。

リージョン

Wireless では、リージョンを使用して、開発者がロケーションをサービスに割当てできるようにします。これにより、サービスは特定のエリアに固有のロケーション・ベース・サービスになります。

サービス・デザイナへのログイン

サービス・デザイナを使用する前に、次のようにして Webtool にログインする必要があります。

1. 次の URL を使用してログイン・ページにアクセスします。

`http://hostname:7777/webtool/login.uix`

注意： 7777 は、Oracle9iAS Wireless のデフォルトのポート番号です。ポート番号の範囲は、7777 ～ 7877 です。正しいポート番号を使用していることを確認するため、\$ORACLE_HOME/install/portlist.ini に格納されている Oracle9iAS Wireless のポート番号をチェックしてください。ポートの使用方法の詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

2. ユーザー名を入力し、パスワードを入力します。管理者の場合は、ユーザー名として「orcladmin」を入力します。（パスワードはインストール時に設定されたものですが、ユーザー・マネージャを使用すると変更できます。）

ログインが完了すると、サービス・デザイナの「サービス」画面が表示され、「サービス・デザイナ」タブが選択された状態になります。「サービス・デザイナ」タブには、次のサブタブが含まれます。

- マスター・サービス
- データ・フィード
- マスター・アラート
- データ・フィード
- ロジカル・デバイス
- プリセット定義
- トランスフォーマ
- アダプタ
- リージョン

サービス・デザイナには、これらの各リポジトリ・オブジェクト用のタブが用意されています。各タブには参照画面があり、これによってオブジェクトを検索したり、オブジェクトを作成、編集、削除およびテストする機能にアクセスできます。

図 7-1 サービス・デザイナの「マスター・サービス」タブの「フォルダの参照」画面

マスター・サービス

マスター・アラート

データ・フィード

ロジカル・デバイス

プリセット定義

トランスフォーマ

アダプタ

リージョン

検索

すべてのマスター・サービス

キーワード

次の条件でソート

サービス名

実行

サービス・デザイナ > マスター・サービス

フォルダの参照: master

ようこそ test_ja

アイテムの選択...

削除

移動

デバッグ

編集

選択	タイプ	サービス名	オブジェクト ID	アダプタ	テスト	有効	モジュール化	非同期エ	最終更新日時
							順序可能	ジェント	
								使用可能	
<input checked="" type="radio"/>		AppFrameworkMasterService	219	AppFrameworkAdapter		Yes	0	No	火 5 27 22:48:22 JST 2003
<input type="radio"/>		HttpMasterService	218	HttpAdapter		Yes	0	No	火 5 27 22:48:22 JST 2003
<input type="radio"/>		Main Menu	255	HttpAdapter		Yes	0	No	火 5 27 22:48:24 JST 2003
<input type="radio"/>		StudioMasterService	223	HttpAdapter		Yes	0	No	火 5 27 22:48:23 JST 2003
<input type="radio"/>		examples	214			Yes	0		火 5 27 22:48:22 JST 2003
<input type="radio"/>		modules	229			Yes	0		火 5 27 22:48:23 JST 2003
<input type="radio"/>		selftest	286			Yes	0		火 5 27 22:48:26 JST 2003

サブフォルダの追加

マスター・サービスの作成

ロジカル・デバイスとは

ロジカル・デバイスとは、Nokia 社製携帯電話などの物理デバイス、または電子メールなどの抽象デバイスを表す Wireless リポジトリ内のオブジェクトです。ロジカル・デバイスは、Wireless トランスフォーマとターゲット・デバイスやアプリケーションとの間のインタフェースを表します。

Wireless は、HTTP ヘッダーからのサービスを要求しているデバイスのタイプを判別します。デバイス・エージェントは、電子メール・アドレスや電話番号などのユーザーのデバイス・アドレスと、デバイス・タイプを識別します。この情報によって、Wireless はユーザーに通知を配信できます。

Wireless には、異なる複数のデバイス・タイプおよび形式を表すロジカル・デバイスのデフォルト・セットが含まれます。デフォルト・セット内に含まれていないデバイスを作成する場合は、サービス・デザイナを使用する必要があります。

ロジカル・デバイスを作成する機能にアクセスするには、「ロジカル・デバイス」タブをクリックします。「ロジカル・デバイス」タブをクリックすると、「ロジカル・デバイスの参照」画面が表示され、リポジトリ内のロジカル・デバイスのリストが表示されます。「ロジカル・デバイスの参照」画面を使用すると、ロジカル・デバイスのユーザー・エージェントを検索、作成、削除および編集できます。

図 7-2 「ロジカル・デバイスの参照」画面

マスター・サービス マスター・アラート データ・フィード **ロジカル・デバイス** プリセット定義 トランスフォーマ アダプタ

検索 キーワード

サービス・デザイナ > ロジカル・デバイス

ロジカル・デバイスの参照

アイテムの選択...

選 択	ロジカル・デバイス名	オブ ジェ クト ID	デバイス・クラス	トランスフォーマ	ユーザー・エージェント	優先MIMEタイプ
<input checked="" type="checkbox"/>	ASYNc	379	MICRO_MESSENGER	ASYNc_JAVA		text/plain
<input type="checkbox"/>	AvantGo	405	PDA_BROWSER	merge-avantgo32	Mozilla/3.0 (compatible; AvantGo*)	text/html
<input type="checkbox"/>	BLAZER	380	PDA_BROWSER	merge-blazer	UPG1 UP/4.0 (compatible; Blazer 1.0)*	text/html
<input type="checkbox"/>	DoCoMo	381	MICRO_BROWSER	merge-html	DoCoMo*	text/html
<input type="checkbox"/>	EMAIL	382	MESSENGER	merge-htmlbase		text/html
<input type="checkbox"/>	Ericsson	383	MICRO_BROWSER	merge-wml11-ericsson	EricssonR320/R1A*, WapIDE-SDK*, R380*, Ericsson*	text/vnd.wap.wml
<input type="checkbox"/>	GOWEB_HTML	384	MICRO_BROWSER	merge-goweb	Go.Web*	text/html
<input type="checkbox"/>	HDML	385	MICRO_BROWSER	HDML	UP.Browser/3.0*, UP.Browser/3.1*	text/x-hdml
<input type="checkbox"/>	HDML_EZMAIL	386	MICRO_BROWSER	HDML	UP.Browser/3.04-SY12 UP.Link/*	text/x-hdml

ロジカル・デバイスの検索

参照画面から、「キーワード」フィールドを使用してロジカル・デバイスを検索できます。検索結果は、名前、ユーザー・エージェントまたはトランスフォーマを基準にしてソートできます。

ロジカル・デバイスを検索するには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じて、次のいずれかの検索結果ソート・オプションを選択します。
 - 名前
 - トランスフォーマ
 - ユーザー・エージェント
2. 検索のキーワードを入力します。
3. 「実行」をクリックします。「検索結果」画面が表示されます。参照画面に戻るには、「OK」をクリックします。

図 7-3（ロジカル・デバイスの）「検索結果」画面

サービス・デザイナー > ロジカル・デバイス > 検索

検索結果

選択	ロジカル・デバイス名	オブジェクトID	デバイス・クラス	トランスフォーマ	ユーザー・エージェント	優先MIMEタイプ
<input checked="" type="radio"/>	HDM	385	MICRO_BROWSER	HDML	UP.Browser/3.0*, UP.Browser/3.1*	text/x-hdml
<input type="radio"/>	HDM_EZMAIL	386	MICRO_BROWSER	HDML	UP.Browser/3.04-SY12 UP.Link/*	text/x-hdml

ロジカル・デバイスの作成

ロジカル・デバイスを作成するには、ロジカル・デバイスの作成ウィザードを使用します。ロジカル・デバイスの作成ウィザードでは、ロジカル・デバイスの作成に必要な手順を示します。画面に必要事項を入力した後、「次へ」ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。「戻る」ボタンをクリックすると、前の画面に戻り、編集を実行できます。

手順 1: ロジカル・デバイスの基本情報の入力

1. 「ロジカル・デバイスの参照」画面から、「ロジカル・デバイスの作成」をクリックします。「基本情報」画面が表示され、次のパラメータが示されます。

表 7-1 ロジカル・デバイスの作成ウィザードの「基本情報」画面のパラメータ

パラメータ	値
名前	ロジカル・デバイスの名前。
説明	ロジカル・デバイスの説明（オプション）。
エンコーディング	ロジカル・デバイスのコンテンツ・エンコーディング。デバイス・タイプの結果をトランスポートするときに使用されます。
優先 MIME タイプ	ロジカル・デバイスの MIME タイプ。実行時に、Wireless でユーザー・エージェント HTTP ヘッダーが検出されない場合、Wireless によって、データベース内にある同じ MIME タイプの別のデバイスに対するフェイルオーバーが行われます。
デバイス・クラス	デバイス・タイプのドロップダウン・リスト。メニューには、次の項目が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">■ VOICE■ MICRO_BROWSER■ PDA_BROWSER■ PC_BROWSER■ MICRO_MESSENGER■ MESSENGER
プロローグ	デバイスに必要なプロローグの形式を指定します。多くの場合、プロローグには処理の指示とメタ・タグが含まれます。

2. 「名前」にロジカル・デバイスの名前を入力します。この名前は、一意にする必要があります。たとえば、「電子メール」と入力します。
3. 必要に応じて、デバイスの説明を入力します。
4. ロジカル・デバイスのコンテンツ・エンコーディング・パラメータを入力します。たとえば、「UTF-8」と入力します。
5. 「MIME」フィールドに MIME タイプを入力します。たとえば、「text/html」と入力します。
6. 「デバイス・クラス」ドロップダウン・リストから、ユーザーのデバイスの適切な表示サイズを選択します。
7. デバイスに必要なプロローグを入力します。
8. 「次へ」をクリックします。「トランスフォーマ」画面が表示されます。

手順 2: 適切なトランスフォーマの選択

- 1. 「トランスフォーマ」画面から、移動機能（「>」または「>>」）を使用して、ロジカル・デバイスの MIME タイプに適したトランスフォーマを「適確なトランスフォーマ」から「選択されたトランスフォーマ」に移動します。削除機能（「<」または「<<」）を使用して、使用しないトランスフォーマを「選択されたトランスフォーマ」から削除します。
- 2. 「次へ」をクリックします。

手順 3: ユーザー・エージェントの追加

「ユーザー・エージェント」画面では、ユーザー・エージェントをリストから選択することにより、デバイス・タイプおよびアドレスを識別するメカニズムであるユーザー・エージェントをロジカル・デバイスに割当てできます。

ユーザー・エージェントを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. ユーザー・エージェント名を入力します。たとえば、「WIG Browser/1.1*」と入力します。
- 2. 必要に応じて、「1 行追加」をクリックして、別のユーザー・エージェントを追加します。
- 3. 「次へ」をクリックします。「デバイス属性」画面が表示され、次のパラメータが表示されます。

表 7-2 「デバイス属性」画面のパラメータ

パラメータ	値
システム固有のドキュメントの最大サイズ	デバイスに送信可能な最大バイト数。これは、キャプションの長さのガイドラインになります。
表示プロパティ	
画面幅	このオプションを使用して、物理デバイスの画面の幅をポイントで記述します。
画面高さ	このオプションを使用して、物理デバイスの画面の高さをポイントで記述します。
スクリーン列	文字数で指定した画面サイズ。テキストをページに分割する場合は、このオプションを使用します。
スクリーン行	文字数で指定した画面サイズ。テキストをページに分割する場合は、このオプションを使用します。
ソフト・キーの番号	これを使用すると、ユーザーがホット・リンクを電話のソフト・キーにマッピングできます。

表 7-2 「デバイス属性」画面のパラメータ（続き）

パラメータ	値
Cookie のサポート	
カラー対応	カラーをサポートするデバイスを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
ビット / ピクセル	ピクセル当たりのカラーまたはグレースケールのビット数。
ボイス対応	ボイスをサポートするデバイスを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
イメージ対応	イメージをサポートするデバイスの場合は、このチェックボックスを選択します。移動機能（「>」または「>>」）を使用して、「使用可能なフォーマット」から優先イメージ形式を選択します。削除機能（「<」または「<<」）を使用して、使用しないイメージ形式を「優先フォーマット」から削除します。
ビデオ対応	ビデオをサポートするデバイスの場合は、このチェックボックスを選択します。移動機能（「>」または「>>」）を使用して、「使用可能なフォーマット」から優先ビデオ形式を選択します。削除機能（「<」または「<<」）を使用して、使用しないビデオ形式を「優先フォーマット」から削除します。
ストリーム	リアルタイム・ビデオの場合は、このラジオ・ボタンを選択します。このオプションを選択できるのは、「ビデオ対応」を選択した場合のみです。
バッファ	このオプションは、時間遅延として動作するもので、受信したビデオ・データ・ビットを再生前に格納します。このオプションを使用すると、ユーザーにはすべてのフレームがスムーズに表示されます。このオプションを選択できるのは、「ビデオ対応」を選択した場合のみです。

手順 4: ロジカル・デバイスのデバイス属性の設定

次のように、「デバイス属性」画面に必要な事項を入力します。

1. 「システム固有のドキュメントの最大サイズ」を入力します。
2. 次のように、表示プロパティを設定します。
 - a. 画面幅のポイントを入力します。
 - b. 画面高さのポイントを入力します。
 - c. スクリーン列の数を入力します。
 - d. 行の数を入力します。
 - e. エンド・ユーザーがショートカットの作成に使用できるソフトキーの数を入力します。

3. デバイスでカラーをサポートする場合は、「カラー対応」チェックボックスを選択します。
4. ピクセル当たりのビット数を入力します。
5. デバイスでオーディオをサポートする場合は、「ボイス対応」チェックボックスを選択します。
6. デバイスでイメージをサポートする場合は、「イメージ対応」チェックボックスを選択します。
7. 移動機能（「>」または「>>」）を使用して、「使用可能なフォーマット」から優先イメージ形式を選択します。削除機能（「<」または「<<」）を使用して、使用しないイメージ形式を「優先フォーマット」から削除します。
8. デバイスでビデオをサポートする場合は、「ビデオ対応」チェックボックスを選択します。
9. ビデオをサポートするデバイスの場合は、このチェックボックスを選択します。移動機能（「>」または「>>」）を使用して、「使用可能なフォーマット」から優先ビデオ形式を選択します。削除機能（「<」または「<<」）を使用して、使用しないビデオ形式を「優先フォーマット」から削除します。
10. リアルタイム・ビデオの場合は、「ストリーム」オプションを選択します。このオプションを選択できるのは、「ビデオ対応」を選択した場合のみです。
11. 受信したビデオ・データ・ビットを再生前に格納する場合は、「バッファ」オプションを選択します。このオプションを使用すると、ユーザーにはすべてのフレームがスムーズに表示されます。このオプションを選択できるのは、「ビデオ対応」を選択した場合のみです。
12. 「次へ」をクリックします。「ユーザー・エージェント」画面が表示されます。

手順 5: ログイン・ページの作成

「ログイン・ページ」画面では、デバイス上にログイン・ページを生成する XSLT スタイルシートを作成できます。

1. 次のいずれかの方法を使用して、スタイルシートを指定します。
 - a. 「ログイン・ページ」フィールドに、XSLT スタイルシートを手動で入力します。
 - b. テキスト・エディタから XSLT スタイルシートを「ログイン・ページ」フィールドにコピーします。
 - c. 「インポート」をクリックして、XSLT スタイルシートをインポートします。「インポート」画面で、「インポート・ファイル」フィールドにファイル名を入力してから「インポート」をクリックするか、または「参照」機能およびアップロード・ウィンドウを使用してファイルを取得します。ファイルを選択した後、「開く」をクリックします。「インポート」画面から、「インポート」をクリックします。

2. 「次へ」をクリックします。「エラー・ページ」画面が表示されます。

手順 6: エラー・ページの作成

「エラー・ページ」画面では、デバイス上にエラー・ページを生成する XSLT スタイルシートを作成できます。

1. 次のいずれかの方法を使用して、スタイルシートを指定します。
 - a. 「ログイン・ページ」フィールドに、XSLT スタイルシートを手動で入力します。
 - b. テキスト・エディタから XSLT スタイルシートを「ログイン・ページ」フィールドにコピーします。
 - c. 「インポート」をクリックして、XSLT スタイルシートをインポートします。「インポート」画面で、「インポート・ファイル」フィールドにファイル名を入力してから「インポート」をクリックするか、または「参照」機能およびアップロード・ウィンドウを使用してファイルを取得します。ファイルを選択した後、「開く」をクリックします。「インポート」画面から、「インポート」をクリックします。
2. 「終了」をクリックして、ロジカル・デバイスを完了します。

ロジカル・デバイスの変更

Wireless サービス・デザイナを使用すると、リポジトリ内のロジカル・デバイスを変更できます。ロジカル・デバイスを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「ロジカル・デバイスの参照」画面から、編集するロジカル・デバイスを選択します。
2. 「編集」をクリックします。「ロジカル・デバイスの編集」画面が表示されます。左のメニューから、編集するロジカル・デバイスのコンポーネントを選択します。ロジカル・デバイスの基本情報の値を設定する方法の詳細は、[「手順 1: ロジカル・デバイスの基本情報の入力」](#)を参照してください。トランスフォーマの選択方法の詳細は、[「手順 2: 適切なトランスフォーマの選択」](#)を参照してください。デバイス属性の設定の詳細は、[「手順 4: ロジカル・デバイスのデバイス属性の設定」](#)を参照してください。ユーザー・エージェントの選択または追加の詳細は、[「手順 3: ユーザー・エージェントの追加」](#)を参照してください。ログイン・ページの作成方法の詳細は、[「手順 5: ログイン・ページの作成」](#)を参照してください。エラー・ページの作成方法の詳細は、[「手順 6: エラー・ページの作成」](#)を参照してください。
3. 「OK」をクリックして、変更をコミットします。

ロジカル・デバイスの削除

リポジトリからロジカル・デバイスを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「ロジカル・デバイスの参照」画面から、ロジカル・デバイスを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

ワイヤレスおよびボイス・アプリケーションの管理

コンテンツ・マネージャを使用すると、リポジトリ・オブジェクトの作成および編成が可能になります。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [コンテンツ・マネージャの概要](#)
- [コンテンツ・マネージャへのログイン](#)
- [モバイル・サービス・パラメータの構成](#)

コンテンツ・マネージャの概要

コンテンツ・マネージャを使用すると、モバイル・サービスなどのサービスを編集できます。これらの再利用可能サービスは、通常のサービスとして起動することも、別のサービスから起動してそのサービスに結果を返すこともできます。Oracle9iAS Wireless には、カレンダー、アドレス帳、FAX およびメールなどの Personal Information Management (PIM) ツール向けのサービスを含む、ただちにデブatoi可能な複数のモバイル・サービスが用意されています。

Oracle Collaboration Suite では、モバイル・サービスの入力パラメータを編集する場合、主にコンテンツ・マネージャを使用します。たとえば、コンテンツ・マネージャを使用すると、次のようなリポジトリ・オブジェクトを作成し、管理できます。

フォルダ

フォルダを使用すると、サービスやブックマークなどのオブジェクトを編成できます。フォルダをユーザー・グループに割り当てるときは、そのフォルダ内のサブフォルダ、サービスおよびブックマークをユーザーに対してアクセス可能にします。

サービス

サービスは、マスター・サービスまたはモバイル・マスター・サービスを継承します。これによって、サービス・アクセスを複数のユーザーまたはグループに分散できます。また、サービス・デザイナーでマスター・サービスに対して初期設定された値をオーバーライドするデフォルトのパラメータ値を設定できるため、マスター・サービスを特殊化できます。この機能により、サービスをローカライズできることなどのメリットが得られます。たとえば、マスター・サービスにより市全域のレストラン情報を配信する場合、そのアダプタは1つのパラメータ（ロケーション）を取り、市全域のレストランのリストを返します。マスター・サービスでは市などの広域のロケーションを指定できますが、その市内の地区など、特定のパラメータに基づいてサービスを作成できます。その場合、ユーザーのロケーションに基づいて編成したユーザー・グループに、適宜サービスを配信できるようになります。

ブックマーク

ブックマークを使用すると、ユーザーは外部リソース（通常は、ターゲット・デバイスによってサポートされる形式のコンテンツを配信する Web ページ）にすばやくアクセスできます。エンド・ユーザーは、Wireless Customization でブックマークを外部 URL に設定できます。ブックマークは、デバイス・ベースのカスタマイズ・ツールにおけるメニュー選択項目として表示されます。Wireless では、URL ターゲットのコンテンツは処理されません。ターゲット・コンテンツの形式は、ユーザーのデバイスでサポートされている必要があります。

アラートおよびトピック

アラートは、ユーザーがアラート・サービスへのサブスクライブ時に設定したトリガー条件に基づいてユーザーに配信される通知サービスです。アラートは、マスター・アラートを継承します。コンテンツ・マネージャによって、サービス・デザイナを使用して構成されたマスター・アラートからアラートが作成されます。コンテンツ・マネージャでは、トピック（アラートを分類するコンテナ）に基づいてアラートが編成されます。

コンテンツ・マネージャへのログイン

コンテンツ・マネージャを使用する前に、次のようにして Webtool にログインする必要があります。

1. 次の URL を使用してログイン・ページにアクセスします。

`http://hostname:7777/webtool/login.uix`

注意： 7777 は、Oracle9iAS Wireless のデフォルトのポート番号です。ポート番号の範囲は、7777 ～ 7877 です。正しいポート番号を使用していることを確認するため、\$ORACLE_HOME/install/portlist.ini に格納されている Oracle9iAS Wireless のポート番号をチェックしてください。ポートの使用方の詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

2. ユーザー名を入力し、パスワードを入力します。管理者の場合は、ユーザー名として「orcladmin」を入力します。（パスワードはインストール時に設定されたものですが、ユーザー・マネージャを使用すると変更できます。）

注意： コンテンツ・マネージャにアクセスするには、Administrator ロールまたは Organizer ロールが付与されている必要があります。

モバイル・サービス・パラメータの構成

コンテンツ・マネージャの「サービス」タブを使用すると、モバイル・サービスにアクセスできます。

「サービス」タブをクリックすると、「サービスのブラウズ」画面が表示されます。ツールにログインした後、初めて「サービス」タブにアクセスすると、「サービスのブラウズ」画面にルート・レベルのフォルダおよびサービスが表示されます。

この画面を使用して、フォルダ、サービス、モバイル・サービス、ブックマークおよび非同期サービスを検索できます。また、この画面では、既存のマスター・サービスに基づいてサービスを作成したり、フォルダおよびブックマークを追加できます。また、これらのオブ

ジェクトを削除、デバッグ、移動および編集する場合も、「サービスのブラウズ」画面を使用します。

図 8-1 「サービスのブラウズ」画面



リポジトリ・オブジェクトの検索

「サービスのブラウズ」画面の検索機能を使用すると、次のリポジトリ・オブジェクトを検索し、表示できます。

- サービス
- モジュール
- 非同期サービス
- ブックマーク
- フォルダ

検索フィールドと検索オプションのドロップダウン・リストを一緒に使用すると、検索の絞り込みや、検索対象の拡大ができます。結果は、「検索結果」画面に次のように表示されます。

表 8-1 「検索結果」画面の「検索結果」セクションの要素

要素	説明
名前	フォルダまたはサービスの名前。フォルダ名をクリックすると、そのサブフォルダが表示されます。
オブジェクト ID	データベースに格納されているオブジェクト ID。

表 8-1 「検索結果」画面の「検索結果」セクションの要素（続き）

要素	説明
フルパス	「サービス」をルートとした、リポジトリ・オブジェクトへの経路。経路上の各ノードは、ハイパーリンクとして表示されます。ハイパーリンクをクリックすると、「参照」画面が表示され、フォルダの下に編成されたサブフォルダ、サービスおよびブックマークが表示されます。この「参照」画面を使用して、サービス、ブックマークおよびフォルダの作成や削除といった機能を実行できます。
参照可能	列に「true」が表示されている場合、オブジェクトは参照可能であり、エンド・ユーザーからアクセス可能です。「false」の場合、オブジェクトは参照できません。
順序	サービスおよびフォルダが出力デバイス上で表示される順序。デフォルトでは、最初に順序番号、次に名前を基準にした順序で表示されます。「順序」フィールドに値を入力して、サービスおよびフォルダが表示される順序を再配置できます。 Wireless では、サービスおよびフォルダはデフォルトで、最初に順序番号、次に名前を基準にして昇順でソートされます。
最終更新日時	フォルダまたはサービスが最後に変更された日時。

リポジトリ・オブジェクトを検索するには、次の手順を実行します。

1. オブジェクトの名前を入力します。オブジェクトの完全名を入力するか、または部分一致が返されるように SQL の Like 句パターンを使用します。
2. ドロップダウン・リスト・ボックスから次のいずれかのオプションを選択して、検索対象を絞り込むか、または拡大します。
 - サービス
 - モジュール
 - 非同期サービス
 - ブックマーク
 - フォルダ
3. 次のいずれかのオプションを選択して、検索結果をソートする基準を指定します。
 - 名前
 - 最終更新日時

4. 「検索」をクリックします。「検索結果」画面が表示され、問合せで一致した項目が表示されます。

注意：「検索」フィールドに、SQL の LIKE 句パターン一致テスト（「*」または「%」）を入力することにより、オブジェクトを検索できます。たとえば、「検索」フィールドに「Per%」と入力すると、「per」で始まるすべてのオブジェクトが返されます。

図 8-2 コンテンツ・マネージャ・ツールの「検索結果」画面

サービス アラート ユーザー・ホーム・ルート グループ

検索tes% タイプサービス 次の条件でソート名前 実行

コンテンツ・マネージャ > ルート・フォルダおよびサービス > 検索 ようこそ test_j6

検索結果

名前	オブジェクト ID	フルパス	参照可能	最終更新日時
TestService	445	ルート・フォルダおよびサービス > TestService	true	火 7 22 17:27:30 JST 2003

モバイル・サービスの編集

コンテンツ・マネージャでは、モバイル・サービスの基本情報およびパラメータを編集できます。モバイル・サービス入力パラメータの値の説明は、第 4 章「ボイスおよびワイヤレス用のモバイル・サービスの構成」を参照してください。

モバイル・サービスを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「サービスのブラウズ」画面から、編集するモバイル・サービスを選択します。
2. 「編集」をクリックします。「一般」画面が表示され、サービスの基本情報を編集できるようになります。

図 8-3 モバイル・サービスの基本情報の編集

サービス アラート ユーザー・ホーム・ルート グループ

コンテンツマネージャ > ルート・フォルダおよびサービス > Short Messaging

サービスの編集: 一般

- サービス名 Short Messaging
- 説明 Short Messaging
- 順序 7
- コスト 0
- タイトル・アイコン・URI /ptg/images/pim/sm/sm.{gif,wbmp}
- メニュー・アイコン・URI /ptg/images/pim/sm/sm_small.{gif,w}
- タイトル・オーディオURI
- メニュー・オーディオURI
- リージョン名
- 参照可能 ☒
- パーソナライズ可能 ☒
- タイプ
 - ☐ 通常サービス
 - ☒ モジュール

リージョンを選択するためにフラッシュライトをクリックしてください

「一般」画面には、次のパラメータが表示されます。

表 8-2 「一般」画面のパラメータ

パラメータ	値
サービス名	サービスの名前。このフィールドは必須です。
説明	サービスの説明。
順序	サービスが出力デバイス上で表示される順序。デフォルトでは、最初に順序番号、次に名前を基準にした順序で表示されます。「順序」フィールドに値を入力して、サービスが表示される順序を再配置し、親フォルダの「レンダラ・タイプ」を「システム」に設定し、親フォルダの「sorting option」を「順序番号」に設定できます。Wireless では、サービスおよびフォルダはデフォルトで、最初に順序番号、次に名前を基準にして昇順でソートされます。
コスト	サービスにアクセスするためのユーザーの起動コスト。サービス・コストが 0（ゼロ）でない場合、Wireless によって tx_panama.log ファイルにサービス起動が記録されます。
言語	サービスの表示言語のドロップダウン・リスト。サービスの表示言語がサービスに関連付けられている言語と異なる場合、ユーザーはそのサービスにアクセスできなくなります。
タイトル・アイコン URI	このサービスが現在のサービスになったときに画面の最上部に表示されるアイコンとして使用されるイメージの URI。Wireless によってユーザーのデバイスに適したイメージ形式が選択されるため、この URI に形式の種類を指定する必要はありません。

表 8-2 「一般」画面のパラメータ（続き）

パラメータ	値
メニュー・アイコン URI	メニュー・リスト内でサービスの隣に表示されるアイコンとして使用されるイメージの URI。Wireless によってユーザーのデバイスに適したイメージ形式が選択されるため、この URI に形式の種類を指定する必要はありません。
タイトル・オーディオ URI	ユーザーがサービスにアクセスしたときにボイス・リーダー・ソフトウェアによって読み上げられるオーディオ・ファイル（たとえば、.wav ファイル）の URI。Wireless によってユーザーのデバイスに適したオーディオ・ファイル形式が選択されるため、この URI に形式の種類を指定する必要はありません。
メニュー・オーディオ URI	メニュー・リスト内のサービスとともにボイス・リーダー・ソフトウェアによって読み上げられるオーディオ・ファイル（たとえば、.wav ファイル）の URI。Wireless によってユーザーのデバイスに適したオーディオ・ファイル形式が選択されるため、この URI に形式の種類を指定する必要はありません。
リージョン名	サービスに関連付けられた大陸、国または都市のエリア。リージョンをサービスに割り当てた場合、ユーザーは、割り当てられたリージョン内から、そのサービスとそのコンテンツしか表示できません。
参照可能	このチェックボックスを選択すると、サービスはエンド・ユーザーから参照可能になります。このオプションを選択しない場合、ユーザーはこのサービスを表示することも、アクセスすることもできません。構築中のサービスは、エンド・ユーザーに表示されないように設定できます。
パーソナライズ可能	このオプションを選択すると、エンド・ユーザーは、Wireless Customization で、またはこのサービスの順序変更、非表示または表示を行うデバイス上で、ユーザー表示をカスタマイズできます。
タイプ	モバイル・サービスとしてデプロイ可能なサービスを作成する場合は、「モジュール」を選択します。モバイル・サービスでないサービスを作成する場合は、「標準」を選択します。

3. 適宜、値を編集します。
4. 「適用」をクリックして、変更を保存します。「取消」をクリックして、変更をクリアします。

モバイル・サービスの OMP URL の編集

コンテンツ開発者がこのサービスのベースとなるマスター・サービスをモバイル・サービスとして設計した場合、「マスター・サービス」画面で呼び出されるモバイル・サービスの OMP URL アドレスを編集できます。すべてのモバイル・サービスは、OracleMobile プロトコル (OMP) によって識別されます。また、モバイル・サービスの構成ページの URL を入力することもできます。「適用」をクリックすると、変更が保存されます。「取消」をクリックすると、OMP URL および「モジュール構成 URL」の値が元の状態に戻ります。この画面から別のマスター・サービスを編集したり、選択することはできません。

図 8-4 モバイル・サービスの URL の編集

The screenshot shows the 'Edit Service: Master Service' page. The breadcrumb trail is 'コンテンツ・マネージャ > ルート・フォルダおよびサービス > Short Messaging'. The left sidebar has a tree view with 'マスター・サービス' selected. The main content area has a title 'サービスの編集: マスター・サービス'. Below the title, there are two sections: 'マスター・サービス' and 'OMP URL'. The 'OMP URL' section has a text input field containing 'omp://oracle/services/pim/sm'. Below that is the 'モジュール構成URL' section with an empty text input field.

入力パラメータの編集

サービスの入力パラメータは、そのサービスのベースとなったマスター・サービス（およびそのアダプタ）に対して設定した入力パラメータになります。この画面を使用して編集するパラメータには、サービス・デザイナによって作成されたパラメータと、マスター・サービスによって使用されるアダプタに固有のパラメータが含まれます。たとえば、編集するモバイル・サービスが、HttpAdapter を使用したマスター・サービスをベースにしている場合、次のようなパラメータが含まれます。

表 8-3 HttpAdapter をベースにしたマスター・サービスの入力パラメータ

パラメータ	値
Application URL Address	データ・ソースの URL。URL 内に問合せが存在する場合、その文字は適切に URL エンコーディングされている必要があります。たとえば、「http://my.host.com:80/Hello.jsp?fn=First+Name&ln=Last+Name」のようになっている必要があります。
Replace Relative URL	アダプタにより、結果内の相対 URL を絶対 URL で置き換えるかどうか。このパラメータを <code>false</code> に設定するのは、結果内に相対 URL が存在しないことがわかっている場合のみです。デフォルト値は、 <code>true</code> です。
HTTP Method	URL のコンテンツを取得するためにアダプタによって使用される HTTP メソッド。メソッドは GET および POST です。デフォルトのメソッドは、GET です。

表 8-3 HttpAdapter をベースにしたマスター・サービスの入力パラメータ（続き）

パラメータ	値
Input Encoding	リモート Web サーバーのエンコーディング・スキーム。IANA キャラクタ・セット名を使用してください。名前のリストは、 http://www.iana.org/assignments/character-sets に公開されます。たとえば、「ISO-8859-1」、「UTF-8」、「ISO-2022-JP」などです。

サービス・デザイナによってデフォルト値として設定されたパラメータ値は、この画面では読取り専用で、編集できません。

モバイル・サービスのパラメータの編集

PIM モバイル・サービスまたはロケーション・モバイル・サービスのパラメータの詳細は、第 4 章「ボイスおよびワイヤレス用のモバイル・サービスの構成」を参照してください。

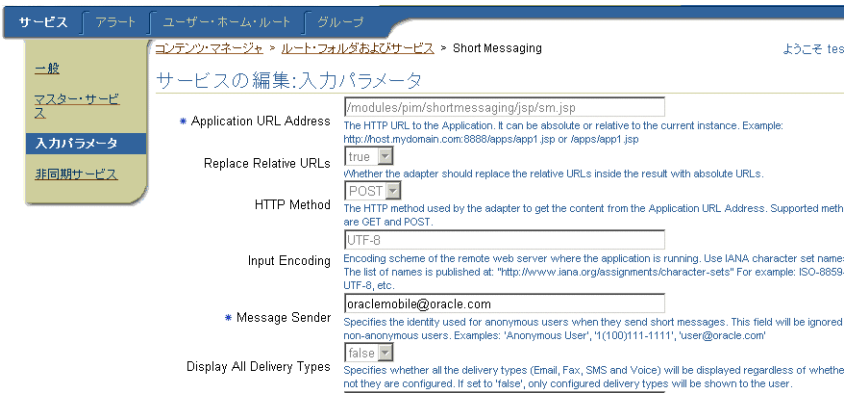
アドレス帳モバイル・サービスには、すべての非同期対応モバイル・サービスに関連する次の 4 つの構成パラメータが含まれます。

- Asynchronous Contact Separator
- Asynchronous Query OID
- Asynchronous Max Contacts Results
- Asynchronous Translate Commands

これらのパラメータの値セットは、すべての非同期対応サービスに影響を与えます。

入力パラメータを編集した後、「適用」をクリックして変更を保存します。「取消」をクリックすると、入力パラメータの値が元の値に戻ります。

図 8-5 入力パラメータの編集



非同期エージェント機能の編集

次のように値を編集します。

- 「エイリアス名」フィールドに、簡単に参照できる短いサービス名を入力します。このフィールドは必須です。エンド・ユーザーは、この名前を使用して、電子メールやSMSなどの手段でサービスを起動します。Wireless によって、この名前が一意であることがチェックされます。
- 「区切り文字」フィールドにテキストの区切り文字を入力します。この区切り文字によって、ユーザーが電子メールやSMSなどの手段によって非同期サービスを起動したときに入力した入力引数が区切られます。空白文字が、デフォルトの区切り文字です。
- 「ヘルプ」フィールドに、コマンド構文または使用方法のテキストを入力します。ユーザーが非同期サーバーに対してアプリケーション・ヘルプ・コマンドを発行すると、このテキストがユーザーに返されます。
- 「Delivery Address List」セクションに、ユーザーがサービス起動メッセージを送信する先のサービス・アドレスを入力します。このアドレスを、デバイス・タイプに適した形式（SMSまたは電子メール）で入力します。たとえば、電子メールの場合、サービス・アドレスとして「stock@oraclemobile.com」を入力します。これは、オプションのパラメータです。
- 「Asynchronous Agent Argument List」セクションで、各引数のデフォルト値を設定します。「上に移動」および「下に移動」を使用して、非同期エージェント引数をサービス入力引数に割り当てます。

変更を保存する場合は、「適用」をクリックします。値を元の状態に戻す場合は、「取消」をクリックします。

図 8-6 非同期サービス情報の編集

サービス

アラート

ユーザー・ホーム・ルート

グループ

一般

マスター・サービス

入力パラメータ

非同期サービス

コンテンツ・マネージャ > ルート・フォルダおよびサービス > Short Messaging

ようこそ test_ji

サービスの編集:非同期サービス

• エイリアス名

区切り文字

デフォルトの区切り文字は半角スペースです

非同期コマンドライン 構文

Send short messages through SMS.

サービス指定アドレス・リスト

サービス指定アドレスはオプションです。サービス・エイリアス名を指定することなしに非同期サービスを実行するのに使用されます。非同期サービスはサービス・エイリアス名を指定することによりサイト・ワイド・アドレスとして常に行われます。サイト・ワイド・アドレスは、Wirelessサーバー・サイト・ページのEnterprise Managerにおいて構成可能です。

デリバリー・タイプ

サービス指定アドレス

SMS

Email

非同期サービス指数リスト

アイテムの選択...

上に移動

下に移動

選択	指数名	値
<input checked="" type="radio"/>	type	

モバイル・サービスの構成

モバイル・サービスを構成するには、サービス作成ウィザードの「マスター・サービス」画面で、「モジュール構成 URL」フィールドに構成ページの URL を入力します。サービスの作成が完了すると、「サービスの編集」画面から構成 URL にアクセスできます。

モバイル・サービスの構成ページにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1. サービスを選択します。
- 2. 「編集」をクリックします。「サービスの編集」画面が表示されます。
- 3. 左のパネルから、マスター・サービスを選択します。
- 4. 「マスター・サービス」画面で、「構成」をクリックします。構成ページが表示されます。

モバイル・サービスの削除

サービスを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. 「参照」画面から、削除するモバイル・サービスを選択します。
- 2. 「削除」をクリックします。

注意： サービスを作成、編集および削除する機能にアクセスするには、「検索結果」画面の「フルパス」列でハイパーリンクを選択します。

モバイル・サービスのテスト

コンテンツ・マネージャを使用すると、モバイル・サービスを電話シミュレータ上でテストし、表示できます。

サービスをテストするには、次の手順を実行します。

1. 「サービスのブラウズ」画面から、テストするモバイル・サービスを選択します。
2. 選択したモバイル・サービスと同じ行にある「Run Services」列内の電話アイコンをクリックします。電話シミュレータが表示され、サービスが表示されます。

注意： OC4J アダプタ・サービスをテストまたはデバッグするには、**.jsp** を `web-application/modules` ディレクトリにコピーする必要があります。たとえば、入力パラメータ URL が `apps/myservice.jsp` の場合、**myservice.jsp** を `.../wireless/j2ee/applications/webtool/webtool-web/modules/apps/` にコピーします。

サービスのデバッグ

コンテンツ・マネージャは、Wireless XML またはデバイスのマークアップ言語を表示すると同時に電話シミュレータを起動し、サービスを表示することができます。

XSLT スタイルシートまたは Java クラスの形式のトランスフォーマによって、Wireless アダプタから返されたコンテンツが特定のプラットフォームに最適な形式に変換されます。

サービスをテストするには、次の手順を実行します。

1. 「フォルダの参照」画面で、サービスを選択します。
2. 「デバッグ」をクリックします。「デバッグ・サービス」画面が表示されます。
3. 次のいずれかの出力形式を選択します。

- Adapter XML Result

この結果タイプを選択すると、ソース出力デバイスとターゲット出力デバイスの間形式である `AdapterResult` 形式で Wireless ソース・コンテンツを表示できます。`AdapterResult` 形式のソース・コンテンツは、ターゲット・デバイスに配信する前に、`SimpleResult` 形式に変換する必要があります。「サービス結果」パネルにテキストが表示されない場合、`AdapterResult` は生成されていません。

- Wireless XML Result

「Wireless XML Result」を選択すると、アダプタによって返された出力の Wireless `SimpleResult` 形式でソース・コンテンツが表示されます。

■ デバイスへの出力結果の表示

「DeviceTransformer」ドロップダウン・メニューに、リポジトリ内のロジカル・デバイスが一覧表示されます。ロジカル・デバイスを選択すると、そのデバイスの最終マークアップ言語を表示できます。

4. 「パラメータの設定」をクリックします。
5. 「サービスの実行」をクリックします。電話シミュレータ上にサービスが表示されます。選択された結果は、サービス結果ウィンドウに表示されます。

ロギング・ファイルの表示の長さの設定

「システム・ログ」セクションでは、表示するサーバーのシステム・ログ・ファイルの終わりからの行数を設定できます。

サーバーのシステム・ログの終わりからの表示行数を設定するには、次の手順を実行します。

1. レビューするシステム・ログの終わりからの行数を入力します。
2. 「ログのリフレッシュ」をクリックします。指定したシステム・ログの終わりからの行数が表示されます。

モバイル・サービスの移動

コンテンツ・マネージャの「移動」機能を使用すると、モバイル・サービス、フォルダおよびブックマークをユーザー・グループに適したビジネス・コンテキストで編成できます。

モバイル・サービス、フォルダおよびブックマークを移動するには、次の手順を実行します。

1. 「サービスのブラウズ」画面から、移動するモバイル・サービス、フォルダおよびブックマークを選択します。
2. 「移動」をクリックします。
3. オブジェクトの新しいフォルダを選択します。必要に応じて、フォルダをクリックして適切なサブフォルダにドリルダウンします。**Wireless**により、階層内の位置がナビゲーション・パスを通じて追跡されます。
4. 「ここに移動」をクリックします。コンテンツ・マネージャによって、選択したオブジェクトが新しいフォルダ内に表示されます。

ユーザーの管理

この章では、ユーザー・マネージャを使用して Oracle9iAS Wireless ユーザーとユーザー・グループを作成および変更する方法について説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [ユーザー・マネージャの概要](#)
- [ユーザー・マネージャへのログイン](#)
- [ユーザー・マネージャの使用](#)

ユーザー・マネージャの概要

ユーザー・マネージャにアクセスできるのは、Administrator ロールまたは Helpdesk ロールが付与されたユーザーです。このツールを使用すると、ユーザーとグループの作成および変更、ユーザーとグループへのサービスの割当てなどのヘルプデスク機能を実行できます。

ユーザー・グループは、複数のユーザーのサービス・アクセスを管理する際に役立ちます。サブスクライブ・レベル、地理的なロケーション、インタレストなどの考慮事項に基づいて、ユーザー・グループを作成できます。各ユーザー・オブジェクトは、Oracle9iAS Wireless エンド・ユーザーを表します。

ユーザー・オブジェクトの名前は、Wireless 内で一意である必要があります。ユーザーは、外部 ID 属性を持ちます。Wireless では、この ID を使用して、ユーザーが外部プロビジョニング・システム・アカウントに関連付けられます。たとえば、外部 ID の値は、外部リポジトリへの ID を持つ電話番号やユーザー・アカウント番号などになります。

ユーザー・ロールの割当て

Wireless ユーザーには、次のロールを割当てできます。

表 9-1 Wireless ユーザー・ロール

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
Designer	Designer ロールを割り当てられたユーザーは、次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none">■ マスター・サービスとアダプタの作成、変更、削除およびテスト■ データ・フィードとマスター・アラートの作成、変更、削除およびテスト■ ロジカル・デバイスのトランスフォーマの作成、変更および削除■ ロケーション・ベースのサービスの開発■ プリセット定義の開発	サービス・デザイナー

表 9-1 Wireless ユーザー・ロール（続き）

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
Organizer	<p>Organizer ロールを割り当てられたユーザーは、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サービス・フォルダの管理 ■ マスター・サービスに基づいたサービスの作成 ■ マスター・アラートに基づいたアラートの作成 ■ ユーザーおよびユーザー・グループへのアプリケーションのデプロイ ■ ロケーション・ベースのサービスに対するリージョンの割当て 	コンテンツ・マネージャ
System	<p>System ロールを割り当てられたユーザーは、システム管理ツールを使用してシステムを管理します。</p>	Wireless システム管理機能（Oracle Enterprise Manager Console から）
Helpdesk	<p>Helpdesk ロールを割り当てられたユーザーは、次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーおよびグループの管理 ■ ユーザー・プロファイルおよびサービスのチェック ■ 新規のグループおよびユーザーの作成 ■ ユーザー・アクセス権限の管理 ■ ユーザーに対する様々なロールの割当て ■ サービス、アラートおよび非同期ログの表示 	ユーザー・マネージャ

表 9-1 Wireless ユーザー・ロール（続き）

ユーザー・ロール	説明	使用可能なツール
End User	<p>End User ロールを割り当てられたユーザーは、Wireless サービスのコンシューマです。エンド・ユーザーは、Wireless Customization を使用して、Wireless への登録時に自身のアカウントを作成します。また、エンド・ユーザーは、デスクトップまたはデバイスから自身のサービスをカスタマイズすることもできます。エンド・ユーザーのカスタマイズには、次の操作が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ アラートへの加入■ プリセットの作成■ ユーザー・プロファイルの管理 <p>デフォルトでは、あらゆる Wireless ユーザーに Mobile Customer ロールが付与されます。このロールは、すべてのユーザーに対して暗黙的です。</p>	デバイス・ポータル

また、Wireless では、Wireless には未登録だがゲストとしてサービスを試用しようとする Anonymous ユーザーが許可されます。グループごとに Anonymous ユーザー・アカウントを作成できます。未登録のユーザーはすべて、ゲスト・アカウントを共有して、グループが所有するサービスを起動します。ゲスト・ユーザーは、サービスをパーソナライズできません。

ユーザーが Wireless Webtool にアクセスできるようにする

ロールをユーザーに割り当てるには、DAS などの汎用ユーザー管理ツールではなく、ユーザー・マネージャを使用してください。DAS やその他の OID ツールを使用して作成されたユーザーは、Wireless ポータル、デバイス・ポータルまたは PC ベースのツールに初めてアクセスするときのみ、Wireless 内でプロビジョニングされます。プロビジョニングされたこれらのユーザーには、Wireless Webtool へのアクセスに必要なロールは割り当てられていません。たとえば、サービス・デザイナーにアクセスするユーザーには Designer ロールが必要です。ロールを割り当てられていないユーザーが Wireless Webtool にログインしようとすると、Wireless によって次のシングル・サインオン・エラーが表示されます。

Your session has timed out. Please log on again.

ユーザーへのロールの割当てが完了して初めて、そのユーザーは Wireless Webtool（またはその他のコンポーネント）に正常にログインできます。ユーザーの作成およびユーザー・ロールの割当て方法の詳細は、「ユーザーの作成」を参照してください。

ユーザー・マネージャへのログイン

ユーザー・マネージャを使用する前に、次のようにしてログインする必要があります。

1. 次の URL を使用してログイン・ページにアクセスします。

http://hostname:7777/webtool/login.uix

注意： 7777 は、Oracle9iAS Wireless のデフォルトのポート番号です。ポート番号の範囲は、7777 ～ 7877 です。正しいポート番号を使用していることを確認するため、\$ORACLE_HOME/install/portlist.ini に格納されている Oracle9iAS Wireless のポート番号をチェックしてください。ポートの使用方法的の詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

2. ユーザー名を入力し、パスワードを入力します。管理者の場合は、ユーザー名として「orcladmin」を入力します。(パスワードはインストール時に設定されたものですが、ユーザー・マネージャを使用すると変更できます。)

ユーザー・マネージャの使用

ユーザー・マネージャに正常にログインすると、デフォルトで、「ユーザー」画面が表示され、「ユーザー」タブが選択された状態になります。

図 9-1 「ユーザーの検索結果」画面

ユーザーグループ

ユーザーの検索表示名グループ名Guests実行

ユーザー・マネージャユーザーようこそ test_ja

ユーザーの検索結果

アイテムの選択...削除非同期ログの表示アラート・ログの表示サービス・ログの表示サービスの表示編集

◎ 行前へ12/2行後へ◎

選択	ユーザー名	表示名	グループ名	ロール名
<input checked="" type="radio"/>	Guest		Guests;	
<input type="radio"/>	test_ja		Guests;SelfTest;StudioUsers;Users;	System;HelpDesk;Designers;Organizers;Administrators;

「ユーザーの検索結果」画面では、ユーザーの検索、ユーザー・プロファイルの作成と編集、およびユーザーの削除ができます。

ユーザーの検索

「ユーザー」サブタブには、現在の Wireless ユーザーの検索に使用する「ユーザー名」、「表示名」および「グループ」フィールドが含まれます。「ユーザーの検索結果」画面には、次のような検索結果が表示されます。

表 9-2 「ユーザーの検索結果」画面の要素

ラベル	定義
ユーザー名	ユーザーの名前。
表示名	ユーザーの表示名。
グループ名	ユーザーに割り当てられているグループ。
ロール名	ユーザーに割り当てられているロール。ユーザー・ロールの詳細は、「 ユーザー・ロールの割当て 」を参照してください。

ユーザーを検索するには、次の手順を実行します。

1. 「ユーザー名」フィールドにユーザーの名前を入力します。
2. ユーザーの表示名がわかっている場合は、「表示」フィールドに入力します。
3. ドロップダウン・リストから、ユーザーが属するグループを選択します。
4. 「検索」ボタンをクリックします。検索基準に合致するユーザーのリストが表示されます。特定のグループに属するすべてのユーザーを検索するには、「グループ」フィールドでグループ名を選択し、「検索」をクリックします。

検索の絞り込み

「表示名」フィールドにユーザーの表示名を追加してから「実行」をクリックすると、検索対象を絞り込むことができます。

「ユーザー名」フィールドにワイルドカード（「*」または「%」）を入力してから「実行」をクリックすると、現在のユーザーがすべて表示されるように検索対象を拡大できます。

文字のかわりにワイルドカードを挿入できます。ワイルドカードは、現在の位置から文字列の末尾までのすべての文字に置き換えることができます。1つの文字を置き換えるには、疑問符 (?) を使用します。

ユーザー管理者は、グループ名を選択することにより、そのグループに属するすべてのユーザーを表示できます。

ユーザー情報の表示

「サービスの表示」ボタンを使用すると、選択したユーザーに属するサービスを表示およびテストできます。このボタンを使用して、シングル・ユーザーによって作成されたサービス、ブックマーク、フォルダおよびアラートを参照できます。

ユーザーを選択して「サービスの表示」ボタンをクリックすると、次の情報が表示されます。

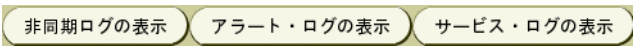
表 9-3 ユーザー情報

要素	説明
タイプ	選択したユーザーによって作成されたオブジェクトのタイプ。
名前	フォルダ、サービスまたはブックマークの表示名。
オブジェクト ID	データベース内のサービスまたはモジュールのオブジェクト ID (OID)。
マスター・サービス	起動されたユーザーのサービスのベースとなっているマスター・サービス。
テスト	電話アイコンをクリックすると、電話シミュレータ上でサービスを表示できます。
参照可能	列に「true」が表示されている場合、オブジェクトは参照可能であり、エンド・ユーザーからアクセス可能です。「false」の場合、オブジェクトは参照できません。
順序	サービスおよびフォルダが出力デバイス上に表示されるカスタマイズ済の順序。デフォルトでは、名前順に表示されます。
最終更新日時	オブジェクトが最後に変更された日時。

アクティビティ・ログの表示

ユーザー・マネージャでは、特定の時間フレーム内におけるユーザーのアクティビティを、アクセスされた非同期サービス、アラートおよびサービスを示すアクティビティ・ログによって表示できます。また、これらのアクティビティ・ログによって、Wireless でサービスが正常にディスパッチされたかがわかります。

図 9-2 アクティビティ・ログのボタン



アクティビティ・ログを表示するには、次の手順を実行します。

- 1. ユーザーを選択します。
- 2. アクティビティ・ログを選択します。
- 3. 「実行」をクリックします。アクティビティの統計情報が表示されます。

ユーザー・マネージャによって、選択したユーザーの非同期サービス統計に関して次の情報が表示されます。

表 9-4 非同期ログ

要素	説明
エイリアス名	非同期サービスの名前（たとえば、株取引サービスの場合は ST）
ID	データベース内の非同期エージェント・サービスの OID
デバイス・アドレス	アラートを受信するユーザー・デバイスのアドレス
サーバー・アドレス	非同期サービスのアドレス
デリバリ・タイプ	非同期サービスの配信タイプ（たとえば、SMS）
受信時間	非同期エージェント・エンジンがリクエストを受信した時刻
エラーの詳細	Wireless で非同期サービスに応答できなかった理由を説明するメッセージ

ユーザー・マネージャによって、選択したユーザーのアラート統計に関して次の情報が表示されます。

表 9-5 アラート・ログの統計情報

要素	説明
アラート名	アラートの名前。
アラート ID	データベース内のアラートの OID。
デバイス・アドレス	アラートを受信するユーザー・デバイスのアドレス。
デリバリ・タイプ	アラートを受信するロジカル・デバイスのタイプ（たとえば、WAP-Push、SMS または Email など）。
ディスパッチ時間	Wireless によりメッセージが送信された時刻。
メッセージ状態	Wireless によりメッセージが正常に送信されたかどうか。0 は、メッセージが正常に送信されたことを示します。1 は、メッセージの送信に失敗したことを示します。

ユーザー・マネージャによって、選択したユーザーのサービス統計に関して次の情報が表示されます。

表 9-6 サービス・ログの統計情報

要素	説明
サービス名	サービスの名前
サービス ID	データベース内のサービスの OID。
サービス・タイプ	ユーザーによりアクセスされたオブジェクトのタイプ（フォルダ、ブックマーク、サービスまたはローカル・モジュール）。
起動時間	ユーザーがサービスにアクセスした時刻。
起動状態	Wireless によりサービスが正常に実行されたかどうか。0 は、サービスが正常に起動されたことを示します。1 は、サービスの起動に失敗したことを示します。

時間フレームの選択

「開始日」フィールドと「終了日」フィールドを使用して、特定の期間についてのアクティビティ・ログを表示できます。開始日と終了日を設定するには、フィールドに mm/dd/yyyy 形式で日付を入力するか、またはカレンダーから日付を選択します。日付範囲を入力した後、「実行」をクリックします。

注意： デフォルトの「開始日」は、前日の夜中の 12 時です。「開始日」と「終了日」はどちらも、選択された日の夜中の 12 時を前提としています。

アクティビティ・ログの印刷

「印刷可能ページ」をクリックすると、アクティビティ・ログを印刷できます。この印刷されたページにはテキストが含まれ、ヘッダーやフッターは含まれません。印刷されたページから移動するには、ブラウザの「戻る」ボタンを使用します。

ユーザーの作成

(「作成」ボタンをクリックすると起動される)「ユーザーの作成」画面には、管理者が新規ユーザーの作成および構成時に設定するパラメータのセットが表示されます。

注意： ほとんどのエンド・ユーザーは、自分でデバイス・ポータル・アクセス (<http://hostname:7777/ptg/rm>) に登録して、自身のユーザー・アカウントを作成します。

「ユーザーの作成」画面には、次の必須パラメータが表示されます。

表 9-7 「ユーザーの作成」画面のパラメータ

パラメータ	値
ユーザー名	ユーザーの名前。 注意： ユーザー名では、大 / 小文字が区別されます。
電子メール・アドレス	ユーザーの電子メール・アドレス。
パスワード	ユーザーのパスワード。 注意： パスワードでは、大 / 小文字が区別されます。
パスワードの確認	再入力するユーザーのパスワード。
グループ	ユーザーに割当てできるグループ。矢印キーを使用して、グループからユーザーを選択 (「>」または「>>」) するか、あるいは削除 (「<」または「<<」) できます。
ロール	ユーザーに割当てできるロール。矢印キーを使用して、ロールからユーザーを選択 (「>」または「>>」) するか、あるいは削除 (「<」または「<<」) できます。ロールを選択しない場合、ユーザーはエンド・ユーザー権限を持つことになり、どの Wireless ツールにもアクセスできません。Helpdesk ユーザーは、他の Helpdesk ユーザーまたはエンド・ユーザーしか作成できません。

必須フィールドの他に、追加の従業員プロフィール情報、ユーザーの写真、ユーザーのホーム・アドレス、パブリック・グループ割当て、Oracle Reports および Oracle Forms ベースのアプリケーションへのアクセスを追加して、ユーザー情報を補完できます。

ユーザーを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「ユーザー」画面から、「作成」を選択します。「新規ユーザーの作成」画面が表示されます。
2. 「ユーザー名」フィールドにユーザーの名前を入力します。このフィールドは必須です。

3. 「電子メール・アドレス」フィールドにユーザーの電子メール・アドレスを入力します。
4. 「パスワード」フィールドにユーザーのパスワードを入力します。このフィールドは必須です。
5. 「パスワードの確認」フィールドにパスワードを再度入力します。このフィールドは必須です。
6. 必要に応じて、追加情報を入力します。
7. 「送信」をクリックして、ユーザーの作成を完了します。「ユーザーの検索結果」画面のユーザー・リスト内に、新しいユーザーが表示されます。

ユーザー・プロファイルの編集

ユーザー・プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ユーザー」画面から、プロファイルを変更するユーザーを選択します。
2. 「編集」をクリックします。「編集」画面が表示され、選択したユーザーの現在のユーザー・プロファイル情報が示されます。
3. 必要に応じて、値を編集します。ユーザー・プロファイルの作成方法の詳細は、「[ユーザーの作成](#)」を参照してください。
4. 「編集」をクリックします。「ユーザーのブラウズ」画面が表示され、「ユーザー」画面内のラベル（たとえば、ユーザー名など）に対して変更された内容が示されます。

Netscape 4.7 以下を使用したローカライズ済言語での UTF-8 ページの表示

言語によっては、バージョン 4.7 以下の Netscape を使用すると、適切に表示されないことがあります。文字がボックスとして表示される場合があります。この問題を修正するには、Netscape の設定項目を次のように構成してください。

1. Netscape のツールバーから、「編集」を選択します。
2. ドロップダウン・メニューから「設定」を選択します。「設定」ダイアログが表示されます。
3. 「カテゴリ」ツリーから、「フォント」を選択して「フォント」ダイアログを表示します。
4. 「フォント」ダイアログで、「文字コードセット」ドロップダウン・リストから「Unicode」を選択します。
5. 「プロポーショナルフォント」および「固定ピッチフォント」ドロップダウン・リストから、目的の言語をサポートするフォントを選択します。たとえば、目的の言語として中国語を選択した場合は、ページを中国語で表示するために「MS Song」を選択できます。

グループの管理

ユーザー・マネージャを使用すると、ユーザー・コミュニティを編成するユーザー・グループを作成できます。作成した後は、コンテンツ・マネージャによって、これらのユーザー・グループに適したサービスが割り当てられます。グループ（およびグループに属さないユーザー）には、オブジェクトが割り当てられません。これらのグループは、オブジェクトを参照します。

「グループ」タブを選択すると「グループ」画面が表示されます。この画面では、Wireless ユーザー・グループを作成、編集および削除できます。これらのグループをユーザーに割当てできます。グループへのユーザーの割当ての詳細は、「[ユーザーの作成](#)」を参照してください。

グループの作成

新しいユーザー・グループを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「新しいグループの作成」セクションで、「グループ名」フィールドに、作成するグループの名前を入力します。
2. 必要に応じて、グループの説明を入力します。
3. 「作成」をクリックします。「グループ名」セクションに、新しいグループが表示されます。

グループ名の編集

グループ名を編集するには、次の手順を実行します。

1. 「新しいグループの作成」セクションで、名前または説明を変更するグループを選択します。
2. 必要に応じて、グループ名または説明を編集します。
3. 「適用」をクリックします。

グループの削除

グループを削除するには、次の手順を実行します。

1. Wireless リポジトリから削除するグループの隣のラジオ・ボックスを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

第III部

システム管理ガイド

システム管理の概要

この章では、システム管理の各機能について説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [ボイスおよびワイヤレス管理の概要](#)
- [OEM を使用した Wireless システム管理へのアクセス](#)
- [Wireless サーバーの管理](#)
- [Wireless サイトの管理](#)

ボイスおよびワイヤレス管理の概要

Oracle9iAS Wireless のシステム管理機能を使用して、Oracle9iAS Wireless を一元的に管理および構成できます。すべての構成データは、データベースに格納されます。また、リアルタイムのパフォーマンス・データを監視してシステムの健全性を評価したり、データを収集して履歴の傾向を表示できます。

Oracle9iAS Wireless は、「Wireless サーバー」表示および「サイト」表示の 2 つの表示を使用して管理できます。

「Wireless サーバー」表示では、各サーバー・レベルでプロセスのシステム・パフォーマンスを監視および管理できます。また、グループとしても個人としてもサーバー・プロセスを開始および停止できます。

「サイト」表示では、すべてのプロセスと個々のマシンの全体が表示されます。「サイト」表示を使用すると、これらのマシンに共通の構成を作成できます。

OEM を使用した Wireless システム管理へのアクセス

Wireless のシステム管理機能および構成機能には、Oracle Enterprise Manager (OEM) Console からアクセスします。

Oracle Enterprise Manager Console にアクセスするには、次の URL をブラウザに入力します。

`http://Server:1810`

注意： デフォルト・ポートは、1810 および 1811 です。ポート番号の範囲は、1812 ~ 1820 です。正しいポート番号を使用していることを確認するため、\$ORACLE_HOME/install/portlist.ini に格納されている Oracle9iAS Wireless のポート番号をチェックしてください。ポートの使用の詳細は、Oracle9i Application Server のインストール・ガイドおよび『Oracle9iAS Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザー名およびパスワードを入力します。Oracle9iAS Enterprise Manager のホーム・ページが表示されます。「システム・コンポーネント」表から、「Wireless」を選択します。「Wireless」ページが表示され、デフォルトで「Wireless サーバー」タブが選択されます。

Oracle Enterprise Manager の使用

Wireless の管理には、Oracle Enterprise Manager を使用できます。Oracle Enterprise Manager には、本書に記載されている管理タスクのいくつかを実行できる Web ベースのツールが用意されています。

Oracle Enterprise Manager の詳細は、『Oracle9iAS Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

コンポーネントの実行

Oracle Collaboration Suite コンポーネントへのワイヤレスおよび音声アクセスを可能にするには、次のコンポーネントが実行されている必要があります。

中間層

- Oracle9iAS Web Cache
- OHS
- OC4J_Wireless
- OC4J_Portal
- Wireless
- Enterprise Manager Daemon (EMD)

インフラストラクチャ層

- メタデータ・リポジトリ
- Enterprise Manager Daemon (EMD)
- SSO

Oracle Enterprise Manager からのコンポーネントの起動と停止

これらのコンポーネントを、Oracle Enterprise Manager から次のように起動できます。

1. Oracle Enterprise Manager の Web サイトの「Instance Home」ページへ移動します。
2. 「Instance Home」ページの「一般」セクションで、「すべて開始」、「すべて終了」または「すべてを再起動」をクリックします。「システム・コンポーネント」セクションで、各コンポーネントのステータスを確認し、起動または停止されていることを確認します。

コマンドを使用したコンポーネントの起動と停止、コンポーネントの起動と停止に関する依存関係などの詳細は、『Oracle9iAS Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

図 10-1 「Instance Home」 ページ



Oracle Enterprise Manager からの Wireless の起動と停止

Wireless を停止または起動するには、次の手順を実行します。

- 1. ブラウザからデバイス・ポータル・ページにアクセスします。
- 2. Wireless 中間層を実行しているアプリケーション・サーバーに対応するリンクをクリックします。
- 3. Wireless リンクをクリックします。
- 4. 「すべて開始」をクリックします。

Wireless サーバーの管理

サーバーおよびプロセスのパフォーマンスを表示するには、「Wireless サーバー」タブを使用します。

図 10-2 「Wireless サーバー」タブ

Wirelessサーバー

サイト

Application Server: ocsv2mid.jp.sun2ee3.jp.oracle.com > Wireless > Wirelessサーバー

プロセス

管理

Wireless

最終更新時刻: 2003年7月22日 17:49:16 JST

一般

現在のステータス

停止中

すべて開始

すべて終了

レスポンスおよびロード

アクティブなセッションの数0

平均レスポンス時間(秒)0.0

平均セッション継続時間(秒)0.0

本日送信されたアラートの合計数0

本日ダウンロードされたデータの合計数null

本日の平均ダウンロード時間 (秒/バッチ)null

本日送信したメッセージの合計数0

本日受信したメッセージの合計数0

プロセス

すべて開く | すべて閉じる

Wirelessサーバー

プロセス	Name	ステータス
	Wirelessサーバー	
	Wireless Webサーバー	
	アラート・エンジン	
	非同期サーバー	
	データ・フィード	

「Wireless サーバー」タブは、「一般」セクション、「レスポンスおよびロード」セクション、「プロセス」セクションおよび「管理」セクションに分かれています。

「レスポンスおよびロード」セクションには、Wireless サーバーの全体的なパフォーマンスが表示されます。「プロセス」セクションには、次のプロセス・タイプを一覧した表が含まれます。

- Wireless Web サーバー
- アラート・エンジン
- 非同期サーバー
- データ・フィード
- メッセージング・サーバー
- パフォーマンス・モニター
- インダストリアル・デバイス・ポータル

■ PIM 通知ディスパッチャ

これらのプロセス・タイプは、Wireless サーバーの最上位レベルを表し、「プロセス」表内でハイパーリンクとして表示されます。いずれかのタイプをクリックすると、プロセス自体を管理できる画面にドリルダウンします。たとえば、「プロセス」表内の「データ・フィード」ハイパーリンクをクリックすると、「プロセス」画面へ移動できます。この画面には、現在のデータ・フィード・プロセスが一覧表示されます。

「プロセス」画面には、各プロセスが名前別に一覧された表が含まれ、各プロセスの現在のステータスが「開始」（実行中）、「停止」（停止中）または「未初期化」（プロセスは未実行）として示されます。アラート・エンジン、データ・フィード、メッセージング・サーバーおよびパフォーマンス・モニターのプロセス・タイプの「プロセス」画面には、プロセスが使用可能になっているかどうか、またはプロセスが他のプロセスとのキャッシュ同期化の対象かどうかを示す列も含まれます。これらの列では、**true** は、プロセスが使用可能であること、または他のプロセスとのキャッシュ同期化の対象であることを表します。**false** の値は、プロセスが使用可能でないこと、または他のプロセスとのキャッシュ同期化の対象でないことを示します。

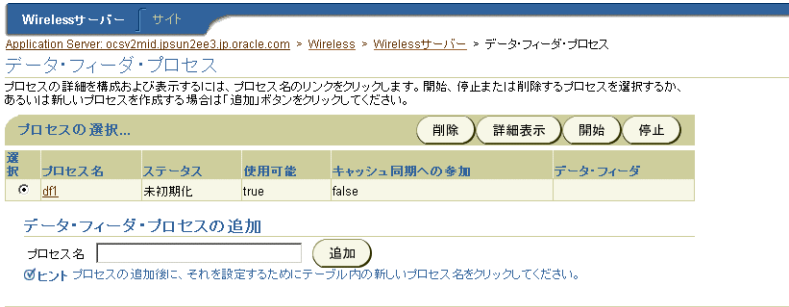
「プロセス」画面では、プロセスのステータスを表示する以外にも、選択したプロセスの追加、編集、削除、または起動や停止などの操作を実行できます。

注意：「Wireless サーバー」タブでは、「すべて開く」をクリックすると、すべてのプロセスを表示できます。同様に、「すべて閉じる」をクリックすると、すべてのプロセスを非表示にできます。多数のプロセスを表示および管理する場合、「Focus」をクリックすると、1 つのプロセス・タイプだけを取り出した表示を作成できます。

Wireless プロセスへのアクセス

プロセスを選択してから「詳細表示」ボタンをクリック（または、ハイパーリンクとして表されたプロセス自体をクリック）して、選択したプロセスの「詳細」画面にドリルダウンできます。「詳細」画面からは、プロセスの開始と停止、プロセスのパフォーマンス統計情報の表示、およびプロセスの構成ができます。「詳細」画面には、「一般」、「レスポンスおよびロード」および「管理」という名前のセクションがあります。

図 10-3 「プロセス」画面



「一般」セクションで「開始」または「停止」ボタンをクリックして、選択したパフォーマンス・モニター・プロセスを開始または停止できます。「一般」セクションでは、「カレント・ステータス」ラベルの隣に、選択したプロセスの現在の状態が表示され、「開始」、「停止」または「未初期化」として示されます。アラート・エンジン、データ・フィード、メッセージング・サーバーおよびパフォーマンス・モニターのプロセス・タイプの「詳細」画面の「一般」セクションには、「使用可能」ラベルがあります。このラベルの隣に **true** が表示されている場合、プロセスは使用可能です。**false** が表示されている場合、プロセスは使用可能ではありません。

「詳細」画面の「レスポンスおよびロード」セクションには、選択したプロセスの総合的なパフォーマンス統計情報が一覧表示されます。「パフォーマンス」セクションには、選択したプロセスのパフォーマンス・メトリックが一覧表示されます。画面の「管理」セクションからは、選択したプロセスを構成および管理できます。

サーバー上でのプロセスの開始および起動方法の詳細は、[第 11 章「サーバー管理」](#)を参照してください。サーバー・レベルのプロセスの構成方法の詳細は、[第 12 章「サーバー構成」](#)の「現在のホストのサーバー構成」を参照してください。サーバー上でプロセスのパフォーマンス・メトリックを表示する方法の詳細は、[第 13 章「サーバー・パフォーマンス監視」](#)の「現在のホストのサーバー・パフォーマンス監視」を参照してください。

図 10-4 プロセスの「詳細」画面



Wireless 管理からの移動

Wireless を管理する場合、(「OEM を使用した Wireless システム管理へのアクセス」で説明されている)「Wireless サーバー」タブまたは「サイト」タブなどの最上位レベルの画面から、選択したプロセスの「詳細」画面および「構成」画面にドリルダウンします。この経路は、各画面の最上部にナビゲーション・パスとして表示されます。たとえば、図 10-5 は、df1 という名前のデータ・フィード・プロセスの、「Wireless サーバー」タブから「詳細」画面へのナビゲーション・パスを示しています。このパスでアクセスする各画面はハイパーリンクとして表示されるため、その画面のハイパーリンクをクリックして、アクセスしてきた任意の画面に戻ることができます。

図 10-5 ナビゲーション・パス

[Application Server: ocsv2mid.ipsun2ee3.jp.oracle.com](#) > [Wireless](#) > [Wirelessサーバー](#) > [データ・フィード・プロセス](#) > [df1](#)

Wireless サイトの管理

「サイト」タブでは、共通のデータベース構成に対して実行されるすべてのプロセスを監視および管理できます。「サイト」タブを選択すると「サイト」画面が起動され、「レスポンスおよびロード」セクション内に全体的なサイト・パフォーマンス・メトリックが表示されます。「レスポンスおよびロード」セクションには、Wireless Web サーバーのサイト全体にわたるプロセスの総合的なパフォーマンス統計情報が表示されます。

Wireless 管理では、Wireless Web サーバー、アラートおよびフィード・コンポーネントのシステム・パフォーマンス・メトリックの現在のスナップショットが提供されるため、システムの健全性およびパフォーマンスを評価できます。これらの個々のメトリックは、システム内の障害を直接的に特定していない場合もありますが、これらのメトリックによって収集されたデータから仮説的な理由モデルを構築すると、システムの健全性を診断できます。

「サイト」画面には、サイト全体にわたるプロセス・タイプが示された「プロセス」表が表示されます。個々のプロセスは、プロセス・タイプの下に一覧されます。表には、サイト全体にわたるプロセスごとに、プロセス名、プロセスが実行されているマシン、およびプロセスの現在のステータス（「開始」、「停止」または「未初期化」）が一覧されます。

「Wireless サーバー」画面と同様に、これらのプロセス・タイプはハイパーリンクです。ここから「詳細」画面にアクセスし、選択したプロセスの構成と、そのパフォーマンス・メトリックの表示の両方が可能です。サイト全体にわたるプロセスの構成方法の詳細は、[第 12 章「サーバー構成」の「サイト全体のサーバーの構成」](#)を参照してください。[第 13 章「サーバー・パフォーマンス監視」の「サイトのサーバー側パフォーマンス監視」](#)を参照してください。

画面の「管理」セクションでは、プロキシ・サーバー、JDBC 接続プール、(セッションの継続期間を含む) ランタイム構成などのコンポーネントを構成できます。また、リポジトリ・オブジェクトやレジスタ・プロバイダをアップロードおよびダウンロードできます。詳細は、[第 12 章「サーバー構成」](#)を参照してください。

注意：「サイト」タブでは、「すべて開く」をクリックすると、すべてのプロセスを表示できます。同様に、「すべて閉じる」をクリックすると、すべてのプロセスを非表示にできます。多数のプロセスを表示および管理する場合、「Focus」をクリックすると、1 つのプロセス・タイプだけを取り出した表示を作成できます。

図 10-6 「サイト」 タブ

Wirelessサーバー

サイト

Application Server: ocsv2mid.jp.sun2ee3.jp.oracle.com > Wireless > サイト

プロセス

パフォーマンス

管理

サイト

最終更新時刻: 2003年7月23日 10:24:56 JST

レスポンスおよびロード

アクティブなセッションの数

0

平均レスポンス時間(秒)

0.0

平均セッション継続時間(秒)

0.0

本日送信されたアラートの合計数

0

本日ダウンロードされたデータの合計数

null

本日の平均ダウンロード時間 (秒/バッチ)

null

本日送信したメッセージの合計数

0

本日受信したメッセージの合計数

0

プロセス

最初に戻る

すべて開く | すべて閉じる

Wirelessサーバー

プロセス

Name

Wirelessサーバー

Wireless Webサーバー

アラート・エンジン

非同期サーバー

データ・フィーダ

ホスト名

df1

ステータス

未初期化

サーバー管理

この章では、Oracle9iAS Wireless サーバーの管理方法について説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [Wireless サーバーの管理](#)
- [サーバー・プロセスの表示](#)
- [ログ・ファイルの表示](#)

Wireless サーバーの管理

「Wireless サーバー」タブから、Wireless プロセスを開始および停止できます。これらのプロセスを同時に開始するには、「すべて開始」および「すべて終了」ボタンを使用します。プロセスを個別に開始するには、「プロセス」または「詳細」画面で「開始」および「停止」ボタンをクリックします。

図 11-1 「Wireless サーバー」タブ



サーバー・プロセスの表示

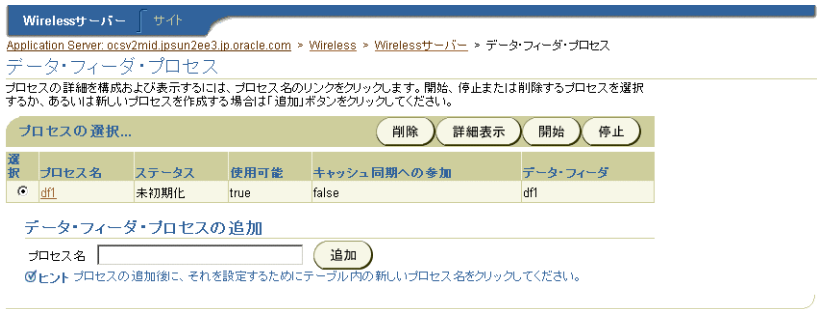
「Wireless サーバー」タブの「プロセス」表内でハイパーリンクになっているプロセス・タイプは、Wireless サーバーの最上位レベルを表します。デフォルトでは、これらの Wireless プロセスは拡張されたモードで表示されます。つまり、サーバー上のプロセスの各ノードは「プロセス」表内に表示されます。拡張された表示から、どのプロセスが「開始」（実行中）、「停止」（停止中）または「未初期化」（プロセスは未実行）かを確認できます。

ノードをクリックすると、選択したプロセスの「プロセス」画面および「詳細」画面にドリルダウンできます。これらの画面には、選択したプロセスの現在の状態（「開始」、「停止」または「未初期化」）が表示され、選択したプロセスを開始または停止するボタンが含まれます。また、これらの画面では、プロセスの作成、編集、削除および構成ができます。

注意： プロセスが開始または停止するまで数秒かかることがあるため、データ・フィード・プロセスの現在の実行ステータスを取得するには、ブラウザの「リフレッシュ」ボタンをクリックする必要があります。

「プロセス」画面および「詳細」画面の詳細は、第 10 章の「Wireless サーバーの管理」を参照してください。プロセスの作成、編集、削除および構成の詳細は、第 12 章「サーバー構成」を参照してください。

図 11-2 「プロセス」画面からの Wireless サーバー・プロセスの表示



次に、Wireless プロセスを開始または停止する方法について説明します。次の項目について説明します。

- メッセージング・サーバー・プロセスの開始と停止
- パフォーマンス・モニター・プロセスの開始と停止
- PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止

メッセージング・サーバー・プロセスの開始と停止

メッセージング・サーバー・プロセスを開始するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「メッセージング・サーバー」ハイパーリンクをクリックします。「メッセージング・サーバー・プロセス」画面が表示されます。
2. 開始するメッセージング・サーバー・プロセスを選択します。
3. 「開始」ボタンをクリックします。「ステータス」セクションに「開始」と表示されます。

メッセージング・サーバー・プロセスを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「メッセージング・サーバー」ハイパーリンクをクリックします。「メッセージング・サーバー・プロセス」画面が表示されます。
2. 「メッセージング・サーバー・プロセス」セクションから、停止するメッセージング・サーバー・プロセスを選択します。
3. 「停止」ボタンをクリックします。「ステータス」セクションに「停止」と表示されます。

パフォーマンス・モニター・プロセスの開始と停止

パフォーマンス・モニター・プロセスを開始するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「パフォーマンス・モニター」ハイパーリンクをクリックします。「パフォーマンス・モニター・プロセス」画面が表示されます。
2. 「パフォーマンス・モニター・プロセス」セクションから、開始するパフォーマンス・モニター・プロセスを選択します。
3. 「開始」ボタンをクリックします。「ステータス」セクションに「開始」と表示されます。

パフォーマンス・モニター・プロセスを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「パフォーマンス・モニター」ハイパーリンクをクリックします。「パフォーマンス・モニター・プロセス」画面が表示されます。
2. 停止するパフォーマンス・モニター・プロセスを選択します。
3. 「停止」ボタンをクリックします。「ステータス」セクションに「停止」と表示されます。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの開始と停止

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを開始するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「PIM 通知ディスパッチャ」ハイパーリンクをクリックします。「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面が表示されます。
2. 開始するプロセスを選択します。
3. 「開始」ボタンをクリックします。「ステータス」セクションに「開始」と表示されます。

通知サーバー・プロセスを停止するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「PIM 通知ディスパッチャ」ハイパーリンクをクリックします。「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面が表示されます。
2. 停止するプロセスを選択します。

- 3. 「停止」 ボタンをクリックします。「ステータス」 セクションに「停止」と表示されます。

ログ・ファイルの表示

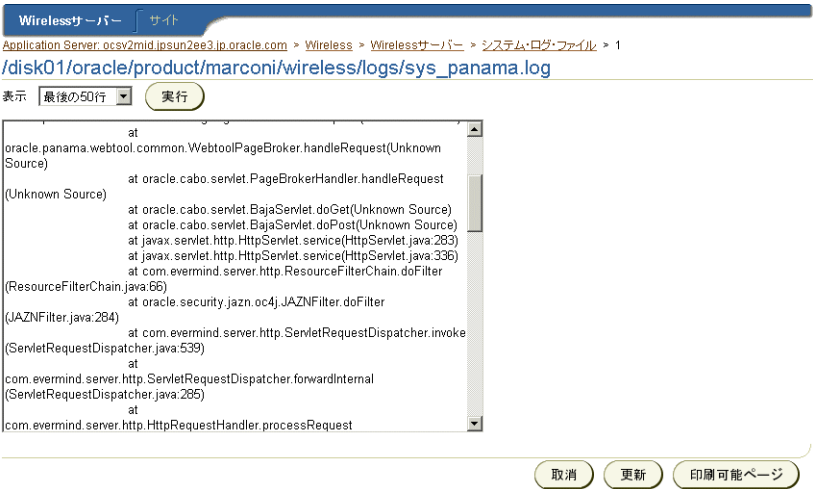
「システム・ログ・ファイル」画面は、「システム・ログ・ファイル」をクリックすると起動され、Wireless サーバー・マシン上のログ・ディレクトリの下のすべてのファイルが表示されます。Wireless によって、構成内に指定されているファイルおよびディレクトリにサーバー・エラー情報が書き込まれます。

図 11-3 「システム・ログ・ファイル」画面



ファイル名のリンクをクリックすると、ログ・ファイルを表示できます。(そのディレクトリのリンクをクリックすると、サブディレクトリにドリルダウンできます。)

図 11-4 システム・ログ・ファイルの表示



エラー・メッセージの他にも、Wireless には広範なランタイム例外ロギングが用意されています。致命的な例外が発生すると、Wireless によって例外が記録され、グローバル・ログ・ファイル内にトレースがスタックされます。

ログ・ファイルの表示と印刷

表示するログ・ファイルの終わりからの行数を指定できます。また、「印刷可能ページ」をクリックして、選択したファイル・セグメントをテキスト・ファイルとして印刷することもできます。画面に、印刷されるログ・ファイルの部分が表示されます。この画面から移動するには、ブラウザの「戻る」ボタンを使用します。

注意： オラクル社カスタマ・サポート・センターへの問合せが必要な場合には、ログ情報を準備してください。

12

サーバー構成

この章では、現在のホスト・レベルとサイト・レベルの両方で Oracle9iAS Wireless サーバーを構成する方法について説明します。項目ごとに、様々なトピックを扱います。次の項目について説明します。

- [現在のホストのサーバー構成](#)
- [サイト全体のサーバーの構成](#)
- [その他の構成](#)
- [サイトの管理](#)

現在のホストのサーバー構成

「Wireless サーバー」画面から、「プロセス」セクション内のプロセスを管理および構成できます。プロセスを管理および構成する機能にアクセスするには、まず「プロセス」セクション内のプロセスをクリックし、そのプロセスの「詳細」画面にドリルダウンします。また、この画面からプロセスの開始と停止、および選択したプロセスのパフォーマンス・メトリックの表示ができます。プロセスの開始および停止方法の詳細は、[第 11 章「サーバー管理」](#)を参照してください。パフォーマンス・メトリックの詳細は、[第 13 章「サーバー・パフォーマンス監視」](#)を参照してください。

プロセスの作成や削除などの管理タスクは、「プロセス」画面から実行します。この画面にアクセスするには、「Wireless サーバー」タブの「プロセス」セクション内のプロセス・タイプをクリックします。

サーバー上のプロセスを構成するには、「詳細」画面を使用します。この画面には、選択したプロセスからドリルダウンするか、「プロセス」画面で「詳細表示」ボタンをクリックしてアクセスします。

図 12-1 サーバー上の Wireless プロセスの「詳細」画面



サーバー上の非同期サーバー・プロセスの管理

サーバー上の非同期サーバー・プロセスの「詳細」画面では、選択した非同期サーバー・プロセスのステータス（「停止」、「開始」または「未初期化」）や、選択したプロセスのパフォーマンス・メトリックを表示できます。非同期サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの詳細は、[第 13 章「サーバー・パフォーマンス監視」](#)の「[非同期サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの表示](#)」を参照してください。

サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの管理

メッセージング・サーバー・プロセスの作成または削除は、「プロセス」画面から行います。

Wireless サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの作成

Wireless サーバー上にメッセージング・サーバー・プロセスを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「メッセージング・サーバー」画面で、「プロセス名」フィールドにメッセージング・サーバー・プロセスの名前を入力します。
2. 「追加」をクリックします。画面の「メッセージング・サーバー・プロセス」セクション内に、新しいメッセージング・サーバー・プロセスがハイパーリンクとして表示されます。

Wireless サーバー上のメッセージング・サーバー・プロセスの削除

メッセージング・サーバー・プロセスを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「メッセージング・サーバー」ハイパーリンクをクリックします。「メッセージング・サーバー」画面が表示されます。
2. 「メッセージング・サーバー・プロセス」セクションから、削除するメッセージング・サーバー・プロセスを選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。

メッセージング・サーバー・プロセスの構成

メッセージング・サーバー・プロセスの「詳細」画面から、次の構成タスクを実行できます。

- [プロセス認証の構成](#)
- [JDBC 接続プールの構成](#)
- [システム・ロギングの構成](#)
- [ドライバ・インスタンスの構成](#)

プロセス認証の構成

プロセス認証を構成するには、次の手順を実行します。

1. プロセス名を入力します。このフィールドは必須です。
2. 「プロセスを使用可能にする」チェックボックスを選択または選択解除します。
3. 「キャッシュ同期への参加」を選択して、他のプロセスとのキャッシュ同期を使用可能にします。

4. 「適用」をクリックします。「詳細」画面の「General Status」セクションに、プロセスの使用可能ステータスが **true** として表示されます。プロセスをキャッシュ同期に含めない場合は、使用可能ステータスは **false** として表示されます。

JDBC 接続プールの構成

接続プールを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「overview」画面で、「JDBC 接続プール」をクリックします。「JDBC 接続プール」画面が表示されます。
2. 「JDBC 接続プール」画面で、次のパラメータを入力します。
 - a. JDBC 接続プールの「最小接続数」を入力します。デフォルトは、1 です。
 - b. JDBC 接続プールの「最大接続数」を入力します。デフォルトは、100 です。
 - c. 「接続割当ての増分」フィールドに、JDBC 接続プールへの新規接続の割当ての増加単位を数値で入力します。デフォルトは、1 です。
3. 「適用」をクリックします。

注意： JDBC 接続プールは、サイト・レベルまたはプロセス・レベルで構成します。プロセス・レベルで JDBC 接続プールの値を指定しない場合は、サイト・レベルで設定された値がシステムによって使用されます。

システム・ロギングの構成

システム・ロギングを構成するには、次の手順を実行します。

1. ログ・ファイル名パターンの名前を入力します。
2. 「最大ログ・ファイル・サイズ」フィールドに、ファイル・サイズ（バイト）を入力します。
3. ログ・レベルの警告を選択します。警告には、「警告」、「エラー」または「通知する」を指定できます。
4. 「適用」をクリックします。

注意： システム・ロギングは、サイト・レベルまたはプロセス・レベルで構成します。プロセス・レベルでロギングの値を指定しない場合は、サイト・レベルで設定された値がシステムによって使用されます。

ドライバ・インスタンスの構成

メッセージング・サーバー・ドライバのサイト構成によって、ドライバとそのパラメータ（すなわち、ドライバ定義）が定義されます。サーバー構成では、ドライバが選択され、パラメータ値が割り当てられます。

メッセージング・サーバー・プロセスのドライバ・インスタンスを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「サーバー・プロセス」画面から、「ドライバ・インスタンス構成」ハイパーリンクをクリックします。「ドライバ・インスタンス」画面が表示されます。
2. ドライバを選択します。
3. 「ドライバ・インスタンスの追加」、「削除」または「編集」をクリックします。ドライバ・インスタンスの追加の詳細は、「[メッセージング・サーバー・プロセスへのドライバ・インスタンスの追加](#)」を参照してください。ドライバ・インスタンスの編集の詳細は、「[ドライバ・インスタンスの編集](#)」を参照してください。ドライバ・インスタンスの削除の詳細は、「[ドライバ・インスタンスの削除](#)」を参照してください。

メッセージング・サーバー・プロセスへのドライバ・インスタンスの追加

使用する配信タイプに対するドライバを作成する必要があります。メッセージング・サーバー・プロセスにドライバ・インスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「メッセージング・サーバー・プロセス」画面から、「ドライバ・インスタンス構成」ハイパーリンクを選択します。「ドライバ・インスタンス」画面が表示されます。
2. 「ドライバ・インスタンス」画面で、「ドライバ・インスタンスの追加」をクリックします。「ドライバ・インスタンスの追加」画面が表示されます。
3. 次のように、「ドライバ・インスタンスの追加」画面に必要事項を入力します。
 - a. ドライバ・インスタンスの名前を入力します。
 - b. サイト・レベルで定義された使用可能なドライバのいずれかを選択します。
4. 「実行」をクリックします。
 - a. 「スレッドの送信数」を入力します。このオプションは、このドライバがメッセージを送信するようにサイト・レベルで構成されている場合に表示されます。
 - b. 「スレッドの受信数」を入力します。このオプションは、このドライバがメッセージを受信するようにサイト・レベルで構成されている場合に表示されます。

注意： ドライバのサイト・レベル構成によって、そのドライバがスレッドを送受信できるかどうかが決まります。詳細は、「[メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成](#)」を参照してください。

5. 選択したドライバに対してサイト・レベルで定義されているドライバ指定パラメータを入力します。
6. 「作成」をクリックします。

注意： ドライバ・インスタンス構成は、メッセージング・サーバー・プロセスのみに適用されます。

ドライバ・インスタンスの編集

ドライバ・インスタンスを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「サーバー・プロセス」画面から、「ドライバ・インスタンス」ハイパーリンクをクリックします。「ドライバ・インスタンス」画面が表示されます。
2. ドライバを選択します。
3. 「編集」をクリックします。選択したドライバの値が表示されます。
4. 必要に応じて、ドライバの値を変更します。詳細は、「[メッセージング・サーバー・プロセスへのドライバ・インスタンスの追加](#)」を参照してください。
5. 「適用」をクリックして、変更をコミットします。

ドライバ・インスタンスの削除

ドライバ・インスタンスを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「メッセージング・サーバー・プロセス」画面から、「ドライバ・インスタンス構成」ハイパーリンクをクリックします。「ドライバ・インスタンス」画面が表示されます。
2. ドロップダウン・リストから、ドライバを選択します。
3. 「削除」をクリックします。

サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの管理

「パフォーマンス・モニター・プロセス」画面では、パフォーマンス・モニター・プロセスを作成または削除できます。

Wireless サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの作成

Wireless サーバー上にパフォーマンス・モニター・プロセスを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「パフォーマンス・モニター」画面で、「プロセス名」フィールドにパフォーマンス・モニター・プロセスの名前を入力します。

2. 「作成」をクリックします。画面の「パフォーマンス・モニター・プロセス」セクション内に、新しいパフォーマンス・モニター・アラート・プロセスがハイパーリンクとして表示されます。

注意： パフォーマンス・モニター・プロセスは、1つのホストごとに1つのみです。このため、すでにパフォーマンス・モニター・プロセスが存在する場合、「作成」オプションは表示されません。

Wireless サーバー上のパフォーマンス・モニター・プロセスの削除

パフォーマンス・モニター・プロセスを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」画面から、「パフォーマンス・モニター」ハイパーリンクをクリックします。「パフォーマンス・モニター」画面が表示されます。
2. 「パフォーマンス・モニター・プロセス」画面から、削除するパフォーマンス・モニター・プロセスを選択します。
3. 「削除」ボタンをクリックします。

パフォーマンス・モニター・プロセスの構成

パフォーマンス・モニター・プロセスの「詳細」画面からは、次の構成タスクを実行できます。

- [プロセス認証の構成](#)
- [JDBC 接続プールの構成](#)
- [スレッド・プールの構成](#)

プロセス認証の構成

プロセス認証を構成するには、次の手順を実行します。

1. プロセス名を入力します。このフィールドは必須です。
2. 「プロセスを使用可能にする」チェックボックスを選択または選択解除します。
3. 「キャッシュ同期への参加」を選択して、他のプロセスとのキャッシュ同期を使用可能にします。
4. 「適用」をクリックします。「詳細」画面の「一般」セクションに、プロセスの使用可能ステータスが **true** として表示されます。プロセスをキャッシュ同期に含めない場合は、使用可能ステータスは **false** として表示されます。

JDBC 接続プールの構成

接続プールを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「詳細」画面の「管理」セクションで、「JDBC 接続プール」をクリックします。「JDBC 接続プール」画面が表示されます。
2. 「JDBC 接続プール」画面で、次のパラメータを入力します。
 - a. JDBC 接続プールの「最小接続数」を入力します。デフォルトは、1 です。
 - b. JDBC 接続プールの「最大接続数」を入力します。デフォルトは、100 です。
 - c. 「接続割当ての増分」フィールドに、JDBC 接続プールへの新規接続の割当ての増加単位を数値で入力します。デフォルトは、1 です。
3. 「適用」をクリックします。

スレッド・プールの構成

スレッド・プールを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「スレッド数」を入力します。これは、パフォーマンス・モニター・プロセスでパフォーマンス・データの収集およびデータベースへの書き込みに使用されるスレッド数です。詳細は、[第 14 章「アクティビティおよびシステム・ロギング」](#)を参照してください。
2. 「適用」をクリックします。

サーバーからの PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの管理

「PIM 通知ディスパッチャ・プロセス」画面では、通知サーバー・プロセスを作成または削除できます。

Wireless サーバー上の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの作成

Wireless サーバー上に PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「プロセス」画面で、「プロセス名」フィールドに PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの名前を入力します。
2. 「作成」をクリックします。新規のプロセスが、ハイパーリンクとして表内に表示されます。

注意： PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを作成した後、カレンダー・リスナーの TCP/IP ポート番号を構成する必要があります。詳細は、[「Wireless サーバー上の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの構成」](#)を参照してください。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの削除

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを削除するには、次の手順を実行します。

1. PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

Wireless サーバー上の PIM 通知ディスパッチャ・プロセスの構成

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを構成するには、「詳細」画面の「管理」セクション内にあるハイパーリンクをクリックしてアクセスする「プロセス認証およびポート」画面を使用します。この画面を使用すると、選択した PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを使用可能にし、そのプロセスのキャッシングを他のプロセスと同期することができます。また、PIM 通知ディスパッチャ・プロセスで使用されるカレンダー・リスナーの TCP/IP ポート番号を設定します。プロセスは、TCP/IP ソケット上で、カレンダー・アプリケーションによって送信された通知をリスニングします。次に、カレンダーは通知を送信し、切断します。カレンダーが PIM 通知ディスパッチャに接続できるようにするには（接続されると、PIM 通知ディスパッチャは Oracle9iAS Wireless トランスポート層にメッセージをプッシュ）、カレンダー・リスナーの TCP/IP ポート番号を構成する必要があります。

PIM 通知ディスパッチャ・プロセスを構成するには、次の手順を実行します。

1. プロセス名を入力します。このフィールドは必須です。
2. 「プロセスを使用可能にする」チェックボックスを選択するか、または選択解除して、プロセスを使用可能（または使用不可）にします。
3. 「キャッシュ同期への参加」チェックボックスを選択して、このプロセスのキャッシュを他のキャッシュと同期させます。
4. カレンダー・リスナーのポート番号を入力します。これは、9000 ～ 9100 の使用されていないポートにしてください。
5. 「適用」をクリックします。プロセスを使用可能にした場合、「process detail」画面の「使用可能」ラベルの隣に **true** が表示されます。プロセスを使用不可にした場合は、「process detail」画面に **false** が表示されます。

サイト全体のサーバーの構成

サイト全体にわたってコンポーネントを構成するには、「サイト」タブを使用します。

「プロセス」セクションから、サイトのプロセスを構成できます。プロセスをクリックすると「詳細」画面が起動されます。この画面から、パフォーマンス・データと構成機能の両方にアクセスできます。

Wireless Web サーバーのサイト・プロセスの構成

Wireless Web サーバーの「詳細」画面の「管理」セクションからは、次のタスクを実行できます。

- プロセス属性の構成
- フォルダの構成
- Applications イメージ・ディレクトリの構成
- イベントおよびリスナーの構成
- フックの構成

プロセス属性の構成

プロセス属性を構成するには、「キャッシュ同期への参加」チェックボックスを選択（または選択解除）し、「適用」をクリックします。

フォルダの構成

フォルダのソート順序および表示を構成するには、次の手順を実行します。

1. 矢印を使用して選択（「>」または「>>」）あるいは削除（「<」または「<<」）することで、出力デバイス上でのフォルダのソート順序を指定します。次のような設定があります。
 - a. ORDER_NAME_ASC（デフォルト設定）
 - b. ORDER_NAME_DESC
 - c. ORDER_SEQNO_ASC
 - d. ORDER_SEQNO_DESC
 - e. ORDER_DATE_ASC
 - f. ORDER_DATE_DESC

注意： 同じプロパティに対して昇順（ASC）および降順（DESC）のソート順序を選択することはできません。たとえば、ORDER_NAME_ASC と ORDER_NAME_DESC の両方を選択することはできません。

2. 「フォルダの下サービスのサイズを表示する」フィールドに、フォルダの下に一度に表示されるサービスの制御数を入力します。

3. リスト・ボックスから、デフォルト・ソーター・フックのユーザー・ホーム・フォルダ内にあるサービスの順序を決定するオプションとして次のいずれかを選択します。
 - USER_ORDER_FIRST
 - GROUP_ORDER_SECOND
 - USE_ORDER_SERVICES
4. 必要に応じて、次のフォルダ表示およびサウンド・コンポーネント用のサウンド・ファイルおよびイメージ・ファイルの URI を入力します。
 - 一般タイトル・アイコン
 - ホーム・アイコン
 - ヘルプ・アイコン
 - ログイン・アイコン
 - ログオフ・アイコン
 - 登録アイコン
 - ユーザー情報アイコン
 - ユーザー・プロフィール・アイコン
 - カスタマイズ・サービス・アイコン
 - グローバル・プリセット・アイコン
 - セットアップ・アイコン
 - トップ・バー・イメージ
 - ボトム・バー・イメージ
 - 一般タイトル・オーディオ
 - ホーム・オーディオ
 - ヘルプ・オーディオ
 - ログオフ・オーディオ
 - 登録オーディオ
 - セットアップ・オーディオ
 - セットアップ・オーディオ
 - トップ・バー・オーディオ
 - ボトム・バー・オーディオ
5. 「適用」をクリックします。「Wireless Web サーバー」画面が再度表示されます。

Applications イメージ・ディレクトリの構成

Applications イメージ・ディレクトリを構成するには、システム・イメージ・ファイルが入ったディレクトリを入力します。

イベントおよびリスナーの構成

次に、「イベントおよびリスナー」画面を使用して、リクエスト、セッションおよびレスポンスを構成します。この画面は、「Wireless Web サーバー」画面の「イベントおよびリスナー」ハイパーリンクをクリックすると起動され、イベント・オプションおよび使用可能なリスナーが表示されます。この画面を使用してイベント・オプションおよびリスナーを選択し、イベント生成を有効または無効にします。また、リスナーを追加または削除する場合にもこの画面を使用します。

「イベントおよびリスナー」画面には、次の構成オプションが表示されます。このうちいずれかのオプションのチェックボックスを選択すると、そのオプションが使用可能になります。チェックボックスを選択しない場合、そのオプションは使用不可（デフォルト設定）になります。

表 12-1 リクエスト、セッションおよびレスポンス・イベントのオプション

オプション	定義
リクエスト・イベント	
'before request' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「直前に受信」として宣言します。
'after request' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「リクエスト・オブジェクトは解放済」として宣言します。
'transform begin' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「変換前」として宣言します。
'request begin' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「処理開始」として宣言します。
'service begin' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「アダプタの起動前」として宣言します。
'transform end' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「変換完了」として宣言します。
'request end' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「リクエストの処理が完了」として宣言します。
'service end' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「アダプタ実行が完了」として宣言します。
'request error' イベントを使用可能にする	リクエスト・イベントを「リクエスト処理中にエラーが発生」として宣言します。

表 12-1 リクエスト、セッションおよびレスポンス・イベントのオプション（続き）

オプション	定義
セッション・イベント	
'before session' イベントを使用可能にする	セッション・イベントを「セッションの開始前」として宣言します。
'session authentication' イベントを使用可能にする	セッション・イベントを「セッションの認証が完了」として宣言します。
'session begin' イベントを使用可能にする	セッション・イベントを「セッションを検証済」として宣言します。
'session end' イベントを使用可能にする	セッション・イベントを「セッションが（暗黙的および明示的に）有効期限切れ」として宣言します。
'after session' イベントを使用可能にする	セッション・イベントを「セッション・オブジェクトは解放済」として宣言します。
レスポンス・イベント	
'response error' イベントを使用可能にする	レスポンス・イベントを「応答のエラー」オブジェクトとして宣言します。

新規リスナーの追加

新規のリスナーを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. 「1 行追加」をクリックします。
- 2. リスナー・クラスの名前を入力します。たとえば、「oracle.panama.rt.event.Listener」と入力します。
- 3. 行を選択します。
- 4. 「適用」をクリックします。

リスナーの削除

リスナーを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. リスナーを選択します。
- 2. 「削除」をクリックします。

リクエスト・イベントの構成

1. 「リクエスト・イベント」セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 'before request' イベントを使用可能にする
 - 'after request' イベントを使用可能にする
 - 'transform begin' イベントを使用可能にする
 - 'request begin' イベントを使用可能にする
 - 'service begin' イベントを使用可能にする
 - 'transform end' イベントを使用可能にする
 - 'request end' イベントを使用可能にする
 - 'service end' イベントを使用可能にする
 - 'request error' イベントを使用可能にする
2. 「適用」をクリックします。
3. ランタイム・リスナーを選択します。
4. 「適用」をクリックします。

セッション・イベントの構成

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 'before session' イベントを使用可能にする
 - 'session end' イベントを使用可能にする
 - 'session begin' イベントを使用可能にする
 - 'session authentication' イベントを使用可能にする
 - 'after session' イベントを使用可能にする
2. 「適用」をクリックします。
3. リスナーを選択、追加または削除します。
4. 「適用」をクリックします。

レスポンス・イベントの構成

レスポンス・イベントを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「'response error' イベントを使用可能にする」 オプションを選択します。
2. 「適用」をクリックします。
3. リスナーを選択、追加または削除します。
4. 「適用」をクリックします。
5. 「完了」をクリックします。「Wireless Web サーバー」画面が再度表示されます。

フックの構成

「フック」画面を使用して、選択したフックのフック実装クラスを選択または変更できます。

この画面には、次のフックが表示されます。

表 12-2 「フック」画面に一覧表示されるフック

フック	説明
wireless.http.locator. signon.pages.hook.class	デバイス上にサインオン・ページを生成するためのフック。デフォルトは、oracle.mwa.core.omap.panama.MWASignOnPage です。
wireless.http.locator. caller.location.hook.class	ユーザーの現在のロケーションを取得するフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.LocAcq です。
wireless.http.locator. service.visibility.hook. class	Wireless の起動時に表示または非表示ステータスをチェックするためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.ServiceVisiblity です。
wireless.http.locator. listener.registration.hook. class	イベント登録リスナー用のフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.ListenerRegistration です。
wireless.http.home.folder. sorter.hook.class	ユーザーのホーム・フォルダの内容をソートするためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.HomeFolderSorter です。
wireless.http.locator. mobile.id.hook.class	モバイル ID を取得するためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.MobileIdHookImpl です。
wireless.http.locator.pre. processor.hook.class	デバイス変換前に起動されるフックを宣言します。

表 12-2 「フック」画面に一覧表示されるフック（続き）

フック	説明
wireless.http.locator.authorization.hook.class	ユーザー・サービス認証のためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.Authorizer です。
wireless.http.locator.post.processor.hook.class	デバイス変換後に起動されるフックを宣言します。
wireless.http.locator.device.identificaction.hook.class	ロジカル・デバイスを識別するためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.hook.DeviceModels です。
wireless.http.locator.location.service.visibility.hook.class	フォルダの内容を、現在のロケーションに基づいて表示または非表示にするためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.hook.Folder.RendererPolicy です。
wireless.http.locator.folder.render.hook.class	フォルダ・レンダラ用のフック。デフォルト値は、oracle.panama.rt.common.FolderRenderer です。
wireless.http.locator.session.id.hook.class	セッション ID を生成するためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.panama.rt.common.SessionIDGenerator です。
wireless.http.locator.authentication.hook.class	ユーザー認証のためのフックを宣言します。デフォルトは、oracle.mwa.core.omap.panama.OMAPAuthentication です。
wireless.http.locator.useragent.class	デバイス認識クラスのデフォルトの実装。デフォルトは、oracle.panama.core.xform.UserAgentImpl です。
wireless.http.locator.normalizeaddress.hook.class	正規化されたフォームでの DeviceAddress のアドレス・フィールドを格納するためのフック。これは、ポートによってオブジェクトを参照する場合やアドレスを送信する場合に使用されます。たとえば、電子メール配信タイプの正規化されたフォームが小文字の場合、Scott.Tiger@Oracle.com の正規化されたフォームは scott.tiger@oracle.com になります。SMS 配信タイプの正規化されたフォームは、すべて非数値文字の場合があります。たとえば、(650) 555-5000 の正規化されたフォームは 6505555000 です。電話会社が市外局番の間にスペースを使用する場合、正規化されたアドレス・ロジックによって、電話番号は 650 555 5000 に変換されます。

非同期サーバーのサイト全体にわたるプロセスの構成

非同期サーバーの「詳細」画面からは、次のタスクを実行できます。

- [非同期サーバー・プロセス属性の構成](#)
- [非同期サーバーの構成](#)
- [非同期サーバーのワーキング・スレッドの構成](#)
- [非同期サーバーのメッセージング・サーバー・クライアントの構成](#)

非同期サーバー・プロセス属性の構成

プロセス属性を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「キャッシュ同期への参加」を選択して、他のプロセスとのキャッシュ同期を使用可能にします。
2. 「適用」をクリックします。

非同期サーバーの構成

Wireless サイトの非同期サーバーを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「サイト」画面の「プロセス」セクションから、「非同期サーバー」を選択します。「非同期サーバー」画面が表示されます。
2. 「非同期サーバー構成」を選択して、「非同期サーバー構成」画面にアクセスします。
3. 次のように、「非同期サーバー構成」画面の「コマンド・フォーマット」セクションに必要事項を入力します。
 - a. 「ヘルプ・コマンド」を入力します。デフォルト値は、!h です。
 - b. 「Application ヘルプ・コマンド」を入力します。デフォルト値は、help です。
 - c. 「エスケープ・コマンド」を入力します。デフォルト値は、!e です。
 - d. 「停止コマンド」を入力します。デフォルト値は、!s です。
 - e. 「ログイン・コマンド」を入力します。デフォルト値は、!l です。
 - f. 「ログオフ・コマンド」を入力します。デフォルト値は、!o です。
 - g. コマンドラインのテキスト区切り文字を入力します。
4. 「サイト・ワイド・アドレス」セクションに必要事項を入力します。次の両方のアドレスを入力できます。
 - a. サイトの電子メール・アドレス（たとえば、「ask@oraclemobile.com」など）を入力します。
 - b. サイトの SMS アドレスを入力します。

- デフォルト・サービスの短縮名を入力します。非同期リクエスト内に起動するサービスが指定されていない場合、非同期サーバーによってこのデフォルト・サービスが起動されます。デフォルト・サービスが設定されていない場合、非同期サーバーによってヘルプが起動されます。
- 「適用」をクリックします。

注意：
 これらは、特定の非同期リクエストのサイト全体にわたるアドレスです。

非同期サーバーのワーキング・スレッドの構成

非同期サーバーのワーキング・スレッド数を設定するには、次の手順を実行します。

- 「ワーキング・スレッド数」フィールドに、非同期サーバーによりサービスの起動に使用されるスレッド数を入力します。デフォルトは、10 です。
- 「適用」をクリックします。

非同期サーバーのメッセージング・サーバー・クライアントの構成

メッセージング・サーバー・クライアントには、次のパラメータがあります。

表 12-3 メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ

パラメータ	値
スレッド・プール・サイズ	このクライアントのトランスポートによって作成されるスレッドの合計数。トランスポートでは、これらのスレッドを使用して、このクライアントの受信済メッセージおよびステータス・レポートが取り込まれます。ノード・レベルでスレッド・プール・サイズを設定しない場合、Wireless では、サイト・レベル構成で設定されたスレッド数がデフォルト値として使用されます。クライアントがステータス・レポートを受け取らず、メッセージを受信する登録済エンドポイントも持たない場合、トランスポートではこの設定は無視されます。
キューの数	キューの数。トランスポートによってこの値が作成されるのは、このクライアントがステータス・レポートまたはメッセージを受信する場合のみです。トランスポートによってサポートされるのは、1つのクライアントにつき1つのキューだけです。1つのクライアントに対して複数のキューを指定した場合でも、トランスポートでは1つのクライアントにつき1つのキューしか作成されません。クライアントがステータス・レポートを受け取らず、メッセージを受信する登録済エンドポイントも持たない場合、トランスポートではこの設定は無視されます。

表 12-3 メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ (続き)

パラメータ	値
受信者チャンク・サイズ	クライアントによる 1 つの送信コール内でメッセージを受信する受信者の数。受信者数が多すぎる場合、トランスポートにより、受信者メッセージがチャンク単位で送信されることがあります。このような場合、一部の受信者は、トランスポートにより他の受信者が処理されている間にメッセージを受信することもあります。この結果、一部の受信者が他の受信者よりも先にメッセージを受け取ることになります。チャンク単位でメッセージを送信すると、パフォーマンスが向上します。チャンク・サイズは 500 より大きくできません。チャンク・サイズを 500 より大きく設定した場合でも、トランスポートではチャンク・サイズとして 500 が使用されます。
キャリア・ファインダ・フック・クラス名	Wireless では、このフックを使用して電話番号から電話会社名を検索します。この電話会社名は、ドライバ・ファインダによって、この電話番号にメッセージを送信するための適切なドライバを検索する際に使用されます。電話会社のドライバとその電話会社の電話番号を併せて使用するとパフォーマンスが向上するため、電話会社固有のドライバが複数存在する場合は、このフックを使用してください。ノード・レベルでキャリア・ファインダ・フック・クラス名を指定しない場合、Wireless ではサイト・レベルで設定された名前が使用されます。サイト・レベルでキャリア・ファインダ・フック・クラス名を指定しない場合、ドライバ・ファインダは電話会社情報を持たないため、適切なドライバを検索できません。サイト・レベルでもノード・レベルでもキャリア・ファインダ・フック・クラスを指定しない場合、Wireless ではトランスポートのデフォルト・ドライバ・ファインダが使用されます。
ドライバ・ファインダ・フック・クラス名	トランスポートが特定の宛先にメッセージを送信するための適切なドライバを検索する際に使用するフックの名前。ドライバ・ファインダ・フックは、配信タイプ、コストまたはスピードなどの基準を使用してドライバを割り当てます。ノード・レベルでもサイト・レベルでもフックを指定しない場合、Wireless ではトランスポートのデフォルト・ドライバ・ファインダが使用されます。
■ プリセンド・フック	これらのフックは、メッセージの送信前または送信後（プリセンド・フックおよびポストセンド・フック）、あるいはメッセージの受信前または受信後（プリレシーブ・フックおよびポストレシーブ・フック）にコールできます。これらのフックは、同じカテゴリ内にあり、指定された順序でコールされます。これらのフックを使用すると、トランスポートの上にアプリケーションを実装しなくても、検査やフィルタリングなどの特殊なクライアント機能を使用可能にできます。
■ ポストセンド・フック	
■ プリレシーブ・フック	
■ ポストレシーブ・フック	

非同期サーバーおよびアラート・エンジン・プロセスのメッセージング・サーバー・クライアントを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「スレッド・プール」フィールドに処理スレッドの数を入力します。
2. キューの数を入力します。Wireless では、1 つのプロセス・タイプにつき 1 つのキューがサポートされます。
3. 「受信者チャック・サイズ」フィールドにメッセージ受信者の数を入力します。チャック・サイズは 500 より大きくできません。500 より大きく設定した場合でも、トランスポートでは 500 が使用されます。
4. キャリア・ファインダ・フック・クラスを入力します。
5. ドライバ・ファインダ・フック・クラスを入力します。
6. 「適用」をクリックします。
7. 必要な場合、プリセンド・フック、ポストセンド・フック、プリレシーブ・フックおよびポストレシーブ・フックの Java クラスを選択します。
8. 「完了」をクリックします。

注意： 非同期サーバーに対して特別に値が設定されていない場合、Wireless では、サイト・レベル構成で設定された値が使用されます。

フック・クラスの追加

別のフックを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「1 行追加」をクリックします。
2. フックの Java クラスを入力します。
3. 行を選択します。
4. 「適用」をクリックします。

フックの削除

フックを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するフックを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

メッセージング・サーバーのサイト・プロセスの構成

メッセージング・サーバー・プロセスの「詳細」画面からは、次のタスクを実行できます。

- [メッセージング・サーバーのデフォルト構成の設定](#)
- [サイトのメッセージング・サーバー・ドライバの構成](#)

メッセージング・サーバーのデフォルト構成の設定

「メッセージング・サーバー構成」ハイパーリンクをクリックすると、「メッセージング・サーバー構成」画面が起動され、メッセージング・サーバーのデフォルト構成を設定できます。

メッセージング・サーバーのデフォルト構成を設定するには、次の手順を実行します。

1. GSM スマート・メッセージ・エンコーダ・クラス名を入力します。
2. ドライバのデフォルトのキュー数を入力します。たとえば、「1」を入力します。
3. ドライバのデフォルトの送信スレッド数を入力します。
4. ドライバのデフォルトの受信スレッド数を入力します。
5. 送信を再試行する回数を入力します。
6. 「適用」をクリックします。

サイトのメッセージング・サーバー・ドライバの構成

「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面は、メッセージング・サーバーの「詳細」画面の「メッセージング・サーバー・ドライバ」をクリックすると起動され、ドライバとそのパラメータを定義できます。この画面から、サイトのメッセージング・サーバー・ドライバを追加、削除または編集できます。

メッセージング・サーバー・ドライバの追加

メッセージング・サーバー・ドライバを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面から、「ドライバの追加」をクリックします。「ドライバの追加」画面が表示されます。この手順は必須です。
2. ドライバの名前（たとえば、「EmailDriver」など）を入力します。この手順は必須です。
3. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかのデリバリ・カテゴリを選択します。
 - WAP プッシュ
 - SMS
 - Voice

- Email
- Fax
- 双方向ポケットベル
- 単方向ポケットベル

この手順は必須です。

4. ドライバのプロトコルを入力します。エントリを区切るには、カンマ (,) を使用します。すべてのプロトコルを選択するには、アスタリスク (*) を入力するか、またはフィールドをクリアします。
5. 電話会社を入力します。エントリを区切るには、カンマ (,) を使用します。
6. ドロップダウン・リストから、スピード・レベルを選択します。
7. ドロップダウン・リストから、コスト・レベルを選択します。
8. ドロップダウン・リストから、機能として「SEND」、「RECEIVE」または「BOTH」を選択します。
9. メッセージ・キューの数を入力します。
10. 次のように、「デフォルト・エンコーディングおよびロケール」セクションに必要な事項を入力します。
 - a. コンテンツ・エンコーディング方式を入力します。たとえば、「UTF-8」と入力します。複数の方式を区切るには、カンマ (,) を使用します。
 - b. ドロップダウン・リストから、ロケールを選択します。
11. 次のように、ドライバ・クラスおよびパラメータを入力します。この手順は必須です。
 - a. ドライバ・クラスを入力します。たとえば、「Oracle.panama.messaging.transport.driver.email.EmailDriver」のように入力します。
 - b. 必要に応じて、ドライバ・クラス・パラメータを追加または削除します。
12. 「適用」をクリックします。「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面が再度表示されます。

メッセージング・サーバー・ドライバの編集

メッセージング・サーバー・ドライバを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面から、編集するドライバを選択します。
2. 「編集」をクリックします。
3. 「ドライバの編集」画面が表示され、選択したドライバの値が示されます。
4. 必要に応じて、値を編集します。

- 5. 必要に応じて、ドライバ・クラス・パラメータを選択、追加または削除します。
- 6. 「適用」をクリックします。「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面が再度表示されます。

メッセージング・サーバー・ドライバの削除

メッセージング・サーバー・ドライバを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. 「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面から、削除するドライバを選択します。
- 2. 「削除」をクリックします。

パフォーマンス・モニターのサイト全体にわたるプロセスの構成

「サイト」画面で「パフォーマンス・モニター」ハイパーリンクをクリックすると、「パフォーマンス・モニター構成」画面にアクセスできます。この画面では、パフォーマンス・モニターを構成できます。

Wireless プロセスのパフォーマンス・モニターは、パフォーマンス情報を記録するためのデータベース・スキーマを示している必要があります。

「パフォーマンス・モニター構成」画面には、次のパラメータが表示されます。

表 12-4 「パフォーマンス・モニター構成」画面のパラメータ

パラメータ	説明
基本構成	
パフォーマンス・ロギングを使用可能にする	このチェックボックスを選択すると、パフォーマンス・ロギングが使用可能になります。
記録した名前 / 値ペアのための区切り文字	記録された名前 / 値ペアに使用される区切り文字。デフォルトの区切り文字は、#%=%# です。このパラメータは必須です。
記録したレコードのための区切り文字	記録されたレコードに使用される区切り文字。デフォルトは、~#\$ です。このパラメータは必須です。
ウェイクアップ頻度 (分)	ロガー・スレッドが、プロセス・ディレクトリ内に新しいファイルがないかをチェックするためにウェイクアップしてからの経過分数。デフォルトは、1 分です。このパラメータは必須です。
クローズ頻度 (秒)	ファイルを閉じるための秒数。デフォルトは、300 です。このパラメータは必須です。
パフォーマンス・ロギングのためのバッチ・サイズ	パフォーマンス・ロギングのためのバッチ・サイズ。デフォルトは、15 です。このパラメータは必須です。

表 12-4 「パフォーマンス・モニター構成」画面のパラメータ（続き）

パラメータ	説明
JDBC ドライバ	デフォルトでは、リポジトリ接続がパフォーマンス監視に使用されます。リポジトリ以外のデータベースを指定する場合、この値（この画面内で指定されている場合）が使用されます。これらの値は、 targets.xml 内の値と一致している必要があります。
ドライバ・タイプ	ドロップダウン・メニューから、次のいずれかのドライバを選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ THIN: Thin JDBC ドライバ■ V7: Oracle7 OCI ドライバ■ V8: Oracle データベース・バージョン 8.x OCI ドライバ
ユーザー名	データベース・ユーザーの名前。
パスワード	データベース・ユーザーのパスワード。
ホスト名	ログ・データベースのホスト名（たとえば、「ptgserver-sun.us.oracle.com」など）。
ポート番号	データベース・リスナーのポート。デフォルトは、1521 です。
データベース SID	ログ・データベースのサーバー識別子（SID）。

パフォーマンス・ロガーを構成するには、次の手順を実行します。

1. 次のように、「パフォーマンス・モニター構成」画面の「基本構成」セクションに必要な事項を入力します。
 - a. 「パフォーマンス・ロギングを使用可能にする」チェックボックスを選択して、データベースへのロギングを使用可能にします。
 - b. 記録された名前 / 値ペアに使用される区切り文字を入力します。デフォルトの区切り文字は、`#=` です。
 - c. 記録されたレコードに使用される区切り文字を入力します。デフォルトの区切り文字は、`~#` です。
 - d. ロガー・スレッドがプロセス・ディレクトリ内に新しいファイルがないかをチェックするためにウェイクアップする間隔を分数で入力します。デフォルトは、1 分です。
 - e. ファイルを閉じる間隔を秒数で入力します。
 - f. データベース・ロギングのバッチ・サイズを入力します。デフォルトは、15 です。

2. パフォーマンス・データをリポジトリ以外のデータベースに格納する場合は、「JDBC ドライバ」セクションに必要事項を入力します。「JDBC ドライバ」セクションに必要事項を入力するには、次の手順を実行します。
 - a. ドロップダウン・リストから、次のいずれかの JDBC ドライバ・タイプを選択します。
 - THIN (Thin JDBC ドライバ)
 - V7 (Oracle データベース・バージョン 7 OCI ドライバ)
 - V8 (Oracle データベース・バージョン 8.x OCI ドライバ)
 - b. データベース・ユーザーの名前を入力します。
 - c. データベース・ユーザーのパスワードを入力します。
 - d. ログ・データベースのホスト名を入力します。
 - e. ポート番号を入力します。
 - f. サーバー ID を入力します。
3. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

注意： パフォーマンス・データを格納するデータベースには、リポジトリ・データベース以外のデータベースを指定できます。

その他の構成

この項では、次の構成タスクについて説明します。

- [ロギング・ディレクトリの構成](#)
- [プロセス・デバッグ・フラグの設定](#)

ロギング・ディレクトリの構成

「Wireless サーバー」タブ (Wireless サーバー・プロセスの管理に使用される最上位の画面) から、システム・ロギングのロケーションを指定し、システム・ログ・ファイルを表示できます。

ロギング・ディレクトリを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「ロギング・ディレクトリ」リンクをクリックして、「ロギング」画面を起動します。
2. ロギング・ディレクトリの名前を入力します。
3. 「適用」をクリックします。

プロセス・デバッグ・フラグの設定

Wireless Web サーバー・プロセスの「詳細」画面から、プロセス・デバッグ・フラグのオンとオフを切替えます。

1. 「デバッグ・フラグの切替え」ハイパーリンクを選択します。
2. 「デバッグ・フラグをオンにする」チェックボックスを選択または選択解除します。
3. 「適用」をクリックします。

注意： この構成は、Wireless Web サーバー・プロセスのランタイム・フラグであり、永続的ではありません。

サイトの管理

「サイト」画面の「管理」セクションでは、次の操作を実行できます。

- [プロキシ・サーバーの構成](#)
- [Wireless サイト・ロケールの構成](#)
- [システム・ロギングの構成](#)
- [ランタイムの構成](#)
- [デバイスの構成](#)
- [WebCache サーバーのサイト・プロセスの構成](#)
- [WAP プロビジョニングの構成](#)
- [Wireless Web サーバーの URL の構成](#)
- [メッセージング・サーバー・クライアントの構成](#)
- [WirelessJDBC 接続プールの構成](#)
- [ユーザー・プロビジョニングの構成](#)
- [Secure Sockets Layer \(SSL\) の構成](#)
- [オブジェクト・キャッシュ同期の構成](#)
- [Oracle Applications の構成](#)
- [WebCache のリフレッシュ](#)

プロキシ・サーバーの構成

「プロキシ・サーバー」画面は、「サイト」画面の「管理」セクション内の「プロキシ・サーバー」を選択すると起動されます。この画面で、HTTP または FTP プロトコルのいずれかが必要になったときに Wireless で使用されるプロキシ・プロパティを構成できます。Wireless で HTTP または FTP プロキシ・サーバーが使用されない場合は、プロキシ・サーバーのプロパティを構成する必要はありません。

プロキシ・サーバーを構成するには、次の手順を実行します。

1. Wireless で HTTP プロキシ・サーバーが使用される場合、「プロキシ・サーバー」画面の「HTTP プロキシ・サーバー」セクションで「使用する」チェックボックスを選択します。
2. HTTP プロキシ・ホストの名前を入力します。たとえば、「`www-proxy.us.oracle.com`」のように入力します。
3. HTTP プロキシ・サーバーのプロキシ・ポート番号を入力します。
4. 例外アドレスを入力します。デフォルト設定は、`localhost|127.0.0.1` です。これらのホスト・アドレスにプロキシを使用しないでください。エントリとエントリは、パイプ記号 (`|`) で区切ります。
5. Wireless で FTP プロキシ・サーバーが使用される場合、「プロキシ・サーバー」画面の「FTP Proxy server」セクションで「使用する」チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、Wireless では、FTP ホストとポートの両方の設定が無視されます。
6. FTP プロキシ・ホストの名前を入力します。
7. FTP プロキシ・サーバー・ポート番号を入力します。
8. Wireless FTP プロキシ・サーバーに認証が必要な場合、「プロキシ・サーバー」画面の「認証」セクションで「使用する」チェックボックスを選択します。FTP プロキシ・サーバーで認証が不要な場合は、このチェックボックスを選択しないでください。
9. 認証ユーザー名を入力します。FTP プロキシ・サーバーで認証が必要な場合、このパラメータは必須です。
10. 認証パスワードを入力します。FTP プロキシ・サーバーで認証が必要な場合、このパラメータは必須です。

Wireless サイト・ロケールの構成

「サイト・ロケール」画面は、「サイト」画面の「サイト・ロケール」ハイパーリンクを選択すると起動されます。この画面で、サイトの言語、国およびタイムゾーンを構成できます。

サイト・ロケールを構成するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サイト・ロケールの言語を選択します。このリストには、サポートされているすべてのロケールが表示されます。
2. ドロップダウン・リストから、サイトのタイムゾーンを選択します。
3. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

サポートされるロケールのサイトへの追加

サポートされるロケールを追加するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、ロケールを選択します。このリストには、すべての使用可能なロケールが表示されます。
2. 「追加」をクリックします。デバイス・ポータルおよび Webtool でサポートされるロケールのリストに、新しいロケールが表示されます。

サポートされるロケールのサイトからの削除

サポートされるロケールを削除するには、次の手順を実行します。

1. サポートされるロケールのリストから、適切なロケールを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

システム・ロギングの構成

システム・ロギングを構成するには、次の手順を実行します。

1. ログ・ファイル名パターンの名前を入力します。デフォルトは、`sys_panama.log` です。
2. 「最大ログ・ファイル・サイズ」フィールドに、同じファイル内の最大バイト数を入力します。デフォルトは、10000 です。
3. ログ・レベルを選択します。ログには、「警告」、「エラー」または「通知する」を含めることができます。デフォルトは、「警告」、「エラー」です。
4. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

ランタイムの構成

ランタイムを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「ランタイム・セッション・ライフ時間（秒）」フィールドに、セッションの TTL 属性を入力します。デフォルトは、600 です。
2. セッション・モニターがオープン・セッションをチェックするのに必要な時間を入力します。デフォルトは、60 です。
3. 「キャッシュ・オブジェクト・ライフ時間」フィールドに、永続オブジェクトの TTL を秒数で入力します。この時間が経過すると、Wireless によってオブジェクトが再構築されます。デフォルトは、600 です。
4. 「キャッシュ・オブジェクト・チェック間隔」フィールドに、キャッシュ・モニターがキャッシュをチェックするのに必要な時間を入力します。この時間を -1 に設定した場合、Wireless はキャッシュ・モニターを起動せず、キャッシュはクリアされません。デフォルトは、60 です。
5. スレッドの最大実行時間の秒数を入力します。デフォルトは、60 です。Wireless によって、割り当てられた時間より長くなるリクエストのスレッドは中断され、エラーが返されます。
6. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

デバイスの構成

「デバイス関連構成」画面では、デバイス ID の情報を含めることのできる HTTP ヘッダー名を追加、編集または削除できます。

1. 「Wireless Web サーバー・セットアップ構成」セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - a. 「ログインを使用可能にする」。
 - b. 「ログアウトを使用可能にする」。
 - c. 「ユーザー情報を使用可能にする」。
 - d. 「サービスのカスタマイズを使用可能にする」。
 - e. 「グローバル・プリセットを使用可能にする」。
 - f. 「ユーザー・プロファイルを使用可能にする」。
 - g. 「自己登録を使用可能にする」。
 - h. 「ホームを使用可能にする」。
 - i. 「ヘルプを使用可能にする」。「ヘルプを使用可能にする」を選択した場合、ヘルプ・ファイルの URL を入力する必要があります。

2. 「適用」をクリックします。
3. 次のように、画面の「デバイス ID」セクションに必要な事項を入力します。
 - a. ヘッダー名を選択します。
 - b. 「適用」をクリックします。
4. 「完了」をクリックします。

デバイス ID のヘッダーの追加

サブスクリプション ID のヘッダー名を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「デバイス ID」セクションで、「1 行追加」をクリックします。新しい行が表示されます。
2. サブスクリプション ID 情報を含むヘッダー名を入力します。
3. 行を選択します。
4. 「適用」をクリックします。
5. 「完了」をクリックします。

ヘッダー名の削除

ヘッダー名または Cookie 名を削除するには、次の手順を実行します。

1. ヘッダーを選択します。
2. 「削除」をクリックします。
3. 「完了」をクリックします。

WebCache サーバーのサイト・プロセスの構成

WebCache は、Oracle9iAS Wireless により実行されるコンテンツ変換をキャッシュすることでサイト・パフォーマンスを向上させる Wireless コンポーネントです。

Wireless では、2 つのレベルで変換が実行されます。変換の第 1 レベルでは、アダプタにより外部データ・ソースからプルされたコンテンツの結果として取得された Adapter Result を、Wireless が変換します。ランタイム・アダプタが、これを Simple Result XML に変換します。Wireless は、Simple Result XML をデバイス指定のマークアップ言語に変換するときに第 2 の変換（すなわち、コンテンツ変換）を実行します。

「WebCache」画面では、キャッシュ・ポリシーを設定できます。この画面には、次のパラメータが表示されます。

表 12-5 「WebCache」画面のパラメータ

パラメータ	値
WebCache を使用可能にする	このチェックボックスを選択すると、キャッシュが使用可能になります。
WebCache サーバー URL	WebCache サーバーの URL。
失効化ポート	失効化メッセージの送信先の WebCache マシン内のポート。
失効化パスワード	WebCache の失効化パスワード。
WebCache タイムアウト (秒)	WebCache がタイムアウトする間隔 (秒数)。

WebCache を構成するには、次の手順を実行します。

1. 画面の「基本構成」セクションで、次の手順を実行します。
 - a. 「WebCache を使用可能にする」チェックボックスを選択して、キャッシュを使用可能にします。このチェックボックスを選択解除すると、キャッシュが使用不可になります。
 - b. WebCache サーバーの URL を入力します。
 - c. WebCache 失効化ポートを入力します。
 - d. WebCache 失効化パスワードを入力します。
 - e. タイムアウトの秒数を入力します。
2. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。入力した内容を保存しない場合は、「取消」をクリックします。

WAP プロビジョニングの構成

「WAP プロビジョニング」ハイパーリンクを選択してアクセスする「プロファイル」画面を使用して、WAP プロファイルを作成、編集および削除できます。「プロファイル」画面には、現在の WAP プロファイルのリストが表示されます。また、次のパラメータを定義して WAP プロファイルを追加することもできます。

表 12-6 WAP プロファイルのパラメータ

パラメータ	値
プロファイル	WAP プロファイルの名前。WAP プロバイダのプロファイルに名前を指定できます。
ベアラ	トランスポート・テクノロジのリスト。
GSM/CSD	Global System for Mobile communication (GSM) ネットワークを経由する Circuit-Switched Data (CSD)。これは、GSM 電話における基本送信プロトコルです。
GSM/SMS	Global System for Mobile communication (GSM) ネットワークを経由するショート・メッセージ・サービス。このストア / フォワード型テクノロジを選択すると、携帯電話と、電子メールやボイスメールなどの他のプラットフォームとの間で英数字メッセージングが可能になります。
GSM/USSD	Global System for Mobile communication (GSM) ネットワークを経由する Unstructured Supplementary Service Data (USSD)。USSD は、セッション指向型かつトランザクション指向型です。
GPRS	General Packet Radio Service (GPRS)。各トランザクション・ベースで WAP を使用する場合は、このベアラ・テクノロジを選択します。GPRS を使用すると、サービスを常に実行状態にすることができます。GPRS カスタマは、コンテンツを受信するためにサービスを起動する必要はありません。
WAP ゲートウェイ・プロキシ	WAP プロキシ・サーバーのアドレス。「GSM/CSD」の場合、これは IP アドレスです。「GSM/SMS」の場合、これはサービスまたは電話番号です。「GSM/USSD」の場合、これは IP アドレスまたは MSISDN 番号です。このフィールドは必須です。
ポート番号	ポート番号。デフォルトのポート番号は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">■ 9200 (非接続指向)■ 9201 (接続指向)■ 9202 (セキュアかつ非接続指向)■ 9203 (セキュアかつ接続指向)
セキュア WAP セッション	Wireless Transport Layer Security (WTLS) を使用可能にする場合は、これを選択します。

表 12-6 WAP プロファイルのパラメータ (続き)

パラメータ	値
Phone Model	携帯電話のメーカーおよび機種。
ホーム・ページ	WAP ユーザーがアクセスする ISP プロバイダのホーム・ページ。
「GSM/CSD」のパラメータ	
呼出しのタイプ	接続に使用される呼出しタイプ（アナログまたは ISDN）のドロップダウン・リスト。
呼出しスピード	接続の呼出しスピード。
認証タイプ	ユーザー認証に使用されるプロトコルを次の中から選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ Password Authentication Protocol (PAP)■ Challenge Handshake Authentication Protocol (CHAP)
ISP 名	インターネット・サービス・プロバイダの名前。
ISP ログイン名	ユーザー名。
ISP ログイン・パスワード	ユーザーのパスワード。
「GSM/SMS」のパラメータ	
SMSC アドレス	Short Message Service Center (SMSC) の番号。
「USSD」のパラメータ	
プロキシ・タイプ	WAP プロバイダの電話番号または IP アドレス。
USSD サービス・コード	宛先番号の前に使用される USSD コード（たとえば、「*555*」など）。
タイムアウト	セッションの有効期限が終了するまでの時間（秒）。

WAP プロファイルの追加

WAP プロファイルを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「プロファイル」画面から、「プロファイルの追加」を選択します。
2. 次のように、「プロファイルの追加」画面に必要事項を入力します。
 - a. WAP プロファイル名を入力します。
 - b. 「ベアラー」ドロップダウン・リストから、使用可能なトランスポート・タイプのいずれかを選択します。
 - GSM/CSD
 - GSM/SMS
 - GSM/USSD
 - GPRS
3. WAP ゲートウェイ・プロキシを入力します。このフィールドは必須です。
4. 「実行」をクリックします。選択したトランスポート・タイプに該当する後述のパラメータに値を入力します。
 - a. 次のいずれかのポート番号を入力します。
 - 9200（非接続指向）
 - 9201（接続指向）
 - 9202（セキュアかつ非接続指向）
 - 9203（セキュアかつ接続指向）
 - b. Wireless Transport Layer Security (WTLS) を使用可能にする場合は、「セキュア WAP セッション」チェックボックスを選択します。このオプションを選択すると、ポート番号 9200 および 9201 が変更されます。
 - c. 電話のメーカー名および機種を入力します。
 - d. 「アクセス」フィールドに、GPRS のアクセス・ポイント（たとえば、「wap.us.companyname.com」など）を入力します。GMS を選択した場合は、電話番号を入力します。

「GSM/CSD」のパラメータ

- a. ドロップダウン・メニューから、呼出しタイプを選択します。
 - Analog
 - ISDN
- b. 次のいずれかのユーザー認証タイプを選択します。
 - PAP (Password Authentication Protocol)
 - CHAP (Challenge Handshake Authentication Protocol)
- c. ISP ログイン名を入力します。
- d. ISP パスワードを入力します。
- e. サービス・プロバイダのホーム・ページ URL を入力します。

「GSM/CMS」のパラメータ

- a. Short Messaging Service Center (SMSC) のアドレスを入力します。
- b. タイムアウトの秒数を入力します。

「GSM/USSD」のパラメータ

- a. プロキシ・タイプを入力します。たとえば、WAP プロバイダの電話番号または IP アドレスを入力します。
 - b. USSD サービス・コードを入力します。
 - c. セッションの有効期限が終了するまでの時間（秒）を入力します。
5. 「作成」をクリックします。

WAP プロファイルの編集

WAP プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集する WAP プロファイルを選択します。
2. 「編集」をクリックします。「編集」画面が表示され、選択した WAP プロファイルに対して設定されている値がフィールドに移入されます。
3. 必要に応じて、値を編集します。値の入力方法の詳細は、[「WAP プロファイルの追加」](#)を参照してください。
4. 「適用」をクリックして、WAP プロファイルの変更を確認します。

WAP プロファイルの削除

WAP プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する WAP プロファイルを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

Wireless Web サーバーの URL の構成

Wireless Web サーバーの URL を構成するには、次の手順を実行します。

1. Wireless Web サーバーの URL を HTTP モードで入力します。デフォルト設定は、`http://localhost:7777/ptg/rm` です。
2. Wireless Web サーバーの URL を HTTPS モードで入力します。デフォルト設定は、`https://localhost:7777/ptg/rm` です。
3. 非同期サーバー HTTP URL を入力します。デフォルト設定は、`http://localhost:7777/async` です。
4. Wireless Webtool の URL を HTTP モードで入力します。デフォルト設定は、`http://localhost:7777/webtool/login.uix` です。「リポジトリ・ダウンロード / アップロード・ユーティリティ」および「WebCache の更新」を使用するには、この URL を構成しておく必要があります。
5. 「HTTP アダプタ URL 接頭辞」を入力します。デフォルト設定は、`http://localhost:7777` です。

これは、HttpAdapter によって起動されるリモート **.jsp** ページの URL 接頭辞です。URL 接頭辞を入力すると、サーバーにより、マスター・サービスの作成ウィザードの「入力パラメータ」画面に入力した **.jsp** にこの接頭辞が自動的に追加されます。自分で入力する必要があるのは、**.jsp** のみです。

たとえば、リモートの **.jsp**、**myAPP.jsp** の URL は次のようになります。

```
http://remotehost:port/apps/myApp.jsp
```

URL 接頭辞は、`http://remotehost:port/apps/` です。マスター・サービスの作成ウィザードの「入力パラメータ」画面に、デフォルト値として「**myApp.jsp**」を入力するだけです。Wireless によって、自動的に接頭辞が **.jsp** に追加されます。

6. 「適用」をクリックします。

メッセージング・サーバー・クライアントの構成

メッセージング・サーバー・クライアントには、次のパラメータがあります。

表 12-7 メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ

パラメータ	値
スレッド・プール・サイズ	このクライアントのトランスポートによって作成されるスレッドの合計数。トランスポートでは、これらのスレッドを使用して、このクライアントの受信済メッセージおよびステータス・レポートが取り込まれます。クライアントがステータス・レポートを受け取らず、メッセージを受信する登録済エンドポイントも持たない場合、トランスポートではこの設定は無視されます。
キューの数	キューの数。トランスポートによってこの値が作成されるのは、このクライアントがステータス・レポートまたはメッセージを受信する場合のみです。トランスポートによってサポートされるのは、1つのクライアントにつき1つのキューだけです。1つのクライアントに対して複数のキューを指定した場合でも、トランスポートでは1つのクライアントにつき1つのキューしか作成されません。ここに値を指定しない場合、サイト・レベル構成で設定された数値がデフォルト値になります。クライアントがステータス・レポートを受け取らず、メッセージを受信する登録済エンドポイントも持たない場合、トランスポートではこの設定は無視されます。
受信者チャンク・サイズ	クライアントによる1つの送信コール内でメッセージを受信する受信者の数。受信者数が多すぎる場合、トランスポートにより、受信者メッセージがチャンク単位で送信されることがあります。このような場合、一部の受信者は、トランスポートにより他の受信者が処理されている間にメッセージを受信することもあります。この結果、一部の受信者が他の受信者よりも先にメッセージを受け取ることになります。チャンク単位でメッセージを送信すると、パフォーマンスが向上します。チャンク・サイズは500より大きくできません。チャンク・サイズを500より大きく設定した場合でも、トランスポートではチャンク・サイズとして500が使用されます。

表 12-7 メッセージング・サーバー・クライアントのパラメータ（続き）

パラメータ	値
キャリア・ファインダ・フック・クラス名	Wireless では、このフックを使用して電話番号から電話会社名を検索します。この電話会社名は、ドライバ・ファインダによって、この電話番号にメッセージを送信するための適切なドライバを検索する際に使用されます。電話会社のドライバとその電話会社の電話番号を併せて使用するとパフォーマンスが向上するため、電話会社固有のドライバが複数存在する場合は、このフックを使用してください。ノード・レベルでキャリア・ファインダ・フック・クラス名を指定しない場合、Wireless ではサイト・レベルで設定された名前が使用されます。サイト・レベルでキャリア・ファインダ・フック・クラス名を指定しない場合、ドライバ・ファインダは電話会社情報を持たないため、適切なドライバを検索できません。サイト・レベルでもノード・レベルでもキャリア・ファインダ・フック・クラスを指定しない場合、Wireless ではトランスポートのデフォルト・ドライバ・ファインダが使用されます。
ドライバ・ファインダ・フック・クラス名	トランスポートが特定の宛先にメッセージを送信するための適切なドライバを検索する際に使用するフックの名前。ドライバ・ファインダ・フックは、配信タイプ、コストまたはスピードなどの基準を使用してドライバを割り当てます。ノード・レベルでドライバ・ファインダ・フック・クラス名を指定しない場合、Wireless ではサイト・レベル構成で指定されたドライバ・ファインダ・フックが使用されます。
<div><ul style="list-style-type: none">■ プリセンド・フック■ ポストセンド・フック■ プリレシーブ・フック■ ポストレシーブ・フック</div>	これらのフックは、メッセージの送信前または送信後（プリセンド・フックおよびポストセンド・フック）、あるいはメッセージの受信前または受信後（プリレシーブ・フックおよびポストレシーブ・フック）にコールできます。これらのフックは、同じカテゴリ内にあり、指定された順序でコールされます。これらのフックを使用すると、トランスポートの上にアプリケーションを実装しなくても、検査やフィルタリングなどの特殊なクライアント機能を使用可能にできます。

非同期サーバーおよびアラート・エンジン・プロセスのメッセージング・サーバー・クライアントを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「スレッド・プール」フィールドに処理スレッドの数を入力します。
 2. キューの数を入力します。Wireless では、1 つのプロセス・タイプにつき 1 つのキューがサポートされます。
 3. 「受信者チャंक・サイズ」フィールドにメッセージ受信者の数を入力します。チャंक・サイズは 500 より大きくできません。500 より大きく設定した場合でも、トランスポートでは 500 が使用されます。
 4. キャリア・ファインダ・フック・クラスを入力します。
 5. ドライバ・ファインダ・フック・クラスを入力します。

6. 「適用」をクリックします。

注意： ノード・レベルで値が設定されていない場合、Wireless では、サイト・レベルで設定された値がデフォルト値として使用されます。

7. 必要な場合、プリセンド・フック、ポストセンド・フック、プリレシーブ・フックおよびポストレシーブ・フックの Java クラスを選択します。
8. 「完了」をクリックします。

フック・クラスの追加

別のフックを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「1 行追加」をクリックします。
2. フックの Java クラスを入力します。
3. 行を選択します。
4. 「適用」をクリックします。

フックの削除

フックを削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除するフックを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

WirelessJDBC 接続プールの構成

「JDBC 接続プール」画面は、「サイト」画面の「JDBC 接続プール」ハイパーリンクを選択すると起動されます。この画面で、サイトの JDBC 接続を構成できます。JDBC 接続プールの値がサーバー・レベルで設定されていない場合、サイト・レベルで設定された値がサーバー・レベルのデフォルト値になります。

JDBC 接続を構成するには、次の手順を実行します。

1. JDBC 接続プールの「最小接続数」を入力します。デフォルトは、1 です。
2. JDBC 接続プールの「最大接続数」を入力します。デフォルトは、100 です。
3. 「接続割当ての増分」フィールドに、JDBC 接続プールへの新規接続の割当ての増加単位を数値で入力します。デフォルトは、1 です。
4. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

ユーザー・プロビジョニングの構成

「ユーザー・プロビジョニング」画面では、プロビジョニング・アダプタにより使用されるプロパティを設定できます。これにより、リポジトリと既存のプロビジョニング・システムを統合できます。

プロビジョニング・アダプタのプロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーのホーム・フォルダの親フォルダの名前を入力します。新規のユーザーごとに、新規のサブフォルダが1つずつ作成されます。デフォルトは、/Users Home です。
2. ドロップダウン・リストから、ユーザーが属するデフォルト・グループを選択します。デフォルトは、Users です ([Ctrl] を押しながらクリックすると、グループを選択または選択解除できます)。

注意： 仮想ユーザーとは、Wireless サイトにアクセスするが、登録されていないユーザーのことです。このようなユーザーが Wireless サイトにアクセスすると、Wireless によってそのユーザーが検出され、そのユーザーに対して仮想ユーザー・アカウントが作成されます。

3. ユーザーのロケーションをサードパーティのアプリケーションに開示できるようにするには、「ユーザーのロケーションの開示」を選択します。
4. ユーザーの識別情報をサードパーティのアプリケーションに開示できるようにするには、「ユーザーの識別情報の開示」を選択します。
5. 次のように、「仮想ユーザー・プロビジョニング」セクションに必要な事項を入力します。
6. 仮想ユーザーのホームの親フォルダを入力します。
 - a. 仮想ユーザーが属するグループを選択します。[Ctrl] を押しながらマウスの左ボタンをクリックすると、グループを選択または選択解除できます。
 - b. 仮想ユーザーがアカウントを作成できるようにするには、「仮想ユーザーを使用可能にする」を選択します。
7. 「適用」をクリックします。「サイト」画面が再度表示されます。

Secure Sockets Layer (SSL) の構成

「SSL 構成」画面では、セキュリティ証明書を Base64 証明書ファイルまたは PKCS#7 形式の証明書ファイルとして構成し、HTTPS プロトコルを使用可能にできます。

Base64 証明書ファイルの追加

Base64 証明書ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「Base64 証明書ファイル」セクションで、「1 行追加」をクリックします。
2. 絶対ファイル名を入力します。すべての Base64 証明書ファイルは、先頭は '--BEGIN CERTIFICATE--'、末尾は '--END CERTIFICATE--' によってバインドされています。
3. 「適用」をクリックします。

PKCS#7 形式の証明書ファイルの追加

PKCS#7 形式の証明書ファイルを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「PKCS#7 形式の証明書ファイル」セクションで、「1 行追加」をクリックします。
2. 絶対ファイル名を入力します。
3. 「適用」をクリックします。

証明書ファイルの編集

証明書ファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. 証明書ファイルを選択します。
2. 必要に応じて、ファイル名を変更します。
3. 「適用」をクリックします。

証明書ファイルの削除

証明書ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. 証明書ファイルを選択します。
2. 「削除」をクリックします。

注意： HttpAdapter で HTTPS を使用するには、SSL を構成する必要があります。

オブジェクト・キャッシュ同期の構成

「オブジェクト・キャッシュ」画面では、キャッシュ同期メッセージを処理するスレッド・プールを構成できます。

オブジェクト・キャッシュ同期を構成するには、次の手順を実行します。

- 1. スレッド・プール内の最小スレッド数を入力します。
- 2. スレッド・プール内の最大スレッド数を入力します。
- 3. スレッド・プール内のスレッドのタイムアウトを分数で入力します。
- 4. 「適用」をクリックします。

Oracle Applications の構成

Oracle Applications の「構成」画面は、「管理」で「Oracle Applications」を選択すると起動されます。この画面で、Wireless によって使用される Oracle Applications を構成できます。Wireless により Oracle Applications が実行されていない場合は、Oracle Applications プロパティを構成する必要はありません。

図 12-2 アプリケーション構成

ORACLE

Enterprise Manager

Preferences Help

Wirelessサーバー

サイト

Targets

Application Server: ccsv2mid.jp.sun2ee3.jp.oracle.com > Wireless > サイト > Oracle Applications

Oracle Applications

ログイン

* ログ・ファイル名

system.log

最大ログ・ファイル・サイズ

10000000

☐ ログをローテーション可能にしますか。

DBC構成

* DBCフォルダ

* Oracle Applicationのデータベース 構成ファイル名

* 初期プール・サイズ(データベース 接続数)

3

クラス・バス構成

APPL_TOP

Oracle Applicationのクラス・バス

Oracle Applications を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「ログ・ファイル名」フィールドに、使用する Oracle Applications のログ・ファイル名を入力します。
2. 「最大ログ・ファイル・サイズ」フィールドに、ログ・ファイルの可能な最大サイズ（バイト）を入力します。
3. 最大ファイル・サイズに達した後、ログをローテーションさせる場合は、「ログをローテーション可能にしますか。」をクリックします。
4. 「DBC フォルダ」フィールドに、DBC フォルダのロケーションを入力します。
5. 「DBC File Name」フィールドに、DBC ファイル名を入力します。
6. 「Initial Pool Size」フィールドに、アプリケーションの初期データベース接続数を入力します。
7. 「APPL_TOP」フィールドに、APPL_TOP のロケーションを入力します。
8. 「Oracle Application のクラス・パス」に、Wireless サーバーのクラスパスに入れる .jar または .zip ファイルをカンマで区切って入力します。

WebCache のリフレッシュ

「サイト」画面の「ユーティリティ」セクションから、次の WebCache 関連タスクを実行できます。

- [マスター・サービスの WebCache のリフレッシュ](#)
- [ロジカル・デバイスの WebCache のリフレッシュ](#)

マスター・サービスの WebCache のリフレッシュ

このユーティリティを使用すると、選択したマスター・サービスのページを明示的に消去できます。たとえば、サービス・デザイナーでプログラム設定するとき以外にマスター・サービスから失効コンテンツをクリアする場合などは、このユーティリティを使用します。

選択したマスター・サービスのページを消去してリフレッシュするには、次の手順を実行します。

1. マスター・サービスを選択します。
2. 「コンテンツの更新」をクリックします。

ロジカル・デバイスの WebCache のリフレッシュ

このユーティリティを使用すると、WebCache から特定のロジカル・デバイスのページを明示的に消去できます。

選択したロジカル・デバイスのページを消去してリフレッシュするには、次の手順を実行します。

1. デバイスを選択します。
2. 「コンテンツの更新」をクリックします。

サーバー・パフォーマンス監視

この章では、サーバー・レベルおよびサイト・レベルのパフォーマンスの監視について説明します。次の項目について説明します。

- [現在のホストのサーバー・パフォーマンス監視](#)
- [サイトのサーバー側パフォーマンス監視](#)

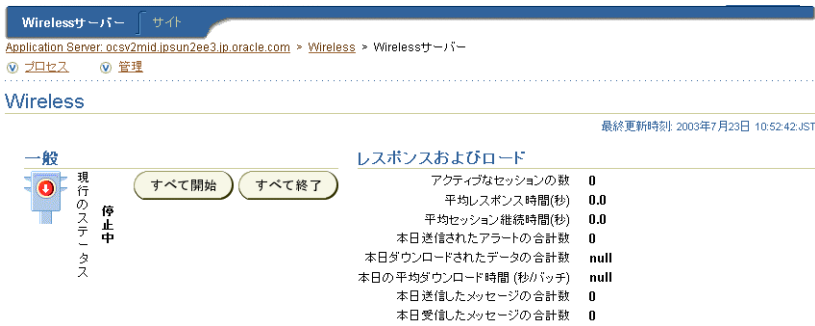
現在のホストのサーバー・パフォーマンス監視

OEM からアクセスする Oracle9iAS Wireless ページから、リアルタイムのパフォーマンス・データを監視してシステムの健全性を評価したり、データを収集して履歴傾向を表示できます。

「Wireless サーバー」タブの「レスポンスおよびロード」セクションに、プロセス・パフォーマンス・メトリックの概要として次の Wireless 統計情報が表示されます。

- アクティブなセッションの数
- 平均レスポンス時間（秒）
- 平均セッション継続時間（秒）
- 本日送信されたアラートの合計数
- 本日ダウンロードされたデータの合計数
- 本日の平均ダウンロード時間（秒 / バッチ）
- 本日送信したメッセージの合計数
- 本日受信したメッセージの合計数

図 13-1 「Wireless サーバー」タブの「レスポンスおよびロード」セクション



Wireless サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックは、「詳細」画面を使用して表示できます。「詳細」画面の「レスポンスおよびロード」セクションには、選択したプロセスの全体的なパフォーマンスが一覧表示されます。画面の「パフォーマンス」セクションには、個々のメトリックが一覧表示されます。

図 13-2 Wireless サーバー・プロセスの「詳細」画面



Wireless Web サーバー・プロセスのパフォーマンス・データ・メトリックの表示

画面の「レスポンスおよびロード」セクションには、次のカテゴリについて Wireless Web サーバー・プロセスの全体的なパフォーマンスが表示されます。

- アクティブ・ユーザー数
- 平均レスポンス時間 (秒)
- 平均セッション継続時間 (秒)

Wireless サーバー・プロセスの「詳細」画面の「パフォーマンス」セクションには、次の情報が表示されます。

平均レスポンス時間

次の項目が測定されたプロセスの表示。

- 起動されたサービスの平均レスポンス時間。
- サービス・アクション (適応時間、変換時間およびその他のプロセスなど) に対して使用された時間の割合。これを使用して、サービスのボトルネックを診断できます。
- サンプル期間における分単位のサービス起動数。これを使用して、過去のサンプル期間におけるシステムのアクティビティを特定できます。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

サービスに対する平均レスポンス時間

サンプル期間における平均レスポンス時間が測定されたプロセス。これを使用して、サンプル期間における各プロセスのサービスのパフォーマンスを調査できます。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

サービス・エラー

サービス・エラー数に対応するプロセスの表示。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

セッション・エラー

セッション・エラーに対応するセッション ID の表示。これは、指定の期間内にサンプリングされた秒単位のサービス・エラーに対応するプロセスの表示でもあります。このメトリックを使用して、あるプロセスで他のプロセスより頻繁にサービスの失敗を発生させている問題（不適切な構成やその他の外部要因など）を特定できます。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

セッション継続時間

ログイン継続時間に対応するプロセスのセッション ID の表示。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

セッション・サービス

プロセスのセッション ID と、そのセッションについて起動されたサービスの数の表示。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

ユーザーに対するサービス

ユーザー単位でサービスの起動回数が測定されたプロセスのユーザーの表示。これを使用して、アクティブなユーザーを分類できます。

このメトリックについて期間を選択する方法の詳細は、「[パフォーマンス・データのサンプル期間の選択](#)」を参照してください。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

これらのサンプル・メトリックについては、過去 5 分間から過去 7 日間までのサンプル期間を選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。統計の表示を終了後、「OK」をクリックして「詳細」画面に戻ります。

カレント・セッション

Wireless Web サーバー・プロセスのランタイム・セッションおよびユーザーの表示。Wireless によって、各サービス起動リクエストと、成功した各ユーザー・セッションが記録されます。「カレント・セッション」画面には、次の要素が表示されます。

表 13-1 「カレント・セッション」画面の要素

要素	説明
セッション ID	アクティブ・セッションの識別子
ユーザー名	ユーザー名
ユーザー ID	ユーザーの OID
最新アクセス時間	ユーザーがセッションにアクセスした最後の時刻

統計の表示を終了後、「OK」をクリックして「詳細」画面に戻ります。

カレント・スレッド

アクティブ・スレッドの表示。Wireless Web サーバー・プロセスのグループによって分けられます。「カレント・スレッド」画面には、次のようにスレッドが表示されます。

表 13-2 ランタイム・スレッド

オブジェクト	説明
名前	スレッドの名前。
説明	スレッドの説明。
割込み	false の場合、スレッドは割り込まれていません。true の場合、スレッドは割り込まれています。
動作中	true の場合、スレッドはアクティブです。false の場合、スレッドは開始されており、まだ終了していません。

統計の表示を終了後、「OK」をクリックして「詳細」画面に戻ります。

Java ランタイム情報

Java バージョンやクラスパスなどの、Wireless Web サーバー・プロセスの Java ランタイム情報の表示。

非同期サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの表示

「詳細」画面から、「レスポンスおよびロード」セクションに、その日に受信したメッセージの数を表示できます。

画面の「パフォーマンス」セクションには、次のパフォーマンス・メトリックが一覧表示されます。

本日の時間別の受信したメッセージ数

その日に、1 時間単位で受信したメッセージの数。

本日の平均メッセージ・キュー・サイズ

その日の 1 時間単位のメッセージ・キューの平均サイズ。

本日の平均メッセージ問合せ継続時間

その日に、1 時間単位でメッセージ・キュー内に保留されたメッセージの平均時間。

本日の平均サービス処理時間

その日の 1 時間単位の平均サービス起動時間。

本日の平均メッセージ・レスポンス時間

その日に、1 時間単位で非同期サーバー上に存在していたメッセージの平均時間。

本日のサービス・アクセス数

その日に、各サービスがアクセスされた回数。

本日のエラー数

その日の 1 時間単位のエラー数。

メッセージング・サーバー・パフォーマンス・メトリックの表示

Wireless では、各メッセージング・サーバー・パフォーマンス・メトリックについて、クライアント・プロセス名および（SMS などの）配信タイプ別にパフォーマンスが表示されます。パフォーマンス・メトリックには、次のようなものがあります。

平均レスポンス送信時間

送信メソッドの平均時間。クライアント側では、メッセージを送信するために送信メソッドがコールされます。この時間は、メソッドがコールされてから返されるまでの時間です。メソッドが返されると、メッセージは永続的にデータベースに保存されますが、配信されません。

送信リクエストの合計数

これは、送信メソッドがクライアント・プロセスによってコールされる合計時間です。送信メソッドは、宛先のセットにメッセージを送信するために 1 回コールできます。

送信した送信リクエストの合計数

正常に処理された（メッセージが適切なゲートウェイに配信され、受信が確認された）コールの合計数です。クライアント・プロセスは、多数のメッセージを送信するために何度も送信メソッドをコールできます。これらのリクエストの中には、宛先に到達できないケースのように失敗する場合があります。また、リクエストが処理中である場合があります。

失敗した送信リクエストの合計数

失敗したことがわかっているすべてのコールの合計数。

平均受信処理時間

onMessage コールバックで使用される時間に関連したリスナーのパフォーマンス。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

これらのサンプル・メトリックについては、前日または過去 30 日間から、アクティビティのサンプル期間を選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

メッセージング・サーバー・プロセスのパフォーマンス・メトリックの表示

画面の「パフォーマンス」セクションには、次のパフォーマンス・メトリックが表示されます。

平均送信処理時間

「Average Sending Process」画面には、ドライバの送信メソッドによって使用された時間について、ドライバのパフォーマンスが表示されます。この画面では、配信タイプ（SMS など）、プロセス時間（ドライバが適切なゲートウェイにメッセージを送信するのにかかる時間）、デキュー時間およびドライバ・プロセス時間別に、ドライバ・パフォーマンスが測定されます。トランスポート・システムのパフォーマンスを測定する場合、ドライバがメッセージを送信中はトランスポート・システムが待機となるため、処理時間を差し引くことができます。ドライバが高速の場合、システムの待機時間は短くなります。

平均レスポンス受信時間

メッセージがトランスポート・ドライバに受信された後、メッセージは `onMessage` メソッドによってトランスポート・システムに渡されます。レスポンス時間は、`onMessage` メソッドによって使用される時間です。`onMessage` が返されると、受信メッセージはディスパッチのためにデータベースに保存されます。

受信メッセージの合計数

トランスポート・ドライバによって `onMessage` コールバック・メソッドがコールされる合計回数。

ディスパッチした受信メッセージの合計数

リスナーにディスパッチされ、リスナーによって受け取られた受信メッセージの合計数。受信メッセージのうちいくつかは、処理中である場合があります。また、リスナーにディスパッチされていないメッセージや、ディスパッチされた後にリスナーが処理に失敗したメッセージがある可能性もあります。

ディスパッチに失敗した受信メッセージの合計数

リスナーにディスパッチできなかった受信メッセージの合計数。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

これらのサンプル・メトリックについては、前日または過去 30 日間から、アクティビティのサンプル期間を選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

サイトのサーバー側パフォーマンス監視

「サイト」タブでは、「レスポンスおよびロード」セクション内に全体的なサイト・パフォーマンス・メトリックが表示されます。「レスポンスおよびロード」セクションには、次のような、Wireless Web サーバーのサイト全体にわたるプロセスの総合的なパフォーマンス統計情報が表示されます。

- アクティブなセッションの数
- 平均レスポンス時間（秒）
- 平均セッション継続時間（秒）
- 本日送信されたアラートの合計数
- 本日ダウンロードされたデータの合計数
- 本日の平均ダウンロード時間（秒 / バッチ）
- 本日送信したメッセージの合計数
- 本日受信したメッセージの合計数

ランタイム、アラートおよびフィード・コンポーネントのパフォーマンスのシステム・メトリックを使用すると、システムの健全性およびパフォーマンスを評価できます。これらの個々のメトリックは、システム内の障害を直接的に特定していない場合もありますが、これらのメトリックによって収集されたデータから仮説的な理由モデルを構築すると、システムの健全性を診断できます。

図 13-3 「サイト」タブの「レスポンスおよびロード」セクション

Wirelessサーバー サイト

Application Server: ocsrv2mid.jp.sun2ee3.jp.oracle.com > Wireless :

▼ プロセス ▼ パフォーマンス ▼ 管理

サイト

レスポンスおよびロード	
アクティブなセッションの数	1
平均レスポンス時間(秒)	32.914
平均セッション継続時間(秒)	0.0
本日送信されたアラートの合計数	0
本日ダウンロードされたデータの合計数	null
本日の平均ダウンロード時間 (秒/バッチ)	null
本日送信したメッセージの合計数	0
本日受信したメッセージの合計数	0

サイト全体にわたるプロセスのパフォーマンス・メトリックは、「詳細」画面を使用して表示します。この画面を起動するには、「サイト」タブの「プロセス」表内のプロセス・タイプからドリルダウンします。

図 13-4 サイト全体にわたるプロセスの「詳細」画面

Wirelessサーバー サイト

Application Server: ocsrv2mid.jp.sun2ee3.jp.oracle.com > Wireless > サイト > Wireless Webサーバー

▼ パフォーマンス ▼ 管理

Wireless Webサーバー

レスポンスおよびロード	
アクティブなセッションの数	1
平均レスポンス時間(秒)	32.914
平均セッション継続時間(秒)	0.0
パフォーマンス	
平均レスポンス時間	セッション継続時間
サービス・レスポンス時間	セッション・サービス
平均セッション継続時間	ユーザー数
セッション・エラー	ユーザーに対するサービス
サービス・エラー	

Wireless Web サーバーのサイト全体にわたるプロセスのパフォーマンス・メトリックの表示

「レスポンスおよびロード」セクションには、次のような全体的なパフォーマンス・メトリックが一覧表示されます。

- アクティブなセッションの数
- 平均レスポンス時間（秒）
- 平均セッション継続時間（秒）

「パフォーマンス」セクションには、次の情報が一覧表示されます。

平均レスポンス時間

システムの全体的なサービス・パフォーマンスの表示。指定された期間中に起動されたサービスの平均レスポンス時間に対応するプロセス名が表示されます。

サービス・レスポンス時間

「サービス・レスポンス時間」統計は、複数のプロセスにわたって起動された各サービスの平均レスポンス時間のための統計クラスです。「サービス・レスポンス時間」統計は、サービス名およびプロセス ID 別にグループ分けされます。レスポンス時間が構成可能なしきい値を超えると、Oracle Performance Manager によって警告またはエラーが生成されます。このメトリックを使用して、サンプル期間における各プロセスのサービスのパフォーマンスを調査できます。

平均セッション継続時間

平均セッション継続時間に対応するプロセス名の表示。このメトリックを使用して、1 日の様々な時間にサンプリングすると、ピーク・ユーザー時間とオフピーク・ユーザー時間の両方を評価できます。

セッション・エラー

「セッション・エラー」統計は、各セッションのエラー数を表す統計クラスです。「セッション継続時間」統計については、データはプロセス ID 別にグループ分けされます。

サービス・エラー

「サービス・エラー」統計は、ランタイム・エラーのあるサービスの数を表す統計クラスです。サービス・エラー・データは、プロセス ID 別にグループ分けされます。

セッション継続時間

「セッション継続時間」統計は、各セッションの継続時間を表す統計クラスです。データは、プロセス ID 別にグループ分けされます。各セッションの継続時間は、ログイン時刻と終了時刻（セッションがまだ操作可能状態であれば、現在の時刻）を使用して計算されます。セッション継続時間の統計は、表として表示されます。

セッション・サービス

「セッション・サービス」統計は、各セッション中に起動されたサービスの数を表す統計クラスです。データは、プロセス ID 別にグループ分けされます。

ユーザー数

アクティブ・ユーザー数に対応するプロセス名の表示。このメトリックを使用して、新規ユーザーのリダイレクトによって各プロセスでのユーザー負荷を管理できます。

ユーザーに対するサービス

「ユーザーに対するサービス」統計は、複数のプロセスにわたって特定ユーザーによって起動されたサービス数を表す統計クラスです。ユーザー・サービス統計のデータは、ユーザー名およびプロセス ID 別にグループ分けされます。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

これらのサンプル・メトリックについては、過去 5 分間から過去 7 日間までのサンプル期間を選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

非同期サーバーのサイト・パフォーマンス・メトリックの表示

「レスポンスおよびロード」セクションには、次のような、アラート・サーバー・プロセスのパフォーマンス統計情報が表示されます。

- 本日受信したメッセージの合計数
- 本日の平均メッセージ・レスポンス時間（秒）
- 本日のエラーの合計数

「非同期サーバー」画面の「パフォーマンス」セクションからは、次のパフォーマンス・メトリックを表示できます。

本日の受信したメッセージ数

その日に受信したメッセージの数（プロセス名別にグループ分け）。

本日の時間別の受信したメッセージ数

その日に、1時間単位で受信したメッセージの数。

本日の平均メッセージ・キュー・サイズ

その日のメッセージ・キューの平均サイズ。

本日の平均メッセージ問合せ継続時間

その日に、1時間単位でメッセージ・キュー内に保留されたメッセージの平均時間。

本日の平均サービス処理時間

その日の1時間単位のサービス起動時間。

本日の平均メッセージ・レスポンス時間

その日に、1時間単位でサーバー上に存在していたメッセージの平均時間。

本日のサービス・アクセス数

その日に、各サービスがアクセスされた回数。

本日のユーザー・アクセス数

各ユーザー・デバイスによって発行されたメッセージ数。

本日のエラー数

その日の1時間単位のエラー数。

メッセージング・サーバー・プロセスのサイト全体にわたるパフォーマンス・メトリックの表示

「詳細」画面の「レスポンスおよびロード」セクションには、次のような全体的なパフォーマンス・メトリックが一覧表示されます。

- 本日送信したメッセージの合計数
- 本日受信したメッセージの合計数

「パフォーマンス」セクションには、メッセージング・サーバーのサーバー側およびクライアント側のパフォーマンス・メトリックが一覧表示されます。

「メッセージング・サーバー・プロセス」画面から、サーバー上の選択したメッセージング・サーバー・プロセスのパフォーマンスに関する、次のような表示にアクセスできます。これらのメトリックそれぞれについて、「クライアント送信パフォーマンス」画面に、クライアント・プロセス名および（SMS などの）配信タイプ別にパフォーマンスが表示されます。「平均レスポンス送信時間」については、画面に、クライアント・プロセス名および配信タイプごとのパフォーマンスが、レスポンス時間およびエンキュー時間別に表示されます。

「メッセージング・サーバー」画面の「サイト」セクションには、次のメトリックが表示されます。

平均送信処理時間

「Average Sending Process」画面には、ドライバの送信メソッドによって使用された時間について、ドライバのパフォーマンスが表示されます。この画面では、配信タイプ（SMS など）、プロセス時間（ドライバが適切なゲートウェイにメッセージを送信するのにかかる時間）、デキュー時間およびドライバ・プロセス時間別に、ドライバ・パフォーマンスが測定されます。トランスポート・システムのパフォーマンスを測定する場合、ドライバがメッセージを送信中はトランスポート・システムが待機となるため、処理時間を差し引くことができます。高速のドライバの場合、待機時間は少なくなります。

平均レスポンス受信時間

メッセージがトランスポート・ドライバに受信された後、メッセージは `onMessage` メソッドによってトランスポート・システムに渡されます。レスポンス時間は、`onMessage` メソッドによって使用される時間です。`onMessage` が返されると、受信メッセージはディスパッチのためにデータベースに保存されます。

受信メッセージの合計数

トランスポート・ドライバによって `onMessage` コールバック・メソッドがコールされる合計回数。

ディスパッチした受信メッセージの合計数

リスナーにディスパッチされ、リスナーによって受け取られた受信メッセージの合計数。受信メッセージのうちいくつかは、処理中である場合があります。また、リスナーにディスパッチされていないメッセージや、ディスパッチされた後にリスナーが処理に失敗したメッセージがある可能性もあります。

ディスパッチに失敗した受信メッセージの合計数

リスナーにディスパッチできなかった受信メッセージの合計数。

平均レスポンス送信時間

送信メソッドの平均時間。クライアント側では、メッセージを送信するために送信メソッドがコールされます。この時間は、メソッドがコールされてから返されるまでの時間です。メソッドが返されると、メッセージは永続的にデータベースに保存されますが、配信されません。

送信リクエストの合計数

これは、送信メソッドがクライアント・プロセスによってコールされる合計時間です。送信メソッドは、宛先のセットにメッセージを送信するために 1 回コールできます。

送信した送信リクエストの合計数

正常に処理された（メッセージが適切なゲートウェイに配信され、受信が確認された）コールの合計数です。クライアント・プロセスは、多数のメッセージを送信するために何度も送信メソッドをコールできます。これらのリクエストの中には、宛先に到達できないケースのように失敗する場合があります。また、リクエストが処理中である場合があります。

失敗した送信リクエストの合計数

失敗したことがわかっているすべてのコールの合計数。

平均受信処理時間

onMessage コールバックで使用される時間に関連したリスナーのパフォーマンス。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

これらのサンプル・メトリックについては、前日または過去 30 日間から、アクティビティのサンプル期間を選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

サイト・パフォーマンスの表示

「サイト」画面の「パフォーマンス」セクションで「サマリー」ハイパーリンクをクリックすると、サイト上のサーバーによる全体的なパフォーマンスを表示できます。「サイト」画面には、サイト上の各サーバーについて、Wireless Web サーバー・プロセス・パフォーマンスが、アクティブ・ユーザー数および平均セッション継続時間（秒）別に表示されます。

パフォーマンス・データのサンプル期間の選択

アクティビティのサンプル期間は、過去 7 日間から過去 5 分間の範囲で選択できます。

サンプル期間を設定するには、次の手順を実行します。

1. ドロップダウン・リストから、サンプル期間を選択します。
2. 「実行」をクリックします。

アクティビティおよびシステム・ロギング

アクティビティおよびシステム・ロギングの概要

Oracle9iAS Wireless Performance Manager では、Wireless Web サーバー、アラート・エンジン、メッセージ・ゲートウェイ・サーバー、データ・フィード・エンジンおよび非同期サーバーの実行ステータスに関する情報がシステム管理者に提供されます。また、Performance Manager では統計情報も表示できるため、システム管理者は過去のパフォーマンスや履歴データを調査して、将来の傾向分析を実行できます。

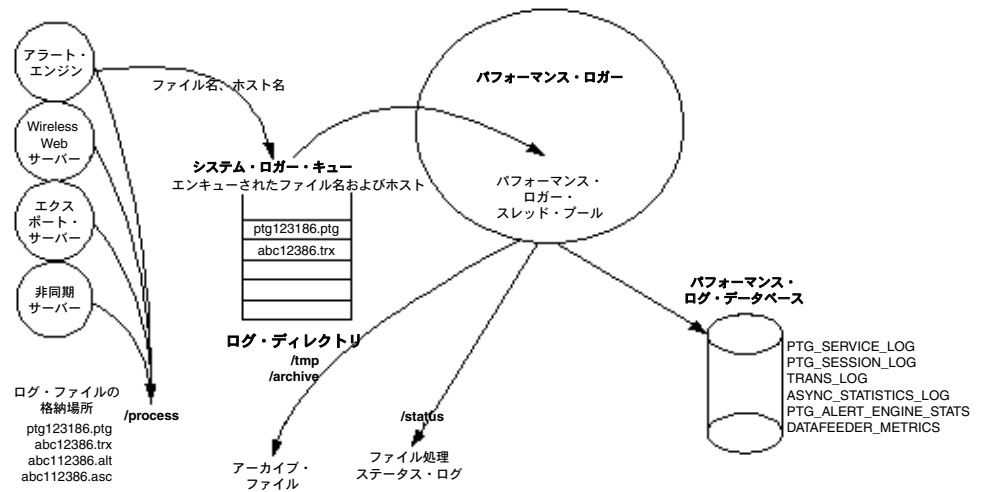
Wireless は、Oracle Enterprise Manager (OEM) フレームワークと統合され、記録されたデータに基づいた診断用メトリックが表示される Web ベースの監視ツールを提供します。

アクティビティ・ロガー内部の概要

アクティビティ・ロガーには、ランタイム・コンポーネントによって使用される共通ロギング・フレームワークが備わっています。データベースへのランタイム・ロギングでは膨大なオーバーヘッドが発生するため、データベース・ロギングは非同期に処理されます。ランタイム・データはファイルとして生成され、負荷は少なくなります。このように生成されたデータは Performance Logger フレームワークによって選択され、データベースに書き込まれます。このように、データベース・ロギングは、個々のサーバーのランタイム・パフォーマンスに影響を与えることなく、非同期に処理されます。

Wireless Web サーバーの場合、ロギング・プロセスは、生成された（すなわち、セッションが開始して終了した）各種イベントのコールバック内で処理されます。デフォルトでは、これらのイベントはロギングの目的で使用可能になります。管理者がロギングを生成しないように選択した場合に Wireless Web サーバーのロギングをオフに切り替える機能があります。この場合、コールバックによってログ・ファイルは生成されません。アラート・エンジン、非同期サーバーおよびトランスポート・サーバーなどの他のモジュールの場合、ファイルへのロギングは、対応するリクエストが実行されるときに行われます。データ・フィードによって、ランタイム・データがデータベースにバッチで直接記録されます。

図 14-1 パフォーマンス・ロガーの相互作用



生成されたログ・ファイルは、共通のディレクトリ構造に従います。これは、ノード（プロセス）レベルでシステム管理機能を使用して構成できます。最上位レベルのロギング・ディレクトリはここで指定します。すべてのモジュールが使用するロガー・フレームワークによって、**process**、**status** および **archive** などのサブディレクトリが作成されます。実行時、様々なモジュールにより生成されたログ・ファイルには、固有のファイル接尾辞が付けられます。これらのファイルは **process** ディレクトリに格納され、ファイル名とマシン名は **SYS_LOGGER_QUEUE** にエンキューされます。構成ファイル・サイズに基づくファイルの処理を可能にできます。また、**Wireless** では、一定時間経過後にログ・ファイルを自動的に処理可能にするためのログ・ファイル・エージングがサポートされています。これにより、ロギング・プロセスが非同期であるために生じる偏りが少なくなります。ログ・ファイル・エージ（クローズ頻度とも呼ばれる）は、パフォーマンス・ロガーのサイト・レベル構成のシステム管理機能を使用して構成できます。

（固有の接尾辞を付けてこれらのログ・ファイルを生成する）モジュールは、データベース・ログ・ファイル・ハンドラ・クラスを提供します。このクラスによって、これらのファイルが処理されます。ハンドラ・クラスは、共通抽象クラスを拡張することで作成されます。これにより、接続、ディレクトリおよびファイル情報が提供されます。接尾辞マッピングへのハンドラは、インストール中に **Wireless** に組み込まれます。

パフォーマンス・ロガーを起動すると、複数のスレッドが起動されます。各スレッドには、異なるハンドラのインスタンスが含まれます。各ロガー・スレッドによって、ローカル・マシンに属するファイル名がデキューされ、ファイル接尾辞が検査され、さらなる処理のために対応するハンドラ・クラスに渡されます。

管理者は、プロセス・レベル構成のシステム管理機能を使用してパフォーマンス・ロガー・スレッド数を制御できます。

パフォーマンス・モニター構成の詳細は、第 12 章「サーバー構成」の「パフォーマンス・モニター・プロセスの構成」を参照してください。

アクティビティ・ログ表の説明

注意： これらの表はサーバーの存続期間中にサイズが大きくなる傾向があるため、管理者は、これらの表から定期的にデータを消去するよう選択できます。

PTG_SERVICE_LOG

表 14-1 サービス・アクティビティ・ログ

列名	説明
Service_id	起動されたサービスのオブジェクト識別子。
Service_name	起動されたサービスの名前。
ptg_instance_id	インスタンスを識別する一意の識別子。
final_service_id	最終サービス（すなわち、マスター・サービス・フォルダ）のオブジェクト識別子。
final_service_name	最終サービスの名前。
session_id	コンテキスト内でサービスが起動されたセッションのセッション識別子。
bookmark	サービス・ブックマーク。
service_type	サービスのタイプ。
invocation_hour	サービスが起動された時間。
invocation_time	サービスが起動された日付。
response_time	サービスのレスポンス時間。
request_status	リクエストのステータス。ゼロ以外の値は、エラー番号を示します。
error_description	エラー・メッセージ（サービスの起動中にエラーが発生した場合）。
user_id	ユーザーのオブジェクト識別子。
user_name	ユーザーの名前。
remote_address	ゲートウェイの IP アドレスおよびホスト名。
host_id	ホストの IP アドレスおよび名前。

表 14-1 サービス・アクティビティ・ログ（続き）

列名	説明
logical_device	サービスが起動されたロジカル・デバイス。
external_user_id	このリクエストを転送した外部ユーザー ID。
external_user_name	このリクエストを転送した外部ユーザー名。
adapter_type	このリクエストにサービスを提供している（現在ログに記録されていない）アダプタのタイプ。
adapter_time	アダプタがこのリクエストにサービスを提供するのにかかる時間。
transformation_time	トランスフォーマがこのリクエストにサービスを提供するのにかかる時間。
timestamp	記録されたイベントのタイムスタンプ（トリガーによって生成されたもの）。

表 14-2 DATAFEEDER_METRICS

列名	説明
HOST_NAME	このデータ・フィードのホスト名
INSTANCE_NAME	このデータ・フィードのインスタンス名
FEED_NAME	このデータ・フィードの名前
UPDATE_DATE	このバッチ実行の日時
ACTUAL_BATCHTIME	このバッチに費やされた実際の時間
DOWNLOADED_ROWS	公開率（格納されたデータ行）
ERROR_DESCRIPTION	このバッチについて発生したエラー（将来の使用向け）

PTG_ALERT_ENGINE_STATS

表 14-3 アラート・サーバー・アクティビティ・ログ

列名	説明
host_name	このアラート・サーバー・インスタンスが実行されているマシンのホスト名
instance_name	アラート・インスタンス名
malert_name	このアラート・メッセージを生成するマスター・アラート・サービスの名前

表 14-3 アラート・サーバー・アクティビティ・ログ（続き）

列名	説明
malert_oid	このアラート・メッセージを生成するマスター・アラート・サービスのオブジェクト識別子
subscriber_name	このアラート・メッセージを受信するサブスクライバの名前
device_address	このアラート・メッセージの配信先のデバイス・アドレス
device_oid	デバイス・アドレスのオブジェクト識別子
device_type	デバイスのタイプ
message_id	このアラート・メッセージのメッセージ・ゲートウェイによって生成されたメッセージ ID
message_length	このアラート・メッセージの長さ
message_status	このアラート・メッセージのディスパッチ・ステータス
dispatch_time	メッセージ・ゲートウェイにディスパッチされるこのアラート・メッセージのタイムスタンプ
error_description	エラー・メッセージ（このアラート・メッセージのディスパッチ中にエラーが発生した場合）

ASYNC_STATISTICS_LOG

表 14-4 非同期サービス・アクティビティ・ログ

列名	説明
host	非同期サーバーが実行されているホストの名前。
instance_id	非同期サーバーのインスタンスを識別するための一意の ID。
source_addr	受信メッセージのソース・アドレス。
dest_addr	受信メッセージの宛先アドレス。

表 14-4 非同期サービス・アクティビティ・ログ（続き）

列名	説明
delivery_type	メッセージのネットワーク配信タイプ。有効な値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ WAP プッシュ ■ SMS ■ Voice ■ Email ■ Fax ■ 双方向ポケットベル ■ 単方向ポケットベル
encoding	メッセージの文字エンコーディング。
queue_size	メッセージの受信時にキュー内で待機しているメッセージの数。
msg_rcv_time	メッセージの受信時刻。
msg_rcv_hour	メッセージの受信時間。
start_execute_time	メッセージから要求されたサービスの起動を開始する時刻。
end_execute_time	サービス起動を終了する時刻。
error_description	サービス起動の失敗に関するエラー詳細。
service_id	ユーザーがアクセスを要求しているサービスの ID。
async_name	ユーザーがアクセスを要求しているサービスの非同期短縮名。
message_size	メッセージのサイズ。
timestamp	メッセージがデータベースに記録される時刻。

TRANS_LOG

表 14-5 メッセージ・ゲートウェイ・アクティビティ・ログ

列名	説明
MESSAGE_ID	各メッセージに固有の、トランスポートによって割り当てられたメッセージ ID。
MESSAGE_TYPE	メッセージのタイプ。受信メッセージの場合は「R」、送信メッセージの場合は「S」などです。

表 14-5 メッセージ・ゲートウェイ・アクティビティ・ログ（続き）

列名	説明
DELIVERY_TYPE	次のような配信タイプ。 <ul style="list-style-type: none"> ■ WAP プッシュ ■ SMS ■ Voice ■ Email ■ Fax ■ 双方向ポケットベル ■ 単方向ポケットベル
REQUEST_INSTANCE_HOST	メッセージが受け取られるトランスポート・インスタンス・ホスト。送信メッセージの場合、これはクライアントのホストです。受信メッセージの場合、これはドライバのホストです。
REQUEST_INSTANCE_ID	メッセージが受け取られる Wireless インスタンス ID。送信メッセージの場合、これはクライアントのインスタンス ID です。受信メッセージの場合、これはドライバが存在するトランスポート・サーバーのホストです。
REQUEST_BEGIN_TIME	メッセージが受け取られる時刻。送信メッセージの場合、これは send メソッドがコールされる時刻です。受信メッセージの場合、これは onMessage メソッドがコールされる時刻です。すべての時刻は、Java システム時間です。
REQUEST_END_TIME	メッセージが受け取られた時刻。送信メッセージの場合、これは send メソッドが返された時刻です。受信メッセージの場合、これは onMessage メソッドが返された時刻です。
HANDLE_INSTANCE_HOST	メッセージがプロセスにデキューされるホスト名。送信メッセージの場合、これはドライバが実行されたホストです。受信メッセージの場合、これはドライバが実行されたホストです。
HANDLE_INSTANCE_ID	メッセージがプロセスにデキューされる Wireless インスタンス ID。
HANDLE_BEGIN_TIME	デキュー・メソッドがコールされる時刻。
HANDLE_END_TIME	メッセージが処理された時刻。送信メッセージの場合、メッセージは送信されます。受信メッセージの場合、メッセージはリスナーによって処理されます。
ENQUEUE_BEGIN_TIME	エンキュー・コールが開始された時刻。
ENQUEUE_END_TIME	エンキュー・コールが返された時刻。
DEQUEUE_BEGIN_TIME	デキュー・コールが開始された時刻。

表 14-5 メッセージ・ゲートウェイ・アクティビティ・ログ（続き）

列名	説明
DEQUEUE_END_TIME	デキュー・コールが返された時刻。
PROCESS_STATUS_CODE	メッセージ処理のステータス・コード。unknown、failed、succeeded、ignored のいずれかです。
PROCESS_BEGIN_TIME	処理コールがコールされた時刻。送信メッセージの場合、ドライバの send メソッドがコールされた時刻です。受信メッセージの場合、リスナーの onMessage メソッドがコールされた時刻です。
PROCESS_END_TIME	処理コールが返された時刻。送信メッセージの場合、ドライバの送信メソッドが返された時刻です。受信メッセージの場合、リスナーの onMessage メソッドが返された時刻です。

システム・ロギング

システム・ロガーによって、ランタイム・プロセスで生成されたラインタイム・デバッグ・ログ情報が記録されます。Wireless サーバーによって、ログ情報が生成され、ログ・ファイルに格納されます。ロギングの様々なレベルおよびログ・ファイル・サイズは、次のようにして構成できます。

サイト・レベルまたはプロセス・レベルで Wireless 管理を使用してシステム・ログ・ファイルを構成するには、次の手順を実行します。

1. ログ・ファイル名パターンの名前を入力します。デフォルトは、**sys_panama.log** です。

このパターンを使用すると、様々なサーバー・プロセスによって生成されたログ・ファイルを識別できます。現在、サポートされているパターンは、<ファイル名>{0}.log のみです。たとえば、sys_panama{0}.log と指定すると、sys_panama<long 型の数値>によるタイムスタンプ >.log という名前のファイルが生成されます。このパターンを使用すると、管理者は、開始タイムスタンプに基づいて様々なサーバー・プロセスに関連するログ・ファイルを識別できます。パターンの設定はオプションです。デフォルトのログ・ファイル名は、**sys_panama.log** です。

Wireless サーバーまたはホストのレベルでは、ログ・ディレクトリは Wireless 管理を使用して指定できます。デフォルトのログ・ディレクトリは、そのオペレーティング・システムのデフォルトの一時ディレクトリです（一般に、Windows の場合は C:\temp で、UNIX の場合は /var/tmp です）。

2. 「最大ログ・ファイル・サイズ」フィールドに、最大ログ・ファイル・サイズ（バイト）を入力します。
3. ログ・レベルを選択します。ログには、「警告」、「エラー」または「通知する」を含めることができます。デフォルトは、「警告」、「エラー」および「通知する」です。

4. 「適用」をクリックします。

注意： システム・ログ・ファイル構成は、サーバーの各インスタンスに固有の構成にできます。インスタンス・レベルで指定しない場合は、サイト・レベル構成にデフォルト設定されます。

よくある質問

この章では、よくある質問（FAQ）を紹介します。次の項目について説明します。

- [Oracle9iAS Wireless サーバー - 一般](#)
- [ツール](#)
- [メッセージング・サーバー](#)
- [非同期サーバー](#)
- [他の Oracle9iAS コンポーネントとの相互作用](#)

Oracle9iAS Wireless サーバー - 一般

この項では、次の質問を紹介します。

- `sys_panama.log` を表示するには、どのようにすればよいですか？
- プロセスを停止するには、どのようにすればよいですか？
- OEM を使用して Wireless サーバー構成を変更しましたが、構成が有効になりません。なぜでしょうか？
- OC4J アプリケーションのコンテキスト・パスを変更するには、どのようにすればよいですか？

sys_panama.log を表示するには、どのようにすればよいですか？

`sys_panama.log` は、次の 2 つの場所から表示できます。

- Webtool のサービス・デザイナまたはコンテンツ・マネージャから表示するには、次の手順を実行します。
 1. マスター・サービスまたはサービスを選択します。
 2. 「デバッグ」ボタンをクリックします。「デバッグ・サービス」画面が表示され、「システム・ログ」テキスト・ペインに `sys_panama.log` が表示されます。ログの後ろから表示する行数を指定し、「ログのリフレッシュ」をクリックできます。
- OEM から表示するには、次の手順を実行します。
 1. 「Wireless サーバー」にドリルダウンします。「Wireless サーバー」タブの「ランタイム」セクションで、「システム・ログ・ファイル」をクリックします。「システム・ログ・ファイル」画面が表示されます。
 2. `sys_panama.log` を見つけ、「ログ・ファイルの表示」アイコンをクリックします。テキスト領域に `sys_panama.log` が表示されます。ドロップダウン・リストから行番号オプションを選択し、「表示」ボタンをクリックします。

プロセスを停止するには、どのようにすればよいですか？

サブレット以外のプロセスを停止するには、次の手順を実行します。

1. OEM にログインし、「Wireless サーバー」にドリルダウンします。
2. 「Wireless サーバー」タブから、「プロセス」セクションでプロセス・タイプをクリックします。「プロセス」画面が表示されます。
3. プロセス行を選択し、「停止」ボタンをクリックします。

サブレット・プロセスを停止するには、次の手順を実行します。

1. OEM にログインし、「OC4J」ページにドリルダウンします。
2. 製品グループ行を選択し、「停止」ボタンをクリックします。

OEM を使用して Wireless サーバー構成を変更しましたが、構成が有効になりません。なぜでしょうか？

新しい構成値を有効にするには、プロセスを再度開始する必要があります。

OC4J アプリケーションのコンテキスト・パスを変更するには、どのようにすればよいですか？

コンテキスト・パスを変更するには、次の手順を実行します。

1. \$ORACLE_HOME/j2ee/Apache/Apache/conf/mod_oc4j.conf 内のマウント・ポイントを変更します。

たとえば、次のマウント・ポイントがあるとしています。

```
Oc4jMount /customization OC4J_portal
```

```
Oc4jMount /customization/* OC4J_portal
```

これを次のように変更します。

```
Oc4jMount /personalization OC4J_portal
```

```
Oc4jMount /personalization/* OC4J_portal
```

2. \$ORACLE_HOME/j2ee/Apache/Apache/conf/wireless_sso.conf 内の、SSO で保護された URL を変更します。

たとえば、次の URL があるとしています。

```
/customization/Login.jsp
```

これを次のように変更します。

```
/personalization/Login.jsp
```

3. \$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_portal/config/server.xml および default-web-site.xml 内のアプリケーション名を変更します。

たとえば、**server.xml** に次の部分があるとしています。

```
<application name="customization" path="$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_portal/
applications/customization.ear" auto-start="true" />
```

これを次のように変更します。

```
<application name="personalization" path="$ORACLE_HOME/j2ee/OC4J_portal/
applications/customization.ear" auto-start="true" />
```

4. **default-web-site.xml** に次の部分があります。

```
<web-app application="customization" name="portal-web"
root="/customization" />
```

これを次のように変更します。

```
<web-app application="personalization" name="portal-web"
root="/personalization" />
```

ツール

この項では、次の質問を紹介します。

- 一部のイメージ（ボタンやタブなど）が UNIX プラットフォームで正常に生成されないのはなぜですか？
- Web ベースの Wireless PDA シミュレータを使用してマスター・サービスまたはサービスをテストするとイメージが損なわれるのはなぜですか？
- ユーザー・ロケールの変更後、Webtool または Wireless Customization 内の一部のイメージが適切な言語で生成されず、四角形として表示されます。これを修正するには、どのようにすればよいですか？
- バージョン 4.7 以下の Netscape を使用していますが、特定のユーザーの優先ロケールで Webtool または Wireless Customization を表示しようとすると、ラベルが四角形として表示されます。ブラウザの設定を変更する必要がありますか？

一部のイメージ（ボタンやタブなど）が UNIX プラットフォームで正常に生成されないのはなぜですか？

UNIX プラットフォームでは、動的に生成されたイメージに対して X サーバーが使用されます。このため、Wireless サーバー・プロセスを開始する前に、環境変数 DISPLAY を設定する必要があります。

X サーバーが同一マシン上で実行されている場合、この UNIX マシンのコンソールにログインしてから、「xhost +」を入力して X サーバーへのアクセスを可能にする必要があります。続いて、次のいずれかの方法で環境変数 DISPLAY を設定します。

- \$ORACLE_HOME/opmn/conf/opmn.xml を変更します。<OC4J> 要素の本体に、
<prop home = "DISPLAY" value = "0.0"/> を追加します。
- opmn プロセスを開始する前に、同じシェル内で「setenv DISPLAY 0.0」を入力します。

X サーバーがリモート・マシン上で実行されている場合は、リモート・マシンへのコンソールにログインする必要があります。「xhost +」を入力して、X サーバーへのアクセスを可能にします。続いて、次のいずれかの方法を使用して環境変数 DISPLAY を設定します。

- \$ORACLE_HOME/opmn/conf/opmn.xml を変更します。<OC4J> 要素の本体に、
<prop home = "DISPLAY" value = "remotemachine:0.0"/> を追加します。

- opmn プロセスを開始する前に、同じシェル内で「setenv DISPLAY remotemachine:0.0」を入力します。

Web ベースの Wireless PDA シミュレータを使用してマスター・サービスまたはサービスをテストするとイメージが損なわれるのはなぜですか？

image_src は Wireless Web サーバーの下の相対 URL パスなので、Wireless Web サーバーがこれらのデバイス・イメージを取得するためには、Wireless Web サーバーが実行されている必要があります。Wireless Web サーバーは、OEM の「OC4J」ページから起動できます。

ユーザー・ロケールの変更後、Webtool または Wireless Customization 内の一部のイメージが適切な言語で生成されず、四角形として表示されます。これを修正するには、どのようにすればよいですか？

jdk/jre/lib/fonts/ ディレクトリをチェックして、次の 5 つのファイルが存在しているかどうかを調べてください。

- ALBANWTJ.TTF
- ALBANWTK.TTF
- ALBANWTS.TTF
- ALBANWTT.TTF
- ALBANYWT.TTF

IAS によりインストールされたデフォルトの JDK には、これらのファイルが含まれている必要があります。

バージョン 4.7 以下の Netscape を使用していますが、特定のユーザーの優先ロケールで Webtool または Wireless Customization を表示しようとすると、ラベルが四角形として表示されます。ブラウザの設定を変更する必要がありますか？

はい、あります。この問題は、Netscape のバージョン 4.7 以下でのみ発生します。Internet Explorer の場合は、正常に表示されます。

1. Netscape のツールバーから、「編集」を選択します。
2. ドロップダウン・メニューから「設定」を選択します。「設定」ダイアログが表示されます。
3. 「カテゴリ」ツリーから、「フォント」を選択して「フォント」ダイアログを表示します。
4. 「フォント」ダイアログで、「文字コードセット」ドロップダウン・リストから「Unicode」を選択します。

5. 「プロポーショナル フォント」および「固定ピッチ フォント」ドロップダウン・リストから、目的の言語をサポートするフォントを選択します。たとえば、目的のロケールが zh_CN の場合、ページを中国語で表示するには「MS Song」を選択します。

メッセージング・サーバー

この項では、次の質問を紹介します。

- [トランスポート・ドライバを構成するには、どのようにすればよいですか？](#)
- [Webtool ではトランスポートを実行中と表示されているのに、メッセージを送信できないのはなぜですか？](#)

トランスポート・ドライバを構成するには、どのようにすればよいですか？

トランスポート・ドライバを構成する場合、次の2つの主要手順があります。

1. ドライバ・メタデータの構成
2. ドライバ・インスタンスの構成

手順 1: ドライバ・メタデータの構成

ドライバ・メタデータを構成するには、次の手順を実行します。

1. Webtool を使用して、(Oracle Enterprise Manager Console からアクセスする) Wireless システム管理の「サイト」タブを選択します。
2. 「メッセージング・サーバー」をクリックします。サイト・レベルのメッセージング・サーバー・プロセスの「詳細」画面が表示されます。
3. 「構成」セクションで、「メッセージング・サーバー・ドライバ」をクリックして「メッセージング・サーバー・ドライバ」画面を起動します。
4. 「ドライバの追加」をクリックします。
5. 「ドライバの追加」画面で、次の値を指定します。
 - ドライバ名
 - デリバリのカテゴリ
 - 機能
 - Driver Class
 - ドライバ・クラスおよびパラメータ

6. 「作成」をクリックします。

注意： メッセージング・サーバー・プロセスを起動するときは、クラスパス内にドライバ・クラスが存在している必要があります。Webtool は、この時点ではそれをチェックせず、実行時に不適切なドライバ・クラスを検出するだけです。ドライバに必要な属性を調べるには、管理者またはドライバ開発者に問い合わせてください。ドライバの適切な実行に必要な情報を提供する必要があります。

手順 2: ドライバ・インスタンスの構成

ドライバ・インスタンスの構成は、ドライバ・メタデータの構成後に行います。

ドライバ・インスタンスを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「Wireless サーバー」タブを選択します。
2. 「プロセス」セクション内の「メッセージング・サーバー」をクリックします。「メッセージング・サーバー・プロセス」画面が表示されます。
3. ドライバ・インスタンスを追加するメッセージング・サーバー・プロセスをクリックします。
4. 選択したメッセージング・サーバー・プロセスの「詳細」画面が表示されます。「構成」セクションで、「ドライバ・インスタンス構成」をクリックします。「ドライバ・インスタンス」画面が表示されます。
5. 「ドライバ・インスタンスの追加」をクリックして、「ドライバ・インスタンスの追加」画面を起動します。
6. ドライバ・インスタンス名を入力します。
7. ドロップダウン・リストから、サイト・レベルで作成したドライバ名を選択します。
8. 「実行」をクリックします。選択したドライバの属性が表示されます。
9. 適切な値を入力します。
10. 「OK」をクリックして、新しいドライバ・インスタンスを完成します。

Webtool ではトランスポートを実行中表示されているのに、メッセージを送信できないのはなぜですか？

トランスポートのステータスが実行中と表示されていてもメッセージを送信できない場合、いくつかの理由が考えられます。

トランスポート・サーバーが実際に実行されているかを確認してください。
「runpanamaserver MESSAGING_SERVER_INSTANCE」
(MESSAGING_SERVER_INSTANCE はインスタンス名) のようなプロセスが見つからない場合、サーバーは実行されていません。「開始」をクリックして、サーバーを起動します。

サーバーが実行されている場合は、**sys_panama.log** ファイル内に、関連するドライバによってスローされた致命的な例外がないかをチェックしてください。そのような致命的な例外が **sys_panama.log** にない場合、ドライバが使用できなくなるような問題が発生したことを意味します。その問題を解決してから、メッセージング・サーバーを再起動してください。

sys_panama.log ファイル内に、関連するドライバによってスローされた致命的な例外がない場合、ドライバが新規に追加されたドライバでないことを確認してください。新規に追加したドライバの場合は、トランスポート・サーバーとクライアントの両方を再起動してください。

それでもメッセージを送信できない場合は、サービス・プロバイダにお問い合わせください (SMS の場合は、SMSC に問い合わせてください)。また、メール・サーバーおよびボイス・ゲートウェイが正常に機能しているかどうかもチェックしてください。メール・サーバーおよびボイス・ゲートウェイが正常に機能しているのに、メッセージを送信できない場合は、オラクル社カスタマ・サポート・センターにお問い合わせください。

非同期サーバー

この項では、次の質問を紹介します。

- [Asynchronous Server Kernel \(ASK\) とは何ですか？](#)
- [ASK サイト・ワイド・アドレスおよびサービス短縮名とは何ですか？](#)
- [ASK サービス指定アドレスとは何ですか？](#)
- [ASK で前提とされる要件は何ですか？](#)
- [ASK サイト・ワイド・アドレスを追加するには、どのようにすればよいですか？](#)
- [ASK 対応サービスを作成するには、どのようにすればよいですか？](#)
- [非同期デバイスから ASK 対応サービスを起動するには、どのようにすればよいですか？](#)
- [ASK ではユーザー・セッションがサポートされますか？](#)
- [ASK からユーザー名およびパスワードのフォームが要求されるのはなぜですか？](#)
- [非同期サーバーのサイト・ワイド・アドレスにリクエスト・メッセージが発行された後に応答がない場合は、何をチェックすればよいですか？](#)

Asynchronous Server Kernel (ASK) とは何ですか？

Asynchronous Server Kernel (ASK) を使用すると、顧客は、SMS、電子メールまたは双方向ポケットベルなどの非同期メッセージングを使用してワイヤレス・サービスにアクセスできます。つまり、SMS メッセージの送信機能はあってもインターネットは使用できない大多数の携帯情報端末で、アプリケーションを使用できることになります。サービスを要求するには、ショート・メッセージを送信します。すると、メッセージが返信として返されます。これで、(WAP 電話、PDA、ブラウザなどの) 同期デバイスから実行した同じアプリケーションを、非同期デバイスからインタラクティブに実行できるようになります。

ASK サイト・ワイド・アドレスおよびサービス短縮名とは何ですか？

サイト・ワイド・アドレスは、ASK へのエントリ・ポイントです。このアドレスは、電子メール・アドレスまたは SMS 電話番号のいずれかです。ASK によって、これらのアドレスに配信されたメッセージが受信され、処理されます。

サービス短縮名は、ASK サービスを識別するサイト全体で一意の名前です。エンド・ユーザーは、メッセージ本体にサービス短縮名を組み込んでサイト・ワイド・アドレスにメッセージを送信し、対応するサービスを起動します。

注意： このリリースでは、サービス短縮名の大 / 小文字は区別されますが、今後のリリースでは区別されなくなります。

ASK サービス指定アドレスとは何ですか？

ASK 対応 (非同期対応) サービスごとに、ユーザーは、オプションでサービスを識別するためのサービス指定アドレスを定義できます。サービス指定アドレスは、非同期サーバーからサービスを検索するためのもう 1 つの方法です。

注意： サービス指定アドレスは、サイト・ワイド・アドレスと同じアドレスにできません。サービス間で一意にする必要があります。

サービス指定アドレスを介してサービスを起動する場合、ユーザーは、そのサービス指定アドレスにメッセージを送信します。ユーザーは、このメッセージの本体にサービスのすべてのパラメータ値を入力します。たとえば、株式サービスを起動する場合、メッセージ本体に (たとえば、ORCL のような) 銘柄記号を入力して、サービス指定アドレス `stock@oraclemobile.com` にそのメッセージを送信します。

ASK で前提とされる要件は何ですか？

ASK では、各種の通信ネットワークは直接に処理されません。ネットワーク・プロトコル詳細の処理と、メッセージ送受信の実行については、メッセージング・サーバーに依存しています。ASK サイト・ワイド・アドレスおよびサービス指定アドレスを割り当てると、それらのアドレスがメッセージング・サーバーに登録されて、ASK にアドレス指定されたメッセージをメッセージング・サーバーが受信するたびに、メッセージは ASK にルーティングされるようになります。このため、ASK サイト・ワイド・アドレスおよびサービス指定アドレスを、メッセージング・サーバーの対応するドライバ・インスタンス構成に追加する必要があります。たとえば、電子メール・ドライバがメール・サーバーからのメッセージを継続的にポーリングできるようにするには、電子メール・アカウント・アドレスを電子メール・ドライバ・インスタンスに追加します。メッセージング・サーバー・ドライバの構成方法の詳細は、[第 12 章「サーバー構成」](#)の「[ドライバ・インスタンスの構成](#)」を参照してください。

ASK サイト・ワイド・アドレスを追加するには、どのようにすればよいですか？

ASK サイト・ワイド・アドレスを追加するには、(Oracle Enterprise Manager Console からアクセスする) Wireless システム管理を使用します。

ASK サイト・ワイド・アドレスを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「サイト」タブを選択します。「サイト」画面が表示されます。
2. 「プロセス」セクションで、「非同期サーバー」をクリックします。「非同期サーバー」画面が表示されます。
3. 「管理」セクションで「非同期サーバー構成」リンクをクリックします。
4. 「非同期サーバー構成」画面の「サイト・ワイド・アドレス」セクションで、SMS と電子メールの両方の配信ネットワークに対してサイト・ワイド・アドレスを割り当てます。変更を有効にするには、非同期サーバーを再起動する必要があります。「非同期サーバー構成」画面の詳細は、[第 12 章「サーバー構成」](#)の「[非同期サーバーの構成](#)」を参照してください。

ASK 対応サービスを作成するには、どのようにすればよいですか？

ASK 対応サービスを作成するには、サービス・デザイナのマスター・サービスの作成ウィザードおよびコンテンツ・マネージャのサービス作成ウィザードを使用します。

マスター・サービスの作成ウィザードの使用

マスター・サービスの作成ウィザードの手順 6「Creating an Asynchronous-Agent Service」に進んだら、「Asynchronous-Agent Enabled」チェックボックスを選択します。ASK によってパラメータ名が該当する値に適切にマッピングされるようにするには、ユーザー入力を必要とするパラメータを、コマンドラインに表示される場合と同じ順序で追加する必要があります。

サービス作成ウィザードの使用

コンテンツ・マネージャを使用して、サービス作成ウィザードの手順 2 で非同期対応マスター・サービスを選択することにより、非同期対応マスター・サービスに基づくサービスを作成します。手順 4 の「Assigning the Asynchronous Agent to the Service」に進んだら、サービスにサイト全体で一意的短縮名を割り当てます。この名前によって、エンド・ユーザーは ASK サービスを識別できます。このサービスを起動する場合、エンド・ユーザーは、件名行またはメッセージ本体にサービス短縮名とパラメータ名を組み込んで、サイト・ワイド・アドレスにそのメッセージを送信します。たとえば、株式サービスにアクセスするには、エンド・ユーザーはサイト・ワイド・アドレス `ask@oraclemobile.com` にメッセージを送信し、件名行またはメッセージ本体のいずれかにサービス短縮名 `stk`、およびパラメータ値 `orcl` を組み込みます。

また、ユーザーは、サイト・ワイド・アドレスではなくサービス指定アドレスにメッセージを送信することでサービスを起動できるように、オプションでサービス指定アドレスをサービスに割り当てることもできます。サービス指定アドレスはサービスを識別するため、ユーザーがメッセージにサービス短縮名を組み込む必要はありません。たとえば、サービス指定アドレスが `stock@oraclemobile.com` のような株式サービスを作成する場合、ユーザーは、件名行またはメッセージ本体にパラメータ（たとえば、銘柄記号 `ORCL` など）を組み込むだけです。

非同期デバイスから ASK 対応サービスを起動するには、どのようにすればよいですか？

非同期デバイスから ASK 対応サービスを起動するには、件名行またはメッセージ本体に短縮名および必須のパラメータ値を組み込んで、ASK サイト・ワイド・アドレスにメッセージを送信します。たとえば、高速道路の特定地域に関する交通情報を提供する交通情報サービスを起動するには、件名行またはメッセージ本体のいずれかに「`tr sfo 101n`」と入力して、そのメッセージを送信します。このサービス（`tr`）では、最初のパラメータとして都市（`sfo`）、2 番目のパラメータとして高速道路（`101n`）が使用されます。これらの各パラメータは、空白文字によって区切ります。

ASK ではユーザー・セッションがサポートされますか？

ASK は、ユーザー・セッションをサポートしています。ASK は、最初のユーザー・リクエストの受信時にユーザー・セッションを作成し、セッションの有効期限が終了しないかぎり、同じデバイスからの後続のリクエストを同じセッションにバインドします。セッションの存続期間（構成可能）のデフォルト値は 600 秒で、Wireless ランタイム・セッション有効期限のデフォルト値と同じです。

ASK は、MobileXML タグもサポートしています。SimpleMenu や SimpleForm のようなこれらのタグを使用すると、会話による対話を必要とする複雑なアプリケーションが使用可能になります。ASK は、すべてのメニューおよびフォーム状態をバックエンド・ユーザー・セッションに格納することでこれを可能にします。ユーザーが受信する各メニュー・メッセージには、各メニュー項目を示す番号の接頭辞が付きます。ユーザーがこれらのメニュー項目を選択するには、メッセージ本体にメニュー番号を入れて返信します。

フォーム・メッセージでは、各パラメータに対するユーザー入力が必要されます。ユーザーは、メッセージ内に区切り文字で区切られたパラメータ値を組み込んで返信します。デフォルトの区切り文字は空白文字です。ユーザーは、フォーム・メッセージに回答せずに別のサービスを起動することにした場合、コマンドを発行する前に、エスケープ・フォーム・コマンド（デフォルト値は !e）を発行する必要があります。エスケープ・フォーム・コマンドを使用すると、ASK によってサービス短縮名はフォームのパラメータ値として解釈されなくなります。

ASK からユーザー名およびパスワードのフォームが要求されるのはなぜですか？

ASK ではユーザー名およびパスワードが要求されますが、これには次のようないくつかの理由があります。

- 非登録ユーザーがパブリック・サービスでないサービスを要求しようとし、Guest グループによるアクセスが不可能になっているため。Anonymous ユーザーは、パブリック・サービスにしかアクセスできません。
- 登録ユーザーが、ユーザー・プロファイルに追加されていないデバイスから、パブリックでないサービスへのリクエストを発行したため。このユーザーは、Wireless ユーザー名およびパスワードを組み込んだメッセージを返信して、これらの権限サービスにアクセスします。
- アプリケーションによってフォーム要求が発行されたため。この場合、ユーザーは、その特定のアプリケーションのユーザー名およびパスワードを入力して、要求に回答します。

注意： ユーザーは、フォーム要求に回答せずに別のサービスを起動する場合、エスケープ・フォーム・コマンド（デフォルト値は !e）を発行する必要があります。エスケープ・フォーム・コマンドを発行するとフォーム状態がクリアされるため、ASK では、別のサービスのユーザー・コマンドはフォームのパラメータ値として解釈されません。

非同期サーバーのサイト・ワイド・アドレスにリクエスト・メッセージが発行された後に応答がない場合は、何をチェックすればよいですか？

非同期サーバーおよびメッセージング・サーバーは、メッセージ配信およびサービス起動に関連する中心的な Wireless コンポーネントです。非同期サーバーのサイト・ワイド・アドレスにリクエスト・メッセージが発行された後に応答がない場合、次のことを実行します。

1. メッセージの宛先アドレスが非同期サイト・ワイド・アドレスと同じであることを確認します。サイト・ワイドの非同期サーバー・アドレスは、「サイト」画面内の「非同期サーバー構成」ハイパーリンクをクリックするとわかります。

2. 非同期サイト・ワイド・サーバー・アドレスが、メッセージング・サーバーの対応するドライバ・インスタンス内で適切に構成されていることを確認します。**sys_panama.log**をチェックして、起動段階または送受信段階で対応するドライバからスローされた例外があるかどうかを調べます。多くの場合、メッセージング・サーバーから非同期サーバーにメッセージが配信されていないときは、**sys_panama log** 内に「fail to enqueue a received message」というログ行が存在します。通常、メッセージング・サーバーから非同期サーバーにメッセージが配信されない場合、次のいずれかが原因です。
 - サイト・ワイド・アドレスの追加または変更後に、非同期サーバーが再起動されていないため。
 - 非同期サーバー構成で指定された非同期サイト・ワイド・アドレスが、メッセージング・サーバーのドライバ・インスタンスで構成されているアドレスと異なっているため。
 - 非同期サーバーが実行されていないため。
3. メッセージ送信先のネットワーク（電子メールまたは SMS）に対してアクティブでないメッセージング・サーバー・ドライバ・インスタンスが構成されているかどうかをチェックします。現在テスト中のネットワーク・タイプをサポートするドライバ・インスタンスは複数存在することがあります。同じネットワーク・タイプをサポートするドライバ・インスタンスを複数設定するのは、ロード・バランシングのためです。アクティブでないドライバ・インスタンスにメッセージがルーティングされた場合、この問題が発生します。たとえば、送信電子メールは、各ドライバで設定された基準に基づいて PushDriver または EmailDriver ドライバ・インスタンスのいずれかにルーティングされます。PushDriver と EmailDriver が電子メール・ネットワーク・タイプをサポートしていても、PushDriver が有効な URL を示す構成になっていないと、そのドライバ・インスタンスに送信された送信メールが配信されません。

これをチェックするには、次のことを実行します。

 - a. 「サイト」タブから、「メッセージング・サーバー」をクリックします。
 - b. 「メッセージング・サーバー・プロセス」表から、各プロセス・リンクをクリックして、メッセージング・サーバー・プロセスによりサポートされるドライバ・インスタンスを見つけます。現在テスト中のネットワーク・タイプをサポートするドライバが複数存在するかどうかをチェックします。すべてのドライバがメッセージを配信するために適切に構成され、起動されていることを確認します。未使用のドライバを削除します。ドライバ構成を確認するには、次の手順を実行します。
 - 「Wireless サーバー」タブから、「プロセス」セクション内の「メッセージング・サーバー」をクリックします。
 - メッセージ・サーバー・プロセスをクリックします。そのプロセスの「詳細」画面が表示されます。
 - 画面の「構成」セクションで、「Driver Configuration Instances」をクリックします。

他の Oracle9iAS コンポーネントとの相互作用

この項では、次の質問を紹介します。

- **Apache** サーバーのホスト名またはポート番号が変更された場合、何を構成する必要がありますか？

Apache サーバーのホスト名またはポート番号が変更された場合、何を構成する必要がありますか？

1. `opmn.xml` を、OC4J インスタンスが実行されているホスト名およびポート番号を示すように変更します。
2. WebCache サーバーを再構成します。詳細は、WebCache サーバー構成のドキュメントを参照してください。
3. Oracle Portal を再構成します。詳細は、Oracle Portal サーバー構成のドキュメントを参照してください。
4. OEM を再構成します。詳細は、OEM 構成のドキュメントを参照してください。
5. スクリプト `$ORACLE_HOME/wireless/sample/portalRegistrar.sh`（または `portalRegistrar.bat`）を再実行して、Wireless Web サーバーの URL を再登録します。
6. Webtool プロバイダおよび Customization プロバイダを Oracle Portal に登録します。
7. OEM にログインし、「Wireless サーバー」にドリルダウンします。
8. 「サイト」タブを選択し、「構成」セクション内の「URL」をクリックします。
9. 各ファイルの URL 値を入力し、「OK」をクリックします。
10. 「Wireless Webtool のための Oracle Portal プロバイダの登録」をクリックします。
11. 適切な値を入力し、「OK」をクリックします。
12. 「Wireless Webtool のための Oracle Portal プロバイダの登録」をクリックします。
13. 適切な値を入力し、「OK」をクリックします。

注意： OPMN と SSO の両方が自動的にインストールされるように、必ず Oracle Universal Installer を使用して Apache をインストールしてください。

用語集

Adapter Result 形式 (Adapter Result format)

ユーザー・インタフェースに依存しない汎用のコンテンツ形式。Adapter Result 形式のコンテンツは、最終ターゲット形式に変換する前に Simple Result 形式に変換する必要がある。

DOM インタフェース (DOM Interface)

Document Object Model。プログラムおよびスクリプトが、処理された XML ドキュメントにアクセスし、それを変換できるようにするインタフェース。

DTD

Document Type Definition。ドキュメントを表すアプリケーションにより XML ドキュメントが解釈される方法を定義した XML ドキュメント内のファイル。

Enterprise Manager Daemon (EMD)

Enterprise Manager Daemon は、様々なコンポーネント・メトリックを処理し、コンポーネントに固有の HTML ページにそれらを表示する。EMD は、Oracle9i Application Server とともにインストールされる。

HDML

Handheld Device Markup Language。ワイヤレス・ポケットベル、携帯電話およびその他の携帯端末から Web ページ・コンテンツへのアクセスが可能になるように設計された HTML の縮小バージョン。

HTML

HyperText Markup Language。ページ・レイアウト、フォントおよびグラフィック要素や、Web 上の他のドキュメントへのハイパーテキスト・リンクを定義するドキュメント形式。

HttpAdapter

HttpAdapter は、外部 HTTP/HTTPS URL からモバイル XML コンテンツをフェッチする。携帯情報端末にかわって（モバイル XML を解釈する）プロキシ・サーバーとして機能する。

IANA

Internet Assigned Numbers Authority。インターネット全体で新しい IP アドレスを ISP に割り当てる組織。

IMAP

Interactive Mail Access Protocol。メールの格納および取得の階層構造。

JNDI

Java Naming and Directory Interface。Java アプリケーションにディレクトリおよびネーミング機能を提供する API のセット。

JSP

JavaServer Pages。Web ページ・レイアウトとコンテンツ生成の機能を分離する、Java サーブレットに基づくテクノロジー。JavaServer Pages テクノロジーを使用すると、動的コンテンツを統合するサーバー生成による Web ページの作成が可能になる。

LDAP

Lightweight Directory Access Protocol。ディレクトリにアクセスするためのプロトコル。LDAP プロトコルは、TCP/IP をサポートする。

MIME

Multipurpose Internet Mail Extensions。異なる 8 ビット・キャラクタ・セットおよびマルチパート・メッセージのメッセージ構造を定義するメール・タイプ。

PIM

Personal Information Management。Wireless には、カレンダー、アドレス帳およびディレクトリなどの事前構成済 PIM モバイル・サービスが含まれる。

Result トランスフォーマ (result transformer)

コンテンツを Adapter Result 形式から Simple Result 形式に変換するトランスフォーマ。

RMI

Remote Method Invocation。リモート・オブジェクトを作成し、コールするための標準。RMI を使用すると、ネットワークに格納されている Java コンポーネントをリモートから実行できる。

Simple Result 形式 (Simple Result format)

テキスト項目、メニュー、フォームおよび表などの抽象的なユーザー・インタフェース要素が含まれるコンテンツ形式。

SQL アダプタ (SQL adapter)

JDBC 対応データ・ソースからコンテンツを取得して適応させるアダプタ。

Thin HTML

スタータ Wireless リポジトリ内にトランスフォーマによって実装される HTML の最小バージョン。Thin HTML には、フレーム、JavaScript およびその他の拡張機能のサポートは含まれない。

TTML

Tagged Text Mark-up Language。ほとんどの PDA に適した HTML の軽量バージョン。

VoxML

アプリケーションとのインタフェースにボイスの使用を可能にするマークアップ言語。

WAP

Wireless Application Protocol。Motorola 社、Ericsson 社および Nokia 社が策定した、電子メールおよびテキスト・ベースの Web ページを携帯電話に提供するためのワイヤレス標準。WAP では、Wireless Markup Language (WML) が使用される。

WebDAV

World Wide Web Distributed Authoring and Versioning。リモート・ユーザーがインターネット上で共同でファイルを管理できるようにする、HTTP プロトコルの拡張機能セット。

Web 統合アダプタ (Web Integration adapter)

WIDL ファイルを使用して Web コンテンツを取得および適用し、ソース・コンテンツを Wireless XML にマッピングするアダプタ。

WIDL

Web Interface Definition Language。Web ベースのデータおよびサービスへのインタフェースを定義するメタデータ言語。WIDL を使用すると、互換性のあるアプリケーションから自動的かつ構造化された Web アクセスが可能になる。

WIDL ファイル (WIDL file)

Wireless サービスでできるようにするソース・コンテンツと、入力パラメータおよび出力パラメータとを関連付ける、Web Interface Definition Language で記述されたファイル。

WML

Wireless Markup Language。コンテンツを携帯情報端末に配信するために最適化されたマークアップ言語。

XML

eXtensible Markup Language。コンテンツ開発者によるタグの定義を可能にするフレキシブルなマークアップ言語。ほとんどすべてのデータ項目のタグは、特定のアプリケーション内で作成して使用できるため、Web ページはデータベース・レコードのような役割を果たすことができる。

XSLT

Extensible Stylesheet Language Transformations。ある XML DTD を別の XML DTD に変換するための言語。

アダプタ (adapter)

Web サイトやデータベースなどの外部ソースからコンテンツを取得し、そのコンテンツをモバイル XML に変換する、動的にロードされる Java クラス。

エンド・ユーザー (end user)

クライアント・デバイスから Wireless サービスにアクセスするユーザー。

コア (core)

Wireless リポジトリおよびサービス・リクエストを管理する Wireless コンポーネント。

コンテンツ・マネージャ (Content Manager)

Wireless サービスを作成するためのビジュアル・インタフェース。Oracle Collaboration Suite では、モバイル・サービスの入力パラメータを編集する場合、コンテンツ・マネージャを使用する。

サービス (service)

Wireless サーバー内で使用されるコア・オブジェクト。Wireless クライアントから要求されて Wireless クライアントに配信される情報のユニットを表す。通常、サービスは、エンド・ユーザーには、デバイス上のメニュー項目または Web ページ上のリンクとして表示される。

サービス・デザイナー (Service Designer)

Wireless ユーザー、ユーザー・グループ、アダプタ、トランスフォーマおよびマスター・サービスを作成し、管理するためのビジュアル・インタフェース。

サンプル・リポジトリ (sample repository)

トランスフォーマ、アダプタおよびロジカル・デバイスなど、事前構築されたオブジェクトが含まれる初期 Wireless リポジトリ。

スタイルシート (stylesheet)

XML ドキュメントのコンテンツ表示を実装する eXtensible Stylesheet Language Transformations (XSLT) インスタンス。Wireless トランスフォーマは、XSLT スタイルシートまたは Java プログラムのいずれかである。

ソース形式 (source format)

Wireless アダプタによって外部データ・ソースから取得されたコンテンツのオリジナル形式。たとえば、Web ページ・コンテンツのソース形式は HTML である。

ターゲット形式 (target format)

データを特定タイプのクライアント・デバイスに配信するために必要な形式。

デーモン (daemon)

特定のイベントに応答して、あるいは特定の時間に、指定された操作を実行するバックグラウンド・プロセス。

デバイス・トランスフォーマ (device transformer)

コンテンツを Simple Result 形式からターゲット形式に変換するトランスフォーマ。

デバイス・ポータル (Device Portal Access)

エンド・ユーザーがサービスの選択とデバイス・ポータルの構成を行うためにアクセスする Web ベースのインタフェース。

トランスフォーマ (transformer)

Wireless アダプタによって返されたコンテンツを変換する Wireless オブジェクト。Result トランスフォーマは、Adapter Result ドキュメントを Simple Result ドキュメントに変換する。デバイス・トランスフォーマは、Simple Result ドキュメントをターゲット形式に変換する。

非同期対応サービス (Asynchronous-enabled service)

Asynchronous Server Kernel (ASK) サービスとも呼ばれる。非同期対応サービスを使用すると、顧客は、SMS、電子メールまたは双方向ポケットベルなどの非同期メッセージングを使用してワイヤレス・サービスにアクセスできる。その結果、ユーザーは、インターネット対応でないデバイスを使用していても、ワイヤレス・サービスにアクセスできる。

フィルタリング (filtering)

既存のマークアップ・タグを別の形式を表すタグで置き換えて、コンテンツを変換するプロセス。

マスター・サービス (master service)

サービスのコア実装。マスター・サービス・オブジェクトは特定のアダプタを起動し、ターゲット・デバイスのコンテンツ変換に使用されるトランスフォーマを識別する。

モバイル XML (Mobile XML)

Wireless によってコンテンツおよび内部オブジェクトの定義に使用される DTD および XML ドキュメントのセット。

モバイル・サービス (mobile service)

モバイル・ユーザーがデバイスから、または別のアプリケーションから呼び出すことのできる事前構成済のサービス。

ユーザー・エージェント (user agent)

エンド・ユーザーをデバイス・タイプに関連付けるオブジェクト。

ユーザー・グループ (user group)

インタレスト、サブスクリプション・レベルまたは地理的ロケーションなどの共通の基準に基づいてグループ分けされたユーザーのセットを表す Wireless オブジェクト。

リクエスト (request)

目的の Wireless サービスを開始するための問合せ。リクエストは、エンド・ユーザーにかわって Wireless サーバーに発行される。

リクエスト・オブジェクト (request object)

サービスのリクエストを表す XML ドキュメント。

リクエスト・マネージャ (request manager)

サービスのリクエストを処理する Wireless コンポーネント。リクエスト・マネージャはユーザーを認証して、リクエストを Wireless コアに発行し、デバイス・タイプおよび表示設定を取得する。また、リクエスト・マネージャは変換されたコンテンツをトランスフォーマーからユーザーに転送する。

リポジトリ (repository)

ユーザー、グループ、アダプタおよびサービスなどのすべての Wireless オブジェクトが格納される Oracle9i データベース。

ロジカル・デバイス (logical device)

携帯電話などの物理デバイスか、または電子メールなどのアプリケーションを記述するオブジェクト。各ロジカル・デバイスにデフォルトのデバイス・トランスフォーマーが存在する。

索引

A

Anonymous ユーザー, 9-4

O

Oracle Applications 構成, 12-42

P

PIM 通知ディスパッチャ・プロセス
開始と停止, 3-5, 11-4
構成, 3-7, 12-9
作成と削除, 3-4, 12-8

S

SSL 構成, 12-41

U

URL 構成, 12-36

W

WAP プロビジョニング構成, 12-32
WebCache サーバー構成, 12-30
Wireless Web サーバー
サイト全体にわたるパフォーマンス・メトリック,
13-11
Wireless Web サーバー・プロセス
パフォーマンス・メトリック, 13-3
Wireless システム管理
OEM から管理機能へのアクセス, 10-2
Wireless リポジトリ, 6-5

い

イベントおよびリスナーの構成, 12-12

お

オブジェクト・キャッシュ同期構成, 12-42

く

グローバルゼーション
Oracle ログの変更, 5-7
ボイス・アプリケーションのローカライズ, 5-5
グローバル・プロセス・フラグ
オンとオフの切替え, 12-26

け

言語を表示するための Netscape 4.7（またはそれ以下）
の構成, 9-11

こ

コンテンツ・キャッシュ構成, 12-43
コンテンツ・マネージャでのオブジェクトの移動,
8-14
コンテンツ・マネージャの検索機能, 8-4

さ

サイト・ロケール構成, 12-28

し

システム・ロギング構成, 12-28
システム・ログ・ファイル
表示, 11-5

つ

通信デバイス
FAX 番号の追加, 3-13
PDA 番号の追加, 3-14
携帯電話番号の追加, 3-13
削除, 3-16
追加, 3-13
電子メール・アドレスの追加, 3-13
電話番号の追加, 3-14
編集, 3-14
ポケットベル番号の追加, 3-14

て

デバイス構成, 12-29

と

ドライバ・インスタンス
サーバー・レベルでの構成, 12-5
メッセージング・サーバー・プロセスへの追加,
12-5

は

パフォーマンス・モニター・プロセス
開始と停止, 11-4
サイトでの構成, 12-23
削除, 12-7
作成, 12-6

ひ

非同期サーバー
サイト構成, 12-17
メッセージング・サーバー構成, 12-18
ワーキング・スレッド構成, 12-18
非同期サーバー・プロセス
サイト全体にわたるパフォーマンス・メトリック,
13-12

実行ステータスの表示, 12-2
パフォーマンス・メトリック, 13-6

ふ

フォルダ表示構成, 12-10
ブックマーク, 8-2
プロキシ・サーバー構成, 12-27
プロセス属性構成, 12-10

め

メッセージング・サーバー・クライアント
サイト・レベルでの構成, 12-37
メッセージング・サーバー・プロセス
開始と停止, 11-3
サイト全体にわたるパフォーマンス・メトリック,
13-14
サイト・レベルでの構成, 12-21
削除, 12-3
作成, 12-3
パフォーマンス・メトリック, 13-8

も

モバイル・サービス
構成ページの入力, 8-12
コンテンツ・マネージャでの編集, 8-6
削除, 8-12
デバッグ, 8-13
電話シミュレータ上でのテスト, 8-13
入力パラメータの編集, 8-9
非同期エージェントの編集と割当て, 8-11

ゆ

ユーザー
アクティビティ・ログの表示, 9-7
作成, 9-10
ユーザー情報の表示, 9-7
ユーザー・プロファイルの編集, 9-11
ユーザー・グループ
削除, 9-12
作成, 9-12
編集, 9-12
ユーザー・プロビジョニング構成, 12-40
ユーザー・マネージャ

概要, 9-2
ログイン, 9-5
ユーザー・マネージャの検索機能, 9-6
ユーザー・ロール, 9-2

ら

ランタイム構成, 12-29

れ

連絡ルール

Web アプリケーションからの選択, 3-16
削除, 3-12
作成, 3-9
説明, 3-8
追加, 3-11
デバイスからの選択, 3-17
非同期サービスからの選択, 3-19
編集, 3-12
ボイス・アプリケーションからの選択, 3-21

ろ

ロギング・ディレクトリ構成, 12-25
ロケールの検出
Accept-Language ヘッダー, 5-2
PAlocale, 5-2
ロジカル・デバイス
エラー・ページの作成, 7-12
エンコーディングの決定, 5-4
基本情報の入力, 7-8
検索, 7-7
削除, 7-12
作成, 7-7
デバイス属性の設定, 7-10
トランスフォーマの選択, 7-9
変更, 7-12
ユーザー・エージェントの追加, 7-9
ログイン・ページの作成, 7-11

